法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-09

法政大學講義録

山崎，覺次郎 / 梅，謙次郎 / 岡田，朝太郎 / 横田，秀雄 / 田中，遜 / 清水，澄

(出版者 / Publisher)
法政大學
(巻 / Volume)
22
(号 / Number)
1学年の8
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
92
(発行年 / Year)
1906-06-05

三十九年度

法政大學講義錄

第二十二號

法政大學發行

（明治三十八年十一月九日第三種郵便物認可
毎月三回 五日、十五日、二十五日發行）

明治三十九年六月五日發行

（第壹學年ノ八）

0347

三十九年度第二十二號目次

憲法（自一四七至一六二）　法學博士　清水澄

民法物權（第一部）（自一四九至一七二）　法學士　横田秀雄

民法債權（自一八九至一一二）　法學博士　梅謙次郎

刑法總論（自一二一至一五六）　法學博士　岡田朝太郎

經濟學（自一一一至一六三）　法學博士　山崎覺次郎

羅馬法（自一八八至一九二）　ドクトエール、アンドロリー　田中遜

雜錄　○大審院判例要旨

表紙及ヒ目次　一〇頁

090
1906
1-1-8

ニ供スルコトヲ要ス若シ選擧人ニ於テ選擧人名簿ニ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及ヒ證憑ヲ具ベテ之ヲ郡、市町村長ニ申立ツルコトヲ得正當ノ事故ニ因リ衆議院議員選擧法第一九條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ人名簿ニ登錄セラレサルトキ亦同シ併シ期限經過後ニ於テハ之ヲ爲スヲ得サルナリ又郡、市長カ以上ノ申立ヲ受ケタルトキハ眞理由及ヒ證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ決定スヘク若シ其申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直チニ名簿ヲ修正シ其旨ヲ申立人及ヒ關係人ニ通知シ竝ニ其要領ヲ告示スヘキナリ

其郡、市長ノ決定ニ不明アルトキハ郡、市長ヲ被告トシ決定ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ地方裁判所ニ出訴スルヲ得此判決ニ對シテハ大審院ニ上告シ得ルモ控訴スルヲ得ス

名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定スルモノニシテ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ縱令事實ニ於テ資格ヲ與フルモ投票スル權ナシ是レ確定名簿ノ效力ナリ

名簿確定後ハ新ニ選擧權ヲ取得シタルト又確定後資格ヲ失ヒタルト或ハ全ク名簿ニ誤脫セラレタルモノトヲ問ハス確定判決ニ依ルノ外ハ名簿ヲ修正スルコトナシ

尙ホ其確定マテノ期日ヲ明示スレハ左ノ如シ○

十月一日　選擧人資格調査期日

十月五日　納稅證明屆期日

十月十五日　町村長ヨリ郡長ヘ進達期日

十月三十一日　市長ノ名簿調査期日及ヒ郡長ヨリ町村長ヘ副本返付期日

自十一月五日至十一月十九日　縱覽期限（修正申立期限）

0348

十二月八日マテ　申立ニ對スル決定期限
十二月十四日マテ　出訴期限
十二月二十日　確定

參照　選擧人名簿登錄ノ有選擧權者(三十六年統計)

市　部	六二、二二一
郡　部	八八五、二三〇
島　嶼	二、七二〇
區　部	一、六八九
合　計	九五一、八六〇

第二項　選擧區及ヒ議員ノ配當

選擧區ハ一國ヲ多クノ區畫ニ分割シテ議員ノ全數ヲ之ニ配當シ以テ各其部分ヨリ議員ヲ選出セシメントスルカ爲メ設ケタルモノナリ理論上選擧區ヲ設ケスシテ全國ノ投票ヲ集メテ當選者ヲ定ムルハ極メテ至當ナリト雖モ甚タ狹小ナル國ヲ除クノ外實行ニ於テ困難ナルニ由リ殆ト何レノ國ニ於テモ選擧ノ便宜ノ爲メ選擧區ヲ設ケサルナシ我選擧法第一條ニ於テモ「衆議院議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス」ト規定シテ以テ選擧區ヲ設クルコトトセリ然レトモ議員ナルモノハ選擧區ヲ代表スルモノニ非サルニ由リ我選擧法第七條ニハ「行政區畫ノ變更ニ因リ選擧區ニ異動ヲ生スルモ現在議員ハ其職ヲ失フコトナシ」ト規定シ以テ一旦議員ト爲リタル以上ハ選擧區ノ變更ノ爲メ其地位ヲ失ハサルモノトセラレタリ此選擧區ノ定メ方ニ付テハ其區域ノ大小ニ從ヒテ大選擧區制ト小選擧區制トノ別アリ小選擧區制トハ一區内ヨリ一名乃至二名ノ議員ヲ出スヘキ限度ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリト雖モ大選擧區ノ制度ハ一區域内ヨリ數名ノ議員ヲ出シ得ヘキ範圍ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリ今其利害ヲ考フルニ大選擧區ノ制ヲ執ルトキハ投票調査ノ手數ヲ煩雜ニ爲サシムルノミナラス一人ノ議員ヲ缺クモ大ナル全選擧區ノ選擧人ヲシテ投票セシメサルヘカラサルノ缺點アリト雖モ小選擧區制ヲ執ルトキハ議員トシテノ適材ヲ得ルコト困難ナルノミナラス賄賂脅迫等ノ不正ナル結果ヲ生シ易キニ由リ比較的大選擧區制ヲ以テ勝ルモノト論定セサルヲ得ス是レ我國ニ於テ小選擧區制ヲ改メテ大選擧區制ヲ用フルニ至リタル所以ナリ即チ從來ハ數郡若クハ郡市ヲ合シテ一選擧區ト爲シタルモ現行法ハ府縣ヲ以テ選擧區ト爲スヲ原則ト爲シ唯之ニ例外トシテ市及ヒ島嶼ニ限リ之ヲ獨立ノ選擧區ト爲スコトトセリ市ヲ獨立ノ選擧區ト爲シタルハ被選擧者ノ資格ノ要件農民ニ利アルカ爲メ商工業者ヨリモ議員ヲ出サシメントスルノ目的ニ出テタルモノニシテ人口三萬人以上ノ市ヲ獨立選擧區ト爲スコトトセリ而シテ今日獨立選擧區ト爲ラサル市ナシ又島嶼ニシテ獨立ノ選擧區ト爲サレタルハ重要ナル島嶼ニシテ而モ遠隔ナル島嶼ニ限ラルルモノニシテ投票調査ノ便宜上ヨリ來ルモノナリ

各選擧區ニ配當セラレタル議員ノ員數ハ明治三十三年選擧法改正ト同時ニ別表ヲ以テ之ヲ定メ明治三十五年法律第三八號第三九號ヲ以テ之ニ改正ヲ加ヘ次ノ如ク爲シタリ

	選擧區ノ數	議員ノ數
府縣(市ヲ除ク)	四五	二九六
市	五三	七三

0349

島嶼	四	四
北海道 区	三	三
北海道 郡	三	三
沖縄	一	二
計	一〇九	三八一

（右ノ中北海道郡部三人、沖縄縣ノ二人ハ未施行ニ在ルヲ以テ現在ノ議員ノ員數三百七十六人ナリ）

此員數ハ其選擧區内ノ人口ヲ標準トシタルモノニシテ人口十三萬人毎ニ一人ヲ配當シ其端數ハ四捨五入ノ法ニ依ル但十箇年間ハ選擧區ノ人員ニ增減アルモ之ヲ動カササルコトトセリ

市ハ之ヲ獨立ノ選擧區ト爲スヘキモノナルヤ現行ノ選擧法ニ於テ市ヲ獨立選擧區ト爲シタルハ一ハ英國ニテハ市部選出ノ議員郡部選出ノ議員ニ匹敵シ墺國ニテハ中市及ヒ各商業會議所ハ各獨立ノ階級トシテ議員ヲ選出シ獨逸中ノ索遜ニテハ市部ヲ獨立ノ選擧區トシ市部ノ議員ハ郡部ノ議員ノ三分ノ一ト爲シタルノ例ニ依レリト雖モ尙ホ一ハ地租ト他ノ直接國稅トヲ我選擧人ノ資格上同額ニ爲シタルノ結果選擧人ノ數農民ニ偏多ト爲ルヲ免レサルニ由リ之ヲ防クカ爲メナリ是ニ於テ小選擧區制ヲ改メテ大選擧區制ト爲シタルニ拘ハラス特ニ市ニ就テ例外ヲ爲シタルノ必要アリヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得ス元來大選擧區單記投票ノ制ヲ採用シタルハ少數代表ノ目的ヲ達センカ爲メニシテ商工業者ヨリ議員ヲ出スノ目的ハ之ニ依リテ遂ケラルヘシ然リト雖モ茲ニ指定シタル如ク大選擧區單記投票ノ制ヲ用フルモ我國ニテハ地租ト直接國稅トノ間ニ其額ノ上ニ權衡ヲ得サルカ爲メ特ニ市ヲ獨立ト爲スノ必要アリト言ハハ寧ロ其本ヲ正シテ地租十圓、他ノ直接國稅三圓ト爲スヘキナリ然ルニ之ヲ爲サスシテ一方ニ少數代表ノ選擧制ヲ採用シテ尙ホ市ヲ獨立ノ選擧區ト爲スハ實ニ矛盾ノ甚シキモノニテ立法者ノ意思殆ト何レニ在ルヤヲ解スルヲ得サルナリ

第三項　投票

選擧ハ必スシモ投票ニ依ラサルヘカラサルモノニ非スト雖モ多クノ國ニ於テハ投票ヲ以テ選擧ヲ行フコトト爲シ我國モ亦選擧法ニ於テ選擧ハ投票ヲ以テ行フト規定セリ蓋シ選擧人多キトキハ此方法ニ依ルヲ便利ナリトスレハナリ投票ノ記載ノ方法ニ依リ記名投票及ヒ無記名投票若クハ單記投票及ヒ連記投票ノ區別アリ今此種類ヲ略說スレハ

第一　單記投票及ヒ連記投票　連記投票トハ選擧區内ノ議員ノ全數ノ候補者ヲ投票ニ記載セシムルモノニテ單記投票トハ選擧區ノ議員ノ數ノ多寡ニ拘ハラス投票ニハ單ニ一人ノ候補者ノミ記載セシムルモノヲ謂フ此連記投票ハ第一ニ選擧人ノ間ニ投票ヲ行フ上ニ於テ不公平ナル結果ヲ生セシムルノミナラス尙ホ前ニ述ヘタル少數代表ノ弊ヲ導クモノナリ故ニ我國ニ於テハ前選擧法ニ連記投票ノ制ヲ採用セシモ今日ハ之ヲ單記投票ノ制ニ改メタルナリ固ヨリ單記投票ニ於テハ少數ノ人ニ投票集中スルトキハ定數ノ議員ヲ得ルコト能ハスシテ幾回モ選擧ヲ繰返ササルヲ得サル結果ヲ生スト雖モ此ノ如キ結果ヲ生スルハ甚タ稀ナル事ニ屬スルニ由リ此點ニ顧慮スルコトナク單記投票ノ制ヲ取リタルナリ

第二　記名投票及ヒ無記名投票　記名投票トハ投票中ニ候補者ノ氏名ノ外ニ選擧人ノ氏名ヲ記載セシムルモノニテ無記名投票トハ候補者ノ氏名ノミヲ投票ニ記載セシムルモノヲ稱ス單ニ理論上ヨリ論ス

0350

ルトキハ選擧ハ記名投票ニ依ルヲ可トス蓋シ選擧ナルモノハ公法上ノ職務ニシテ選擧人ハ十分ノ責任ヲ以テ之ヲ行フカ爲メ其氏名ヲ明カニ記載スヘキモノナレハナリ然レトモ現今選擧人ノ德義ノ程度低ク賄賂脅迫其他選擧ヲ爭フ候補者ノ運動ノ爲メ其意思ヲ動カサルルノ虞アルニ由リ選擧人ノ意思ノ自由ヲ保證スルカ爲メニハ無記名ノ方法ヲ用ヒサルヲ得サルナリ是レ今日ノ現行法ニ於テ前選擧法ノ記名投票ヲ改メテ無記名投票ト爲シタル所以ナリ其結果トシテ何人ト雖モ選擧人ノ投票シタル被選人ノ氏名ヲ陳述スルノ權利及ヒ義務ナキモノトス尙ホ我制度上投票ニ通スル重ナル原則ヲ擧クルトキハ

一　投票ハ一人一票ニ限ルモノトス　一人一票ノ原則ハ何レノ國ニ於テモ總テ然ルモノニ非スシテ白耳義ノ如キ一人ニシテ三票マテノ投票ヲ行フコトヲ得ルノ制ナキニ非サルナリ白耳義ニ於テハ滿二十五歲ニ達シタル男子ハ總テ選擧權ヲ有スルモノニテ尙ホ其他滿三十五歲以上ニシテ妻ヲ有スルカ若クハ子ヲ有スル者ニテ家屋ニ付キ五「フラン」以上ノ國稅ヲ納ムル者及ヒ滿二十五歲以上ニシテ二千「フラン」以上ノ價アル不動產ヲ有スルカ又ハ二千「フラン」以上ノ公債若クハ貯金ヲ有スル者ニシテ一箇年百「フラン」以上ノ收入アル者ハ更ニ一箇ノ添加投票權ヲ有ス又滿二十五歲以上ニシテ中學ノ程度以上ノ敎育ヲ受ケタル者又ハ公務、私務ニ從事シ若クハ從事シタルカ爲メ中學以上ノ敎育程度アル者ト認メラルル者ハ二票ノ添加投票ヲ付與セラル而シテ一人ニシテ三票以上ヲ行フコトヲ得スト定メラレタリ

此複數投票ノ制度ハ千八百九十三年始メテ白耳義ニ於テ行ハレタルモノニテ他ニ類似ヲ見サルノミナラス投票及ヒ其調査ノ手續煩雜ナルニ由リ理論上宜キヲ得サルニ非サルモ我國ニテハ一人一票ノ制ヲ取ルコトトセルナリ故ニ我國ニテハ一人ニシテ二箇處以上ノ選擧人名簿ニ登錄セラレ二種ノ投票ヲ爲シタルトキハ生活ノ中心ナラサル土地ニ於テ爲シタル投票ハ無效タルモノトセラレタリ

二　投票ハ自ラ行フヘキモノナリ　貴族院伯子男爵及ヒ多額納稅者議員ノ選擧ニハ異例トシテ投票ヲ他人ニ委託スルコトヲ許シタルモ衆議院ノ選擧ニハ之ヲ許ササルナリ

三　被選人ノ名ヲ自ラ記ササルヘカラス　此規定ハ前選擧法ニ於テ存在セサリシモ現行ノ選擧法ニ於テ新ニ之ヲ設ケタリ其之ヲ設ケタル理由ハ一ハ之ヲ以テ全ク無筆ナル者即チ敎育ノ程度極メテ低キ者ノ投票ヲ制限スルニ在リト雖モ尙ホ一ノ理由ハ無記名投票ノ制ニ改メタル結果必要ナレハナリ

四　一定ノ投票用紙ヲ用ヒサルヘカラス　是レ理論上必スシモ然ラサルヘカラサルモノニ非スト雖モ選擧資格ナキ者ノ投票若クハ選擧人ノ意思ニ非サルノ投票ヲ防クカ爲メナリ而シテ我選擧法ハ投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニテ選擧人ニ渡スヘキモノトセリ

五　投票ハ投票所ニ於テ行フヲ要ス　此投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ指定シタル場所ニ設ケラルルモノナリ

六　定時間外ニ投票スルヲ得ス　我選擧法第三三條ニハ「投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ」トアリ故ニ此時間以外ニ投票所ニ至ルトキハ投票スルヲ得サルモノナリ選擧人多キカ爲メ其時間內ニ投票所ニ至リタルモ投票スルヲ得サルトキハ此時間外ニ投票シ得ルハ勿論ナリ

七　選擧人名簿ニ記載セラレサル者ハ名簿ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持スル者ノ外投票スルコトヲ得ス　是レ選擧人名簿ニ關スル制度ヲ設ケタルノ結果ナリ故ニ選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ至リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘク又投票管理者カ其投票ヲ爲サントスル選擧人ノ本人ナルヤ否ヤヲ確證スルヲ得サルトキハ本人ナル旨ヲ宣言シテ投票スヘキモノナリ

0351

第四項　選擧ノ機關

第一　投票管理者　市町村長此任ニ當ルモノニシテ其職務ハ

一　選擧人カ果シテ本人ナルヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ投票立會人ノ面前ニ於テ其本人ナルコトヲ宣言セシムルコト

二　投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ノ拒否ヲ決定シ若シ拒否セラレタル選擧人不服ナルトキハ假ニ投票ヲ爲サシムルコト

三　定時ニ至リタルトキハ投票所ノ閉鎖投票結了シタルトキハ投票函ノ閉鎖ヲ命スルコト

四　投票錄ヲ作ルコト

五　町村ニ於テハ投票ノ翌日マテニ投票函、投票錄及ヒ選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スルコト

六　投票所ノ秩序ヲ維持スルコト

等ニ在ルナリ尙ホ管理者ハ必要ニ應シ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第二　投票立會人　投票立會人ハ投票所ニ參會シテ投票ニ立會フヘキモノニテ郡、市長カ各投票區內ノ選擧人中ヨリ三名乃至五名以下ノ立會人ヲ選任スルモノトス而シテ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其任ヲ辭スルコトヲ得ス

第三　開票管理者　開票所ハ通常郡、市役所ニ設ケラルルモノナルカ故ニ郡市長ヲ以テ開票管理者トス故ニ市長ハ一方ニ投票管理者ニシテ又開票管理者タリ而シテ其職務ハ

一　郡ニ於テハ投票函到達ノ翌日市ニ於テハ投票ノ翌日ニ於テ開票立會人ノ立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スルコト（選擧法五五條）

疑問　此投票數ト投票人數トノ計算ノ場合ノ如キ事實上此總數ノ相符合セサルコト頗ル多カルヘキニ若シ斯ル場合ニ遭遇セハ如何ニ處スヘキヤハ條文ノ規定明瞭ナラス即チ右ノ投票函ノ分ハ之ヲ除キテ他ノ投票函ニ就テ點檢スヘキヤ將タ又一切ノ開票ヲ中止スヘキヤ或ハ右ノ顚末ヲ開票錄ニ記入シ符合ノ如何ニ頓著ナク他ノ分ト併セテ點檢シテ選擧長ニ報告シ後日選擧訴訟又ハ當選訴訟起リタル場合ニハ一ニ決定ヲ裁判所ノ判決ニ仰クヘキヤノ疑アリ然レトモ正當ナル解釋ハ計算若シ符合セサルトキハ總テ右ノ投票ヲ無效ト解釋スヘキナリ蓋シ然ラサレハ計算ハ無意義ニ歸スレハナリ

二　投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其受理如何ヲ決定スルコト

三　投票ヲ開キ立會人ト共ニ點檢スルコト

四　開票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ノ效力ヲ決定スルコト

選擧法上無效ナル投票左ノ如シ

イ　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

ロ　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載セルモノ

ハ　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

ニ　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

ホ　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ（但官位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此限ニ在ラス）

0352

五　開票錄ヲ調査スルコト

六　開票ノ結果ヲ選擧長ニ報告スルコト

等ナリ

第四　開票立會人　名ノ示ス如ク開票ニ立會フモノニシテ其數ハ三名以上七名以下トス而シテ地方長官選擧人ヨリ之ヲ選任スルモノナリ但市長ハ投票管理者ト開票管理者ヲ兼スルカ故ニ市ノ投票立會人ハ同時ニ開票管理者タリ

第五　選擧會　選擧會ハ道廳及ヒ各府縣毎ニ之ヲ設ケ地方長官ヲ以テ選擧長トシテ各選擧區內ニ於ケル選擧人中ヨリ選任シタル選擧立會人ト共ニ其事務ヲ執行セシムルモノニテ要スルニ郡市部開票ノ結果ヲ調査スルモノナリ

第六　選擧長　地方長官之ニ當リ選擧ニ關スル事務ヲ統轄ス其事務ノ概要ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　投票、開票ノ監督ヲ爲スコト

二　選擧會ノ場所及ヒ日時ノ指定ヲ爲スコト

三　選擧會ノ場所及ヒ日時ヲ告示スルコト

四　選擧立會人ノ選任ヲ爲スコト

五　選擧會ノ開閉ヲ爲スコト

六　報告書ノ調査ヲ爲スコト

七　當選者ノ決定及ヒ告知ヲ爲スコト

八　當選證書ヲ付與スルコト

九　當選人ノ告示及ヒ報告ヲ爲スコト

十　選擧會ノ取締ヲ爲スコト

十一　尙ホ選擧ナキトキ若クハ不足スルトキハ更ニ選擧ヲ行ハシムルコト

十二　訴訟ノ判決ニ依リ當選無效ト爲リタルトキ若クハ選擧ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果トシテ其當選無效ト爲リタルトキ必要ナル處置ヲ爲スコト

第七　選擧立會人　選擧長ハ各選擧區內ノ選擧人中ヨリ三名乃至七名ノ選擧立會人ヲ選任シ選擧會開會ノ期日ヨリ三日前ニ當人ニ之ヲ通知シ選擧會ノ當日選擧會ニ參會セシムルモノトス又立會人ハ其任ヲ辭シ得サルモ指定ノ時刻ニ至リ參會セス又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ選擧長臨時ニ選擧人中ヨリ選任シテ補充スヘキモノナリ

第五項　當選人

當選人ヲ定ムルニハ過半數ノ投票ヲ得タルヲ必要ト爲シ若クハ選擧人ノ數ヲ議員ノ數ニテ除シテ得タル商數ノ投票ヲ得ルヲ必要ト爲ス例アリト雖モ我選擧法ハ有效投票ノ比較的最モ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者ト爲スコトトセリ但最少數ノ制限アリテ選擧區內ノ議員ノ數ヲ以テ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シ之ヨリ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ必要ト爲セリ又當選人ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤シテ其順位ヲ定ム又當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ二十日以內ニ屆出ツヘキモノニシテ若シ之ヲ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做サルルナリ是ニ於テ當選人ハ承諾ニ因リ議員タルノ資格ヲ得ルモノ

0353

ナリト說ク人アリト雖モ議員ノ選擧ハ契約ニ非スシテ一方行爲ナルカ故ニ當選人ノ不承諾ハ一ノ解除條件ト認ムヘキモノニテ議員タルノ資格ハ已ニ選擧ノ時ニ得タルナリ是レ議員ノ任期ハ總選擧ノ期日ヨリ四箇年トスト定メラレタル所以ナリ固ヨリ地方長官ハ當選人カ承諾シタル後當選證書ヲ付與スルモ是レ唯議員タルコトヲ證明スルニ止マリ之ニ因リテ議員タルノ資格カ發生スルモノニ非ス

第六項　選擧訴訟、當選訴訟

選擧ノ效力(選擧ノ效力トハ選擧ノ規定ノ違背ノミナラス投票ノ有效無效ノ問題モ含ム)ニ關シ異議アル選擧人ハ選擧長ヲ被告トシ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ選擧訴訟ヲ控訴院ニ提出シ其判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得又當選ヲ失ヒタル者カ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ當選人ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以內ニ當選訴訟ヲ控訴院ニ提出スルコトヲ得若シ當選ニ必要ナル得票定數ニ達シタリトノ理由ニ因リ出訴スルトキハ選擧長ヲ被告トシ再選擧告示ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得而シテ其判決ニ不服ナルトキハ大審院ニ上告スルヲ得ルナリ

右ノ裁判所ハ選擧ノ規定ニ違背スルカ爲メ當選人ノ結果ニ異動ヲ及ホス虞アル場合ニ限リ其選擧ノ全部若クハ一部ノ無效ヲ判決スヘキモノニテ其裁判ヲ爲ス場合ニハ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムルコトヲ得又其判決ノ謄本ハ之ヲ內務大臣ニ送付シ若シ議會開會中ナルトキハ併セテ衆議院議長ニ送付スヘキモノナリ

第三款　被選人ノ資格要件

衆議院議員ニ選ハルルニハ左ノ資格要件ヲ具フルコトヲ必要トス

一　帝國臣民タル男子ニシテ選擧ノ期日ヨリ起算シ年齡滿三十歲以上ナルコト　墺、伊、希、那威、普、巴威里、索遜諸國ハ我國ト同シク滿三十歲以下ナルモ獨、佛、北米、西、白、丁、瑞典ハ滿二十五歲以上英國ハ滿二十一歲以上瑞西ハ滿二十歲以上又我地方議會ノ被選權モ滿二十五歲以上ニシテ與ヘラルルカ故ニ三十歲以上ハ高キニ過クルノ感ナキニ非ス

二　歸化人　歸化人ノ子ニシテ我國籍ヲ得タル者及ヒ我國民ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ニ非サルコト

三　宮內官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢查官、收稅官、警察官ニ非サルコト　議員ト官吏トノ關係ニ就テハ原則トシテ官吏ノ議員ヲ兼ヌルヲ禁スル制度(北米、英、佛、伊、白、瑞西諸國其例ナリ)ト原則トシテ此兩者ノ兼務ヲ許シ例外トシテ特別ノ地位ノ官吏ノミ議員ヲ兼ヌルコトヲ得スト定ムルモノトアリ而シテ我國ハ獨逸系統ノ諸國ニ倣ヒ此後ノ制度ヲ採用セリ

四　神官、神職、僧侶其他諸宗ノ敎師、小學校敎員タラサルコト(但此職ヲ罷メテ三箇月ヲ經過セサル者ヲモ含ム)

五　政府ノ爲メニ請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲メニ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ非サルコト　請負ノ解釋ニ付キ實際ニ疑問ト爲リシモ是レ民法ノ規定ニ從ヒテ解釋スヘキナリ

六　華族ノ戶主、公私立學校ノ學生生徒ニ非サルコト

七　現役又ハ召集中ノ軍人ニ非サルコト

八　選擧ニ關スル犯罪ニ因リ被選擧人タルコトヲ禁セラレタル者ニ非サルコト

0354

九　禁治產者、準禁治產者、身代限ノ處分ヲ受ケテ債務ノ辨償ヲ了ヘサル者、家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者ニ非サルコト

十　公權ヲ剝奪セラレタル者公權停止中ノ者又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ裁判確定スルニ至ルマテノ者ニ非サルコト

其他尙ホ選擧事務ニ直接關係アル官吏又ハ吏員ハ其選擧區內ニ於テ被選人タルコトヲ得ス又貴族院議員、府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得サルニ由リ衆議院議員ニ當選セラレタル場合ニ之ヲ承諾セントスルトキハ其貴族院議員若クハ府縣會議員ノ地位ヲ辭セサルヲ得ス其立法上ノ理由ハ一ハ二院制ヲ置クノ目的ヲ貫ク爲メニシテ他ハ地方ノ利害ニ依リテ國家ノ問題ヲ決スルコトアルヲ避クル爲メナリ

又華族ノ戶主ハ衆議院議員ノ選擧ニ全ク關係スルヲ得サルニ由リ多額納稅者モ一方ニ貴族院議員ヲ互選スルコトヲ得ルカ故ニ衆議院議員ノ選擧權、被選擧權ヲ有スヘキ者ニ非サルカ如シト雖モ現行ノ選擧法ニ於テハ之ヲ禁セサルニ由リ多額納稅者モ亦衆議院議員ノ候補者ト爲ルコトヲ妨ケス然レトモ是レ華族ト同一ニ定ムヘキモノトス

茲ニ被選權ハ一ノ公權ナルヤ否ヤヲ附說センニ「ゲ、マイヤー」氏「ザイデル」氏其他多數ノ學者ハ被選權ハ一ノ資格ニシテ權利ニ非スト論シタルハ當ヲ得タリ即チ權ナル文字ヲ有スルモ市町村ノ公民權ト均シク其實權利ニ非サルナリ然ルニ學者中ニハ往往被選權ハ權利ニ非サルモ選擧權ハ權利ナリト論スル人ナキニ非スト雖モ選擧權トハ投票スル權ノ事ニシテ投票ヲ爲スコトハ選擧人カ國ノ機關トシテ行フ權限上ノ行爲ナルニ由リ是レ亦權利ト稱スヘキモノニ非サルナリ

第五節　議員ノ法律上ノ地位

第一款　議員ノ權利

第一項　發言表決ノ自由權

憲法第五二條ニ曰ク「兩議院ノ議員ハ議院ニテ發言シタル意見及表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ」ト此規定ヲ設ケタルハ英國ニ始マリ而シテ各國ニ及ヒタルモノニシテ議員ヲシテ政府ノ干涉ヲ受ケス獨立自由ニ其職務ヲ盡サシメントスルカ爲メナリ

第一　自由權ノ範圍

一　院內ニテ正當ニ發言シタルモノニ限ル　故ニ議長ノ許可ナクシテ發言シタル場合ノ如キ若クハ選擧區ニ於テ選擧人ニ對シ演說ヲ爲シタル場合ノ如キハ之ニ包含サレス而シテ院內ノ發言ニ付テハ本會ノ發言タルト委員會ノ發言タルトヲ問ハサルナリ

二　憲法第五二條ハ院外ニテ責ヲ負ハサルコトヲ保障シタルニ止マルモノナリ　故ニ院內ノ發言表決ニ對シ議院ヨリ懲戒處分ヲ受クルカ如キハ第五二條ト抵觸スルモノニ非ス例ヘハ議員カ議事規則ニ從ハスシテ發言シ又ハ不敬ノ言語ヲ吐キ又ハ他ノ議員ヲ侮辱シタルトキハ之ニ對スル院內ノ責任ヲ免レス又院外ニ對シテ責任ヲ負ハストハ啻ニ刑事上ノ責任ノミナラス懲戒上ノ責任等モ凡テ之ニ含マルルモノナリ故ニ官吏ニシテ議員タルモノハ官吏服務規律ニ違反シタル發言ヲ議院ニテ爲スモ官吏懲戒上ノ責任ヲ受クルモノニ非ス

三　議員自ラ其言論ヲ印刷ニ附シテ公ニスルトキハ第五二條ノ保障ノ限ニ在ラス　即チ第五二條

0355

ハ發言表決ニ付テノミ其自由ヲ保障スルモノニシテ印刷ニ付シタル以上ノ事ハ之ヲ保障セサルナリ

第二　憲法第五二條ノ文字ノ解釋ニ關スル疑問

一　第五二條ノ意見ナル文字ノ範圍ニ付キ疑アリ之ヲ廣ク解釋スルモノハ意見中ニハ事實ノ陳述ヲ含ムモノナリト說クト雖モ意見トハ思考ノ結果ナルニ由リ事實ノ陳述ト區別シテ見ルヘキナリ

二　第五二條ノ發言シタル意見ノ文字中ニハ文章ヲ以テ其意見ヲ陳述シタル場合ヲ含ムモノナルヤ否ヤニ付キ疑アリ固ヨリ通常ノ意味ニ於テハ發言中ニ文章ヲ含マスト雖モ第五二條ノ精神ヨリ考フレハ廣ク文章ヲモ含ムト解スルヲ至當ト信ス

第二項　身體ノ自由權

憲法第五三條ニ曰ク「兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ內亂外患ニ係ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシ」ト英國及ヒ北米合衆國ニ於テハ廣ク之ヲ刑事上ノ場合ニ適用セス唯民事上ノ負債ノ爲メニ拘留セラルルコトニ對シテノミ議員ノ身體自由ヲ保障スルコトト爲セリト雖モ我憲法第五三條ハ歐洲大陸ノ規定ニ基キ廣ク刑事上ノ犯罪ノ爲メ逮捕セラルルコトニ對シ議員ノ身體自由ヲ保障スルコトトセリ

第一　範圍

一　第五三條ノ身體ノ自由ヲ保障スルハ議會會期中ニ限ラル而シテ會期中トハ開會ヨリ閉會又ハ解散ニ至ルマテヲ稱シ其前後ヲ問ハサルナリ英國ニテハ開會前四十五日以後閉會又ハ解散後四十五日

第三項　共有者ノ權利

共有物ニ關シテ共有者ノ有スル權利ハ所有者ノ權利ニ外ナラス從テ各共有者ハ所有者ニ固有ナル權能ヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ共有者ハ共同シテ物ノ所有權ヲ有スルニ因リ所有權ニ固有ナル權能ノ行使ハ單一ノ所有者カ所有權ヲ專有スル場合ト少シク其趣ヲ異ニス今共有者ノ權利ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　共有物ノ使用

各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ其持分ニ應シタル使用ヲ爲スコトヲ得

共有者ハ共有物ノ用方ニ從ヒ其全部ニ付テ使用權ヲ行フコトヲ得而シテ各共有者ハ他ノ共有者ノ權利ヲ害セサル限ハ他ノ共有者ノ意思如何ニ拘ハラス其權利ノ範圍內ニ於テ此權利ヲ行使スルヲ得ヘシ例ヘハ甲乙二人一ノ家屋ヲ共有スルトキハ甲乙ハ恰モ一家ノ家族タルカ如ク同時ニ其家屋ニ住居シ任意ニ其全部ヲ使用スルコトヲ得ヘク之カ爲メ他ノ共有者ノ使用ヲ妨ケサルヲ以テ足レリトス又車馬ノ如キ同時ニ使用シ得ヘカラサル物件ニ付テハ各共有者ハ更代シテ之ヲ使用スルコトヲ要スルハ勿論ナリトス

舊民法ハ共有者ハ其持分ノ多少ニ拘ハラス物ノ使用ニ付テハ同等ノ權利ヲ有スルモノト爲シタルモ現行民法ハ共有物使用ノ割合ハ持分ニ從フヘキモノトセリ故ニ共有者ノ持分等シキトキハ共有者ハ共有物ノ使用ニ付キ同等ノ權利ヲ有シ其持分カ同一ナラサルトキハ各自ノ權利ハ其持分ノ割合ニ應シテ定マル但實際上各自ノ使用ノ方法ヲ定ムルハ頗ル困難ニシテ此點ハ主トシテ當事者間ノ協議ニ依リテ定マルヘキモノトス

0356

第二　共有物ノ收益

共有者ハ其持分ノ割合ニ應シテ收益ヲ爲スノ權利ヲ有ス

例ヘハ甲乙二人一ノ田地ヲ共有シ其田地ヨリ年年米百俵ノ收穫アリト假定センニ甲乙ノ持分等シキトキハ各〻五十俵ヲ所得ト爲シ其持分四分六分ノ割合ナルトキハ甲ハ四十俵乙ハ六十俵ヲ所得ト爲スコトヲ得ヘシ又其土地ヲ他人ニ貸付ケ賃貸料ヲ受取ル場合ニ其賃貸料ニ對スル各自ノ權利モ亦其持分ニ應スルモノトス終ニ其田地ヲ賣却シテ代金ヲ領收シタルトキハ其分配ノ割合ニ付テモ亦同一ノ法則ニ從フ

第三　共有物ノ處分

共有物ノ處分ハ有形上ノ處分ト法律上ノ處分トヲ問ハス共有者一同ノ意思ニ基クニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

是レ共有權ノ本質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ何トナレハ各共有者ノ權利ハ共有物ノ全部及ヒ各部ノ上ニ存スルヲ以テ共有者ノ同意ナクシテ隨意ニ共有物ヲ處分スルハ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルモノナレハナリ是ヲ以テ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意ナクンハ目的物ヲ滅失セシメ又ハ之ヲ毀損スルコトヲ得サルハ勿論共有物ニ有形的ノ變更ヲ加フルコトハ其變更ノ利害如何ニ拘ハラス共有者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス例ヘハ共有ノ畑ヲ田ト爲シ又ハ共有ノ木石、金銀等ヲ以テ器物ヲ造ルカ如シ法律上ノ處分行爲ニ關シテハ共有者ノ一人ハ自己ノ意思ノミヲ以テ共有物ヲ讓渡シ又ハ共有物上ニ地上權、永小作權其他ノ權利ヲ設定スルコト能ハサルノミナラス之ヲ質入シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得ス然レトモ共有者カ其一己ノ權利即チ持分ヲ讓渡シ又ハ其持分ノ上ニ負擔ヲ加フルハ毫モ妨ナシ

共有者ノ一人カ其持分ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ讓受人ハ共有者ノ地位ヲ繼承シ其持分ヲ取得シテ共有者ト爲ル又共有者ノ一人カ其持分ヲ抵當ト爲シタルトキハ抵當取主ハ其持分ヲ賣却シ其代價ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第四　第三者ニ對スル權利

各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ所有權ニ固有ナル權能ヲ行使シ得ヘキヲ以テ共有物ニ關スル第三者ノ干渉ヲ拒絶シ得ルハ勿論共有物ニ對スル第三者ノ侵害行爲ニ付キ救濟ヲ求ムルコトヲ得ヘシ故ニ各共有者ハ占有者ニ對シテ所有權ヲ主張シ共有物ノ回復ヲ求ムルコトヲ得ヘク共有物カ土地ナルトキハ隣地所有者ニ對シテ相隣者ノ關係ヨリ生スル權利ヲ主張シ又此關係上相隣者ノ侵害行爲ニ對シテ救濟ヲ求ムルコトヲ得ヘシ地役權ニ付テモ亦然リトス

第五　共有者持分ノ增加

共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シタルトキ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ其持分ハ他ノ共有者ニ歸屬ス例ヘハ甲、乙、丙ノ三人カ一ノ地所ヲ共有シ各〻其三分ノ一ノ權利即チ持分ヲ有スルモノト假定センニ此場合ニ於テ甲カ其權利ヲ拋棄シ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ甲ノ持分三分ノ一ハ殘存セル共有者乙、丙間ニ持分ニ應シテ分配セラルルモノトス是ニ於テ其地所ハ爾後乙、丙ノ共有ニ屬シ乙、丙ハ各〻二分ノ一ノ持分ヲ有スルコトト爲ルヘシ若シ其後ニ至リ乙亦其權利ヲ拋棄シ又ハ相續人ナクシテ死亡シタリト假定スルトキハ丙ハ地所ノ唯一ノ所有者ト爲リ其完全ナル所有權ヲ取得スヘシ

共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ其持分ハ無主トナルヲ以テ此場合ニ於テハ無主物ノ所有權取得ニ關スル原則ヲ適用シ得ヘキカ如シト雖モ他ニ共有者ノ存スル以上ハ

0357

共有物其モノハ無主ニ非ス從テ先占ニ關スル原則ヲ適用スルコトヲ得ス且各共有者カ共有物上ニ一般ノ支配權ヲ有スルハ物カ單一ノ所有者ニ屬スル場合ト毫モ異ナルコトナク唯共有ノ場合ニ於テハ他ニ共有者アルカ爲メニ此支配權ヲ分タサルヲ得サルノミ果シテ然ラハ共有者中ノ一人ノ權利カ消滅シタルトキハ殘存セル共有者ノミニテ共有物ニ關スル支配權ヲ行ヒ得ヘキモノト爲スヲ以テ最モ能ク共有ノ性質ニ適合シタルモノト謂ハサルヲ得ス是レ民法第二五五條ノ規定アル所以ナリ

第四項　共有物ノ管理

共有物ノ管理ヲ論スルニ當リ予ハ管理ノ方法ト管理ノ費用トヲ區別シテ說明スヘシ

甲　管理ノ方法

管理行爲トハ要スルニ民法第一〇三條ニ揭ケタル行爲ニシテ(第一)物又ハ權利ヲ保存スルノ行爲(第二)物又ハ權利ノ利用、改良ヲ目的トスル行爲ヲ謂フ

第一　共有物ノ保存行爲　保存行爲トハ物ノ滅失、毀損又ハ權利ノ消滅、減縮ヲ防止スルノ行爲ナリ共有物ノ修繕、腐敗シ易キ物件ノ棄却、共有物ニ關スル第三者ノ取得時效ノ中斷等ハ保存行爲ニ屬ス共有物ノ所有權登記モ亦第三者トノ關係上權利保存ノ爲メニ必要ナルヲ以テ一種ノ保存行爲ナリ共有物ノ保存行爲ハ各共有者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得蓋シ保存行爲ハ物ノ滅失、毀損又ハ權利ノ消滅、減縮ヲ防止スルノ行爲ナルヲ以テ此行爲ノ必要ナルハ明白ニシテ疑ナシ故ニ之ヲ爲スニ付テ敢テ共有者ノ同意ヲ求ムルノ必要ナキノミナラス保存行爲ニ付テモ亦共有者ノ同意ヲ必要トスルトキハ往往ニシテ其時機ヲ失シ物ノ滅失、毀損、權利ノ消滅、減縮ヲ防止スルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ何レノ點ヨリ見ルモ各共有者ヲシテ其獨斷ヲ以テ保存行爲ヲ爲サシムルヲ有益ナリトス

第二　共有物ノ利用、改良ヲ目的トスルノ行爲　共有物ノ利用トハ共有物ヲ各種ノ用途ニ供シテ利益ヲ收ムルヲ謂フ例ヘハ共有物カ田畑ナルトキ之ヲ耕作シテ收益ヲ爲シ又ハ之ヲ賃貸シテ其賃金ヲ得ルカ如シ

共有物ノ改良トハ共有物ヲ收益又ハ便益ヲ增加スヘキ狀態ニ變スルヲ謂フ例ヘハ山林ヲ變シテ田地ト爲シ田畑ニ肥料ヲ施スカ如キ是ナリ

共有者ノ利用改良ヲ目的トスル行爲ハ各共有者隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得ス總共有者ニ於テ共同シテ之ヲ爲スヘキモノトス是レ他ナシ物ノ利用、改良ハ各共有者ノ利害ニ關スルノミナラス其方法如何ニ依リ結果ヲ異ニスルヲ以テ其利害得失ハ豫メ共有者間ニ於テ攻究スルコトヲ要シ之ヲ各共有者ノ專斷ニ委スヘカラサルヲ以テナリ而シテ此點ニ付キ共有者間ニ協議調ヒタルトキハ其協議ニ依ルヘキハ勿論ナリト雖モ若シ協議調ハサルトキハ各共有者ノ持分ノ價額ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス例ヘハ甲乙丙丁戊ヲ共有者ナリトシ其持分等シキモノト假定スルトキハ茲ニ所謂過半數ハ頭數ニ依リテ定マル然レトモ其持分等シカラサルトキハ時アリテ反對ノ結果ヲ生スヘシ即チ甲ノ持分ハ十分ノ四、乙ノ持分ハ十分ノ三、丙丁戊ノ持分ハ各〻十分ノ一ナリトスルトキハ共有物ノ利用、改良ニ付キ丙丁戊ト其意見ヲ異ニシタルトキハ甲乙ノ意見ハ多數ニシテ丙丁戊ノ意見ハ少數ナルヲ以テ頭數ニ於テ少數ナル甲乙ノ意見ハ頭數ニ於テ多數ナル丙丁戊ノ意見ヲ制スルノ結果ト爲ルヘシ

共有物ノ利用、改良ノ爲メ共有物ニ變更ヲ加フルノ必要ヲ生スルコトアリ例ヘハ山林ヲ田畑ニ變スルカ如シ然ルニ各共有者ノ權利ハ共有物ノ全部及ヒ各部ニ及フコトハ共有ノ性質ヲ論スルニ當リ既

0358

ニ說明スル所ノ如クナルヲ以テ他ノ共有者ノ同意ナクシテ共有物ニ變更ヲ加フルコトハ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ共有者ノ一致共同ノ意思ニ基クニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス是レ第二五一條ノ規定アル所以ナリ

乙　管理ノ費用

共有物ノ管理ハ共有者共同ノ利益ニ於テ之ヲ爲スモノナルカ故ニ之ニ要スル費用モ亦各共有者ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要ス是レ民法第二五三條ノ規定アル所以ナリ而シテ同條ヨリ生スル結果左ノ如シ

第一　各共有者ハ其持分ニ應シテ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他共有物ノ負擔ニ任ス　各共有者ハ其持分ノ割合ニ應シテ共有物ヲ使用收益スルノ權アルヲ以テ共有物ノ管理費用及ヒ共有物ノ負擔スヘキ其他ノ費用モ亦持分ニ應シテ之ヲ負擔スルヲ正當ナリトス而シテ管理ノ費用トハ共有物ノ利用、改良、保存ノ爲メニ必要ナル費用ニシテ其他ノ負擔トハ共有物ニ對スル公租、公課ノ類ヲ謂フ

第二　共有者カ一年内ニ管理費用又ハ其他ノ費用ヲ支拂ハサルトキハ他ノ共有者ハ之カ爲メ尠カラサル不便ヲ感スルノミナラス此ノ如キ者ト共同シテ物ヲ所有スルコトノ不利ナルハ論ヲ俟タサル所ナルヲ以テ共有者ノ一人カ一个年ノ久シキ間此義務ヲ等閑ニ付シタルトキハ其怠慢ノ制裁トシテ之ヲ共有ヨリ除斥シ他ノ共有者ノ利益ヲ保護スルノ必要アリトス而シテ此場合ニ於テハ法律ハ他ノ共有者ニ與フルニ怠慢ノ責アル共有者ノ持分ヲ强制的ニ讓受クルノ權利ヲ以テス然レトモ之カ爲メ其共有者ニ對シ其持分ニ相當スル價額ヲ支拂フコトヲ要スルハ勿論ナリ民法ハ一个年ノ起算點ニ付キ別ニ規定ヲ設ケス然レトモ一个年ノ期限ハ管理費用又ハ其他ノ費用ヲ支拂フヘキ時ヨリ起算スヘキモノトス故ニ支拂ノ時期カ共有者ノ特約又ハ議決ニ依リテ定マルトキハ其時期ヲ起算點トシ租稅ノ如キ支拂時期ノ確定セルモノニ在リテハ其期限ニ依リ其他ノ場合ニ於テハ費用ノ立替ヲ爲セシ者カ其辨濟ヲ請求セシ時ヨリ起算スヘキモノトス

第五項　持分ノ讓渡

共有者ハ他ノ共有者ニ拘ハラス其持分ヲ第三者ニ讓渡スルヲ得ルコト、讓受人ハ持分ノ讓受ニ依リ共有者ノ地位ヲ繼承スルコトハ前述ノ如シ故ニ新ニ共有者トヲリタル讓受人ハ前共有者ト等シク所有權ニ固有ナル權能ヲ行使スルコトヲ得ヘキヤ論ナシ然レトモ共有ニ在リテハ共有者ハ共有物ニ關シテ各固有ノ物上的權利ヲ有スルノ外共有物ニ付キ共有者相互ノ間ニ債權債務ノ關係ヲ生スルモノナリ例ヘハ共有者ノ一人カ共有物ノ買入代金又ハ其管理費用ノ立替ヲ爲シタル場合ノ如シ而シテ是等ノ債權債務ハ持分ノ讓受人即チ特定承繼人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ其效力ヲ生スルヤ否ヤ民法第二五四條ハ共有者ノ一人カ共有物ニ付キ他ノ共有者ニ對シテ有スル債權ハ其特定承繼人ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得ト規定セリ蓋シ共有物ニ關シテ常事者相互ノ間ニ債權債務ヲ生シタル後共有者ノ一人カ其持分ヲ他人ニ讓渡シタルカ爲メ此關係ニ變動ヲ生スルハ共有者ニ頗ル不利ナルヲ以テ特定承繼人カ共有者ノ持分ヲ讓受ケタルトキハ共有物ニ關スル權義關係ニ於テハ全ク讓渡人タル共有者ノ地位ヲ繼承シ持分ノ讓渡ノ爲メ共有者相互ノ關係ヲ變更スルコトナキヲ必要トス是レ共有者カ特定承繼人ニ對シ共有物ニ關シテ生シタル債權ヲ行使スルコトヲ得ル所以ナリ

0359

第六項　共有物ノ分割

共有ハ同一物ヲ數人ノ支配權ニ服從セシメ經濟上不利ナル狀態トシテ永久存續スヘキニ非ス早晩廢止セラルヘキモノナリ共有物ノ分割ハ即チ共有ヲ廢止セシムル所以ノ方法ナリトス予ハ以下共有物分割ノ請求權、分割ノ方法、分割ノ手續及ヒ分割ノ效果ニ區別シテ說明スヘシ

甲　共有物分割ノ請求

各共有者ハ何時ニテモ共有ノ廢止即チ共有物ノ分割ヲ請求スルノ權利ヲ有ス（二五六條）　各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得蓋シ共有ハ共有物ヲ數人ノ意思ニ服從セシムルモノナレハ共有物ノ利用、改良ハ共有者一般ノ意思ニ依ルニ非サレハ爲シ得ヘカラサルコト明カナリ然ルニ實際ニ於テハ共有者ノ意思動モスレハ一致セス之ガ爲メ充分ニ共有物ヲ利用、改良スルコト能ハサル場合多ク從テ共有ハ經濟上頗ル不利益ナル狀態タルヲ免レサルモノトス故ニ此狀態ハ成ルヘク速ニ之ヲ廢止シ目的物ヲ單一ノ所有者ニ服從セシメ以テ其本然ノ狀態ニ復歸セシムルノ必要アリ是レ共有者ニ與フルニ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルノ權利ヲ以テセル所以ナリ故ニ各共有者ハ他ノ共有者ノ意思如何ニ拘ハラス共有ヲ廢止シテ其目的物ヲ分割センコトヲ他ノ共有者ニ求ムルノ權ヲ有シ其請求ヲ受ケタル他ノ共有者ハ分割ノ不利ナルヲ理由トシテ其請求ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ此原則ニハ例外アリ即チ左ノ如シ

第一　共有物カ其性質上分割ヲ許ササルトキ　數人カ一ノ建物ヲ分有スル場合ニ其建物ノ共用部分ハ分有者ノ共有ニ屬スルコト（二〇八條）境界線上ニ設ケタル界標、圍障、墻壁及ヒ溝渠ハ相隣者ノ共有ニ屬スルコト（二二九條）ハ前既ニ說明セル所ナリ此二箇ノ場合ニ於テハ目的物ノ共有ハ共有者ノ爲メニ必要ニシテ之ヲ廢止スルハ却テ相互ノ不利ト爲ルヲ以テ共有者ハ此種ノ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得ス（二五七條）

第二　共有者カ五年ヲ超エサル期間內分割ヲ爲ササルコトヲ約シタルトキ（二五六條一項後段）　共有者ハ何時ニテモ分割ヲ請求スルノ權利ヲ有スルヲ原則トス雖モ其相互間ニ於テ五年ヲ超エサル期間內分割ヲ爲ササルコトヲ約シタルトキハ其約束ハ有效ニシテ各共有者ハ其期間內分割ヲ請求スルコトヲ得ス蓋シ共有ハ物ヲ數人ノ權利者ニ服從セシメ經濟上頗ル不利ナル結果ヲ生スルコトハ前述ノ如シト雖モ又他ノ一方ニ於テ共有者相互ノ爲メ一定ノ期間內共有ノ狀態ヲ維持スルノ必要ヲ生スルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ當事者カ其期間內分割ヲ爲ササルコトヲ約スルモ其期間ニシテ長キニ失セサル限ハ公益ヲ害スル虞ナキノミナラス却テ當事者ノ需要ヲ滿足スルノ利益アリ是レ民法カ五年間ヲ期限トシテ共有物不分割ノ約束ヲ認許スル所以ナリ故ニ共有者カ五年以內ニ於テ不分割ヲ約スルハ隨意ナリト雖モ之ニ超ユル期間內不分割ヲ約シタルトキハ其約束ハ不法ニシテ何等ノ效力ヲモ生セサルモノトス然レトモ共有者ハ豫メ五年ヲ超ユル期間不分割ヲ約スルヲ得サルニ止マリ之ヲ更新スルコトハ毫モ妨ナシトス唯此場合ニ於テモ更新ノ時ヨリ五年ヲ超エサルヲ必要トスルノミ（二五六條二項）

乙　分割ノ方法

共有廢止ノ方法ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得現物分割、價格賠償及ヒ賣却代金ノ分割是ナリ

第一　現物分割　現物分割トハ其名稱ノ示ス如ク共有物ヲ現物ノ儘ニテ共有者間ニ分割スルヲ謂フ而

0360

シテ分割ニ因リ各自ノ所有ニ歸スヘキ部分ハ其持分ノ割合ニ應シテ之ヲ定ムルモノトス例ヘハ甲乙丙カ三百坪ノ田地ヲ共有スル場合ニ其持分等シキトキハ其田地ヲ三分シ各自百坪ヲ其所有トナスコトヲ得ヘシ現物ノ分割ハ共有物カ可分物ニシテ分割ノ爲メニ其價格ヲ損スルノ虞ナキ場合ニ於テハ最モ適當ノ方法ナリ

第二　價格賠償　價格賠償トハ共有者中ノ或者ニ於テ共有物ノ全部又ハ一部ノ所有權ヲ取得シ持分ノ割合ニ應シテ相當ノ價格ヲ他ノ共有者ニ辨償スルヲ謂フ前例ニ於テ田地ノ價格ヲ六百圓ト見積リ甲其全部ノ所有權ヲ取得シ乙丙各自ニ對シ二百圓ヲ賠償スルカ如シ此方法ハ共有者中ノ或者カ共有物ヲ自己ノ所有ト爲スノ意思アリ他ノ者ハ之ヲ欲セサル場合ニ行ハルルモノトス

第三　賣却代金ノ分割　賣却代金ノ分割トハ共有物ヲ第三者ニ賣却シ持分ノ割合ニ應シ其代金ヲ共有者間ニ分割スルヲ謂フ即チ前例ニ於テ田地ヲ他人ニ賣却シ其代金六百圓ニ付キ甲乙丙各自ニ二百圓ヲ領收スルカ如シ此方法ハ共有物カ分割ニ適セサル場合又ハ共有者カ共有物ヲ自己ノ所有ト爲スヲ欲セスシテ其價格ヲ領收スルヲ必要ナリトシ有益ナリトスル場合ニ行ハルルモノトス

丙　分割ノ手續

分割ノ手續ニ付テハ協議ノ分割ト裁判上ノ分割トヲ區別スルコトヲ得

第一　協議ノ分割　分割ノ方法ニ付キ共有者間ニ協議調ヒタルトキハ其方法ハ一ニ其協議ニ依ルヘキモノニシテ民法中此場合ニ關スル特別ノ規定ナシ故ニ共有者ハ任意ニ現物ノ分割價格ノ賠償又ハ代金ノ分割ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ協議ノ分割ノ行ハルルニハ總テノ共有者ノ同意アルコトヲ必要トシ縱令一人タリトモ分割ノ方法ニ付キ不同意ヲ唱フル者アルトキハ裁判上ノ分割手續ニ依ラサルヘカラス

裁判上ノ分割　分割ノ方法ニ付キ共有者ノ協議調ハサルトキハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得（二五八條）裁判上ノ分割即チ是ナリ佛國民法及ヒ舊民法ニ於テハ共有者中ニ無能力者アルトキハ必ス裁判上ノ分割ニ依ルヘキモノトセリ是レ無能力者ノ利益ヲ保護スルノ趣旨ニ出ツ然レトモ無能力者ニハ法定代理人、保佐人、親族會等ノ設アリテ十分ニ其利益ヲ保護スルニ足ルヲ以テ民法ハ共有者中ニ無能力者アル場合ト雖モ必スシモ裁判上ノ分割手續ニ依ルコトヲ要セス無能力者ノ法定代理人及ヒ保佐人ニ於テ法律ニ定ムル條件ニ從ヒ無能力者ヲ代表又ハ保佐シテ他ノ共有者ト協議上ノ分割ヲ爲シ得ヘキモノトシ唯共有者間ニ協議調ハサル場合ニ限リ裁判上ノ分割手續ニ依ルヘキモノトセリ以下此裁判上ノ分割手續ニ付キ說明スヘシ

一　分割ニ干與スヘキ人

（イ）共有者　共有物ノ分割ハ單ニ共有者中ノ或者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得ス必スヤ總テノ共有者ヲ分割ノ手續ニ參與セシメテ之ヲ爲スコトヲ要ス何トナレハ各共有者ハ分割ニ於ケル當事者トシテ共有物ノ分割ニ付キ直接ニ利害ヲ感スルハ說明ヲ要セスシテ明カナルヲ以テナリ故ニ共有者中ノ或者カ他ノ共有者ヲ分割手續ニ參與セシメスシテ分割ヲ爲シタルトキハ其分割ハ他ノ共有者ニ對シ何等ノ效力ヲモ生セサルモノトス

（ロ）利害關係人　分割ニ於ケル利害關係人トハ（第一）共有物ニ付キ權利ヲ有スル者即チ共有物ノ上ニ地上權、永小作權、地役權、留置權、先取特權、質權、抵當權、賃借權ヲ有スル者（第二）各共有者ノ債權者ヲ謂フ是等ノ利害關係人モ亦分割手續ニ干與スルノ必要ヲ感ス何トナレハ分割ヲ

0361

リ生スル各共有者ノ利害ハ間接ニ是等利害關係人ニ影響ヲ及ホスヘク分割ノ方法宜キヲ得サルトキハ利害關係人ハ往往ニシテ其利益ヲ害セラルルニ至ルヘケレハナリ故ニ是等ノ利害關係人モ亦特ニ其手續ニ干與セシメ分割ノ方法ニ付キ其意見ヲ陳述スルコトヲ得セシムルハ其利益ヲ保全スルカ爲メ極メテ必要ナリトス是レ民法第二六〇條ノ規定アル所以ナリ然レトモ參加ノ爲メニ要スル費用ハ利害關係人自ラ之ヲ支辨スルコトヲ要シ共有者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ス何トナレハ利害關係人カ分割ノ手續ニ干與スルハ全ク其一己ノ利害ニ基クモノニシテ之カ爲メニ共有者ノ負擔ヲ加重スルハ公平ヲ失スルヲ以テナリ

右ノ如ク利害關係人ハ分割手續ニ參與スルヲ得ト雖モ分割ハ本來共有者間ニ於テ爲スヘキモノニシテ利害關係人ハ分割ニ於ケル當事者ニ非サルヲ以テ共有者ノ如ク常ニ必ス其參加ヲ要スルモノニ非ス唯參加ノ請求アリタル場合ニ其手續ニ干與セシムルノミヲ以テ足レリトス茲ニ於テ左ノ效果ヲ生ス

（一）利害關係人カ參加ヲ請求セサルトキハ分割ハ共有者間ニ於テ之ヲ爲シ利害關係人ヲシテ特ニ其手續ニ干與セシムルヲ要セス從テ當事者間ニ於テ爲サレタル分割ハ利害關係人ニ對シテ其效ヲ生シ利害關係人ハ其分割ノ自己ニ不利ナルヲ理由トシテ其無效ヲ主張スルヲ得ス但分割カ共有物ノ上ニ權利ヲ有スル者ノ權利ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤハ別問題ニ屬シ此點ニ付テハ分割ノ效力ヲ論スルニ當リ後ニ説明スヘシ

（二）利害關係人カ參加ヲ請求シタルトキハ分割ハ其參加ヲ待チテ之ヲ爲スコトヲ必要トシ其參加ヲ待タスシテ分割ヲ爲シタルトキハ其分割ハ之ヲ以テ參加ヲ請求シタル利害關係人ニ對抗スルコトヲ得ス換言スレハ共有物ハ參加ヲ請求シタル利害關係人トノ關係ニ於テハ分割セラレサリシト同一ノ狀態ニ在ルモノトス但參加ヲ請求セサリシ利害關係人ハ分割ノ無效ヲ主張スルコトヲ得サルハ論ヲ俟タス

二　分割ノ方法

（イ）現物ノ分割　裁判上ノ分割ハ二箇ノ方法ニ依リテ之ヲ爲ス現物ノ分割及ヒ競賣是ナリ

分割ハ現物分割ノ方法ニ依ルヲ通則トス故ニ甲乙丙ノ三人カ一ノ地所ヲ所有スルモノト假定セハ坪數ト價格トヲ標準トシ其持分ニ應シテ之ヲ三分スルコトヲ要ス但我民法ニハ別段ノ規定ナキヲ以テ共有物ハ如何ニ分割スヘキヤ又各共有者ハ何レノ部分ヲ取得スヘキヤハ一ニ裁判所ノ自由ナル判斷ニ依リ定マルヘキモノトス

共有者ノ一人カ他ノ共有者ニ對シ共有ニ關スル債務ヲ負擔スルコトアリ例ヘハ共有者ノ一人カ他ノ一人ノ爲メニ管理費用ノ立替ヲ爲シタル場合ノ如シ然ルニ共有ニ關スル債務ハ債務者カ其有者トシテ持分ヲ有スルヨリ生スル債務ナレハ債務者ヲシテ其持分ヲ以テ債務辨濟ノ責ニ任セシムルヲ公平ナリトス何トナレハ斯クセサレハ債務者ハ一方ニ於テハ持分ヲ有スル共有者トシテ其負擔ニ屬スル金額ヲ支拂ハサルニ拘ハラス他ノ一方ニ於テハ其持分ヨリ生スル利益ヲ全然享受スルコトヲ得ルノ不公平ナル結果ヲ生スヘケレハナリ是レ民法第二五九條ノ規定アル所以ニシテ同條ノ規定ニ依レハ債權者カ其債權ノ辨濟ヲ受クヘキ方法二アリ即チ左ノ如シ

（一）債權者ハ分割ニ際シ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

例ヘハ甲乙丙ノ三人カ一坪一圓ノ地所三百坪ヲ共有シ其持分等シキモノトスルトキハ分割ノ結果各百坪ノ地所ヲ所有スルコトヲ爲ルヘシ此場合ニ於テ甲ハ乙丙ノ各自ノ爲メニ管理費用ノ

0362

立替ヨリ生スル債權十圓ヲ有スルモノトセハ甲ハ乙丙ノ受クヘキ百坪ノ中ヨリ其辨濟ヲ受クルノ權ヲ有シ乙丙ノ各自ヨリ十坪宛ヲ取立テテ自己ノ所有ト爲スコトヲ得ヘシ是ニ於テ甲ハ結局百二十坪ノ分配ヲ受ケ乙丙ハ各〻九十坪ノ分配ヲ受クヘシ

(二) 債權者ハ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ所有ニ歸スヘキ部分ノ賣却ヲ請求スルコトヲ得

例ヘハ前例ニ於ケル債權者甲ハ其債權ノ辨濟ヲ受クルカ爲メ乙丙ノ所有ニ歸スヘキ百坪ノ全部又ハ一部ノ賣却ヲ請求スルコトヲ得即チ場合ニ從ヒ百坪ノ全部ヲ賣却シ代金百圓ノ中ヨリ十圓ヲ領收スルコトヲ得ヘシ

(ロ) 競賣　共有物カ分割ニ適セサルトキ即チ共有物カ分割ヲ許ササルトキ又ハ分割ノ爲メ其價格ヲ損スルノ虞アルトキハ現物分割ノ方法ニ依ルコトヲ得ス裁判所ハ共有者ノ競賣ヲ命シ持分ノ割合ニ應シ競賣代金ヲ共有者ニ分配スヘキモノトス例ヘハ甲乙丙ノ三人カ一ノ高價ナル指環ヲ共有スル場合ニ之ヲ現物ニテ分割スルノ不可ナルハ敢テ說明ヲ要セサル所ナルヲ以テ此場合ニハ其指環ヲ競賣ニ付シ其代金ヲ甲乙丙三人ニ分配スルコトヲ要ス而シテ此場合ニ於テモ共有ニ關スル債權ヲ有スル共有者ハ債務者ノ所有ニ歸スヘキ賣却代金中ヨリ其債權ノ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有スヘキハ論ヲ俟タス

丁　分割ノ效果

第一　共有者ハ分割ニ因リ共有物中其所有ニ歸シタル部分ノ上ニ新ニ所有權ヲ取得ス　例ヘハ甲乙ノ二人カ一ノ地所ヲ共有シ之ヲ分割シテ各〻其一部ヲ所有スルモノト假定セン二甲ハ其所有ニ歸シタル部分ニ付テハ乙ノ持分ヲ讓受ケテ單獨ノ所有者ト爲リ乙モ亦甲ノ持分ヲ讓受ケテ其取得シタル部分ノ完全ナル所有者ト爲ル故ニ甲乙ハ各〻分割ニ因リテ其所有部分ノ上ニ完全ナル所有權ヲ取得スルモノナリ舊民法及ヒ佛民法ニ依レハ分割ハ共有ノ始ニ遡リテ效ヲ生スルヲ原則トス故ニ前例ニ於テ甲乙ハ各分割ニ因リテ其所有部分ノ上ニ所有權ヲ取得スルニ非スシテ甲乙各自ノ所有部分ハ共有ノ始ヨリ各自ノ所有ニ歸シタルモノト推定セラルルモノトス是レ分割ハ權利ヲ移轉スルモノニ非スシテ單ニ權利ヲ宣言スルニ過キストノ格言アル所以ナリ新民法ニハ分割ノ效果ヲ既往ニ遡ラシムル明文ナキヲ以テ各共有者ハ他ノ共有者ノ持分ヲ讓受ケテ新ニ所有權ヲ取得スルモノト解釋セサルヘカラス是ニ於テ左ノ效果ヲ生ス

一　共有物分割前ニ共有者ノ一人ヨリ共有物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ノ權利ハ分割ノ爲メ毫モ影響ヲ受クルコトナシ　例ヘハ甲乙ノ二人カ一ノ地所ヲ共有スル場合ニ甲其持分ニ付キ丙ニ對シテ抵當權ヲ設定シタリト假定センニ後ニ至リ其地所カ甲乙間ニ分割セラルルモ丙ノ抵當權ハ之カ爲メニ影響ヲ受クルコトナク丙ハ地所ノ全部ニ對シ甲ノ持分ニ應シテ抵當權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ是レ乙ハ分割ニ因リ新ニ其所有部分ノ上ニ所有權ヲ取得シタルモノナレハ其權利ハ先ニ設定セラレタル丙ノ抵當權ヲ動カス能ハサルヘキヲ以テナリ之ニ反シテ舊民法ニ依レハ分割ハ既往ニ遡リテ其效力ヲ生スルヲ以テ乙ハ始ヨリ其所有ニ歸シタル部分ノ所有權ヲ有スルモノト推定セラレ此部分ニ對スル丙ノ權利ハ消滅シ丙ハ其部分ノ上ニ抵當權ヲ行フコトヲ得ス

二　各共有者ハ他ノ共有者カ分割ニ因リ得タル物ニ付キ賣主ト同シク其持分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス(二六一條)　各共有者ハ共有物全部ニ付キ權利ヲ有スルモノニシテ共有物ノ分割ハ共有者相互ノ間ニ於テ持分ノ讓渡ヲ爲シ各共有者ヲシテ其所有ニ歸シタル部分ノ完全ナル所有權ヲ取得セシ

0363

ムルモノニ外ナラサルハ前ニ說明セル所ナリ故ニ各共有者ハ賣買ニ於ケルカ如ク他ノ共有者ニ對シ物ノ一部ニ付キ持分讓渡ノ義務ヲ履行セサルヘカラス若シ共有者カ完全ニ此義務ヲ履行セサルトキハ民法第五六一條以下ノ規定ニ依リ其責ニ任スヘキモノトス之ヲ稱シテ擔保ノ責任ト謂フ擔保ニ二種アリ追奪擔保、瑕疵擔保即チ是ナリ追奪擔保トハ讓渡人カ讓渡スヘキ權利ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スコト能ハサル場合ニ責任ヲ負フヲ謂フ例ヘハ甲乙二人カ一坪一圓ニ相當スル三百坪ノ地所ヲ分割シタルニ甲ノ所有ニ歸シタル百五十坪ノ部分ハ其實丙ノ所有ナリシカ爲メ甲ハ丙ヨリ其地所ヲ回復セラレ其所有權ヲ取得スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ甲ハ丙ヨリ目的物ヲ追奪セラレタルモノニシテ乙ハ甲ニ對シ其持分ニ應シテ追奪ヨリ生スル損害ノ賠償ヲ爲スノ責アリ即チ甲乙ノ持分等シキモノト假定スルトキハ乙ハ其損害ノ半額七十五圓ヲ甲ニ辨償スヘキモノトス

瑕疵擔保トハ物ニ隱レタル瑕疵アルカ爲メ其瑕疵ニ付キ責任ヲ負フヲ謂フ例ヘハ甲乙ノ二人三百圓ノ價アル牛一頭ヲ共有スル場合ニ共有廢止ノ目的ヲ以テ乙其持分ヲ甲ニ讓渡シ甲完全ナル所有權ヲ取得シタルニ其牛ハ共有廢止前ヨリ疫病ニ罹リタルカ爲メ遂ニ病死シタリト假定スルトキハ疫病ハ隱レタル瑕疵ニシテ乙ハ此瑕疵ニ付キ其持分ノ割合ニ應シテ其責任ヲ負フモノトス即チ乙ハ甲ニ對シテ三百圓ノ半額百五十圓ヲ賠償セサルヘカラス

第二　共有物ニ關スル證書ハ分割者間ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス　共有者カ分割ニ因リ共有物ノ一部ヲ取得シタル場合ニ共有物ニ關スル證書ハ分割者共同ノ利益ノ爲メ分割者間ニ之ヲ保存スルノ必要アリ何トナレハ分割者カ第三者ニ對シ其權利ノ正當ナルヲ證明セントスルニハ其證書ニ據ラサルヘカラサルヲ以テナリ是レ民法第二六二條ノ規定アル所以ナリ而シテ同條ノ規定ニ依レハ證書ノ保存ニ關シテハ左ノ原則ニ從フヘキモノトス

一　各分割者ハ其受ケタルモノニ關スル證書ヲ保存スルコトヲ要ス　此規定ハ共有物ヲ分割シタル場合ニ其各部分ニ付キ特ニ證書アル場合ニ適用セラルルモノナリ即チ此場合ニ於テハ各共有者ニ於テ共有物中自己ノ有ニ歸シタル部分ニ關スル證書ヲ受領スヘキハ勿論ナルヲ以テ共有者ヲシテ各自ニ其證書保存ノ責ニ任セシムルモノナリ

二　共有者一同又ハ其中ノ數人ニ分割シタルモノニ關スル證書ハ其物ノ最大部分ヲ受ケタル者之ヲ保存スルコトヲ要ス　此規定ハ同一物ヲ數人ニ分割シ其分割シタル各部分ニ共通ノ證書アル場合ニ適用セラルヘキモノナリ即チ此場合ニ於テハ分割者ニ於テ其證書ヲ分有スルコト能ハサルヲ以テ其物ノ最大部分ヲ受ケタル者ヲシテ證書保存ノ責ニ任セシム蓋シ物ノ最大部分ヲ受ケタル者ハ其證書ノ保存ニ付キ最大ノ利害ヲ感スルヲ以テナリ然レトモ共有物ヲ數人ニ分割シタル結果最大部分ヲ受ケタル者ナキトキハ前記ノ原則ヲ適用スルコト能ハサルヲ以テ證書ノ保存ハ他ノ方法ニ依ラサルヘカラス即チ此場合ニ於テハ分割者ノ協議ヲ以テ保存者ヲ定ムルヲ通則トシ協議調ハサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ指定スルモノトス

三　證書ノ保存者ハ他ノ分割者ノ請求ニ應シテ其證書ヲ使用セシムルコトヲ要ス　證書ハ分割者共同ノ利益ノ爲メニ之ヲ保存スルモノナルヲ以テ他ノ分割者カ其證書ヲ使用スル必要アルトキハ證書ノ保存者ハ其請求ニ應シ之ヲ使用セシメサルヘカラサルハ說明ヲ要セスシテ明カナリ

0364

第七項　入會權

入會權トハ一定ノ土地ニ住スル人カ一定ノ山林又ハ野地ニ於テ共同シテ收益ヲ爲スノ權利ヲ謂フ例ヘハ或村ノ住民カ共同シテ一ノ山林ニ於テ樹木ヲ伐採シ或ハ落葉枯枝ヲ採收シ或ハ其下草ヲ苅取リ或ハ又一定ノ野地ニ於テ雜草ヲ苅取リ若クハ牧畜ヲ爲スカ如シ

入會權ハ他人ノ所有ニ屬スル土地ノ上ニ行ハルルコトアリ此場合ニ於テハ入會權ハ一種ノ地役權ノ性質ヲ有スルモノナリ又入會權ノ目的タル山林又ハ野地カ住民ノ共有ニ屬スルコトアリ民法第二六三條ニ所謂共有ノ性質ヲ有スル入會權トハ即チ此種ノ入會權ヲ指稱セルモノナリ蓋シ入會權ニ付テハ本邦固來ノ慣習アリ其慣習ハ地方ニ依リ異ナルカ故ニ民法ハ入會權ノ制度ヲ維持スルト同時ニ其效力ニ付テハ先ツ第一ニ各地方ノ慣習ニ據ルヘキモノトシ特別ノ慣習ナキ場合ニ於テ共有ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルモノトセリ

第八項　所有權以外ノ財産權ノ共有

共有ニ關スル民法第二四九條以下ノ規定ハ數人カ物ノ所有權ヲ共有スル場合ニ適用セラルルモノナレトモ此規定ハ又數人カ共同シテ所有權以外ノ財産權ヲ有スル場合ニ準用スヘキモノトス何トナレハ數人カ共同シテ一ノ權利ヲ有スル點ニ於テハ二者全ク同一ナルヲ以テナリ是レ民法第二六四條ノ規定アル所以ニシテ共有ニ關スル民法ノ規定ハ版權、鑛業權、不可分債權等ニ準用セラルヘキモノトス但權利ノ種類ニ依リ法律又ハ命令ニ別段ノ規定アルトキハ其規定ニ從フヘキハ勿論ナリ是レ本條後段ノ規定

アル所以ナリ

第三節　地上權

第一款　地上權ノ性質

民法第二六五條ニ曰ク地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル權利ヲ有スト是レ地上權ノ定義ヲ示シタルモノニシテ同條ノ規定ニ依レハ地上權ハ左ノ性質ヲ有スルモノトス

第一　地上權ハ土地ノ上ニ行ハルル權利ナリ　是レ地上權ノ名稱アル所以ニシテ別ニ説明ヲ要セス

第二　地上權ハ他人ノ土地ヲ使用スル權利ナリ　吾人カ他人ニ屬スル土地ノ上ニ工作物又ハ竹木ヲ所有セントスルニハ其土地ヲ使用セサルヘカラス地上權ハ即チ吾人ヲシテ此目的ヲ達スルコトヲ得セシムルモノナリ舊民法ハ地上權ヲ釋義シテ他人ノ土地ノ上ニ竹木ヲ所有スルノ權利ナリト云ヘリ然レトモ前述ノ如ク吾人ハ他人ノ土地ヲ使用スルニ非サレハ其上ニ工作物又ハ竹木ヲ所有スルコト能ハサルモノナルヲ以テ此點ニ付テハ新民法ノ規定ヲ適當ナリトス

地上權ハ他人ノ所有ニ屬スル土地ノ上ニ行ハルル權利ナルヲ以テ所謂他物權ノ一種ニ屬シ地上權者ハ其權利ノ目的タル事項ニ關シテハ土地ノ所有者ニ屬スル權利ヲ行使シ其欲スル所ニ從ヒ土地ヲ支配スル權利ヲ有ス蓋シ地上權ハ永小作權ト共ニ他物權中最モ强大ナルモノニシテ此權利ノ設定ニ依リ土地利用ノ實益ハ全ク地上權者ニ歸シ所有者ハ空權ヲ有スルニ過キサルモノトス

第三　地上權ハ工作物又ハ竹木ヲ所有スルカ爲メニ他人ノ土地ヲ使用スルノ權利ナリ　吾人カ他人ノ

所有地ノ上ニ地上權ヲ取得スルニハ他人ノ所有地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スルカ爲メナルコトヲ要ス工作物トハ家屋其他ノ建物ハ勿論堤防、地窖等建物以外ノ工作物ヲ包含シ竹木トハ專ラ立樹ヲ指シタルモノニシテ耕作ノ目的ト爲ルヘキ草木類ヲ含蓄セス故ニ地上權ハ宅地、山林ニ付キ行ハルルモノニシテ田畑ニ付キ行ハレサルコト明カナリ獨逸民法ハ建物ニ關シテノミ此權利ヲ認メ我民法ハ佛國民法ト等シク工作物ト竹木トノ爲メニ此權利ヲ設ケタリ

吾人カ他人ノ土地ニ工作物又ハ竹木ヲ所有セントスル場合ニ其目的ヲ達シ得ヘキ手段尚ホ一アリ土地ノ賃貸借即チ是ナリ蓋シ一方ニ於テ賃借權ト他方ニ於テ地上權、永小作權トハ頗ル相類似シ一ハ物權ニシテ他ハ債權ナルノ差異アレトモ其實質ニ至リテハ殆ト同一ナリ蓋シ地上權ト曰ヒ永小作權ト曰ヒ其實質ニ於テハ一ノ借地權ナルモ借地人ノ需用ヲ滿足セシムルカ爲メ之ヲ一ノ物權トシテ其權利ヲ鞏固ナラシメタルモノニ外ナラス是ヲ以テ或人カ他人ノ土地ヲ使用スルノ權利ヲ有スル場合ニ其權利ハ地上權ナリヤ將タ賃借權ナリヤニ付キ疑ヲ生スルコト往往ニシテ是アリ此ノ如キ場合ニ於テハ權利設定當時ニ於ケル當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ基キテ疑問ヲ決スルコトヲ要ス就中當事者ノ用ヒタル文詞及ヒ設定セシ權利ノ內容ハ此疑問ヲ決スルニ付キ參照スヘキ重要ノ材料ト爲ルヘシ例ヘハ當事者カ契約中ニ賃貸借ノ文字ヲ用ヒ且契約ヨリ生スル權利カ民法ニ認ムル賃借權ト符合スルトキハ其權利ハ賃借權ナリト認ムルコトヲ得ヘク之ニ反シテ土地ノ所有者カ家屋其他ヲ建築スルカ爲メ其土地ヲ他人ニ使用セシメ其使用期限ヲ定メス又ハ其期限ヲ二十年以上ニ定メタルカ如キ場合ニ於テハ契約中賃貸借ノ文詞アリトスルモ當事者ノ設定シタル權利ハ寧ロ地上權ナリト推定スルヲ得ヘシ何トナレハ權利ノ內容ヨリ觀察スルトキハ之ヲ賃借權トスルヨリモ地上權トスルハ却テ當事者ノ意思ニ適合スヘケレハナリ

地上權ト賃借權トハ其實質ニ於テハ略ホ同一ナルモ此二者間ニ數多ノ差異アリ今其最モ重要ナルモノヲ擧クレハ

一　地上權ハ物權ニシテ賃借權ハ債權ナリ是レ兩者間ニ存スル根本ノ差異ナリトス是ヲ以テ地上權者ハ所有者ニ拘ハラス直接ニ權利ノ目的タル土地ノ上ニ其權利ヲ行フコトヲ得ルモ賃借人ハ土地ノ所有者ヲシテ其土地ヲ使用セシムルノ債權ヲ有スルニ過キス

二　地上權者ハ所有者ニ對シテ土地ノ修繕ヲ求ムルノ權利ヲ有セサルモ賃借人ハ此權利ヲ有ス

三　地上權ハ之ヲ抵當ニ供スルコトヲ得ルモ賃借權ハ然ラス

四　地上權者ハ任意ニ其土地ヲ他人ニ貸與シ又ハ其權利ヲ讓渡スルコトヲ得ルモ賃借人ハ所有者ノ承諾アルニ非サレハ賃借物ヲ轉貸シ又ハ賃借權ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

五　地上權ノ存續期間ニ付テハ法律上別ニ制限ナシト雖モ賃貸借ハ二十個年ヲ超過スルコトヲ得ス

六　賃借人カ借賃ノ支拂ヲ延滯シタルトキハ賃貸人ハ直ニ契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得レトモ土地ノ所有者ハ二個年以上地代ノ延滯アルニ非サレハ地上權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ス

七　地上權ハ一ノ物權トシテ當然之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルヲ原則トシ唯法律ノ特別規定ニ依リ之ヲ對抗スル爲メ登記ヲ爲スコトヲ要スルノミ之ニ反シテ賃借權ハ債權ナルカ故ニ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ホササルヲ原則トシ法律ノ特別規定ニ依リ之ヲ登記スルニ因リテ第三者ニ對抗シ得ヘキモノトス然レトモ此點ハ理論上ノ差異ニ止マリ實際ニ於テハ全ク同一ノ結果ニ歸著ス

地上權ハ他ノ物權ト等シク當事者間ノ意思表示ヲ以テ之ヲ設定スルヲ通則トス取得時效及ヒ遺言モ亦

0366

地上權取得ノ原因ト爲ル地上權ハ又有償ニテ設定セラルルヲ常トスト雖モ無償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得ヘシ且有償ニテ地上權ヲ設定スル場合ニ地上權ノ取得者カ所有權ノ讓渡ニ於ケルカ如ク一時ニ其對價ヲ支拂フコトアリ又ハ賃貸借契約ニ於ケルカ如ク定期ノ地代ヲ支拂フコトアリ後ノ場合ニ於テハ地代ハ土地使用ノ對價タルノ性質ヲ有シ頗ル賃貸借ニ類似スルモノトス

第二款　地上權者ノ權利義務

第一　地上權者ハ土地ノ所有者ニ拘ハラス直接ニ土地ノ上ニ其支配權ヲ行フコトヲ得詳言スレハ地上權者ハ工作物又ハ竹木ヲ所有スルカ爲メニ必要ナル範圍内ニ於テ土地ヲ支配スルノ全權ヲ有シ之カ爲メ地表、地下及ヒ地表ノ上面ニ在ル空間ヲ利用スルノ權ヲ有ス

第二　地上權者ハ所有者ニ拘ハラス其權利ノ範圍内ニ於テ土地ヲ他人ニ貸與シ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ遺贈スル權利ヲ有ス何トナレハ地上權ハ一ノ物權ニシテ權利者其人ニ專屬スル權利ニ非サルヲ以テ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシムルモ之カ爲メ地上權ノ本質ヲ傷クルコトナケレハナリ地上權者ハ又其權利ヲ抵當ニ供スルコトヲ得(三六九條)蓋シ地上權ハ他人ノ所有權ノ上ニ存スル權利タルニ過キスト雖モ所有權ヨリ生スル利益ノ大部分ヲ占ムル所ノ强大ナル物權ナルヲ以テ所有權其モノト等シク抵當權ノ目的タルコトヲ得セシメタルモノナリ然レトモ設定行爲ヲ以テ地上權ヲ地上權者其人ニ專屬セシムルハ毫モ妨ナク此場合ニ於テハ地上權者ハ其權利ヲ處分シ又ハ其權利ヲ以テ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三　地上權者ハ土地ノ所有者ト等シク相隣者間ノ權利關係ニ服從スヘキモノトス即チ民法第二〇九條乃至第二三八條ノ規定ハ地上權者相互ノ間又ハ地上權者ト隣地ノ所有者トノ間ニ之ヲ準用スヘキモノトス(二六七條)是レ他ナシ既ニ說明セルカ如ク地上權者ハ土地ニ關スル實權ヲ掌握スルモノナレハ之ヲ所有者ト同視スルニ非サレハ法律カ一方ニ於テ相隣者ノ權利義務ヲ規定シ又他方ニ於テ地上權ヲ設定シタル所以ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘケレハナリ例ヘハ袋地ノ地上權ヲ有スル者ハ其隣地ヲ通行スルノ必要ヲ感スヘク此場合ニ於テ地上權者カ所有者ト等シク直接ニ通行權ヲ有セサルモノトスルトキハ其權利ハ賃借權ト毫モ擇フ所ナク大ニ其效力ヲ減殺セラルルニ至ルヘシ地上權者カ家屋其他ノ建物築造ノ爲メ隣地ヲ使用スルノ必要アル場合ニ於テモ亦然リトス又他方ニ於テ地上權者カ所有者ト等シク相隣者ノ關係ヨリ生スル義務ニ服從セサルニ於テハ地上權者ト隣地所有者トノ關係ハ間接ト爲リ隣地ノ所有者モ亦少カラサル不便ヲ感スヘシ是レ民法カ土地ノ所有者ニ關スル權利關係ヲ地上權者ニ準用シタル所以ナリ

右ノ如ク相隣者ノ關係ニ關スル民法ノ規定ハ一般ニ地上權者ニ準用セラルヘキモノナリト雖モ民法ハ第二六七條後段ニ於テ第二二九條ノ推定ニ關シ一ノ區別ヲ爲シタリ即チ左ノ如シ

甲　界標、圍障等カ地上權設定前ニ設ケラレタルトキ　此場合ニ於テハ第二二九條ノ推定ハ之ヲ地上權者ニ準用スルコトヲ得ス隣地權ニ關スル本則ニ基キ界標、圍障等ハ土地ノ所有者ト隣地ノ所有者ノ共有ニ屬スルモノト推定スルコトヲ要ス蓋シ地上權設定前ニ設ケラレタル界標、圍障等ハ土地ノ所有者ト隣地ノ所有者ト共同シテ之ヲ設定シタルモノト認メ得ヘク且反證ナキ限ハ土地ノ所有者ハ地上權設定後自己ノ爲メニ共有權ヲ保有スルモノト認ムルヲ穩當ナリトス是レ地上權設定前ニ設ケラレタル界標、圍障ニ付キ地上權者ノ爲メニ互有ノ推定ヲ爲ササル所以ナリ

0367

乙　界標、圍障等カ地上權設定後ニ設ケラレタルトキ　此場合ニ於テハ第二二九條ノ規定ヲ準用シ地上權者ノ利益ノ爲メニ其有ノ推定ヲ爲スヘキモノトス　何トナレハ其界標、圍障ハ土地ノ上ニ實權ヲ有スル所ノ地上權者ト隣地ノ所有者又ハ地上權者ト共同シテ之ヲ設ケタルモノト推定スルハ理ノ當然ナルヲ以テナリ

第四　地上權者ハ權利ノ目的タル土地ニ關シテ第三者ノ干涉ヲ拒絕シ且第三者ノ侵害行爲ニ對シテ救濟ヲ求ムル權ヲ有ス　此點ニ付キ地上權者ハ何人ヲ問ハス權利ナクシテ土地ヲ占有スル者ニ對シテ土地ノ引渡ヲ請求スルノ權利ヲ有シ隣地ノ所有者ニ對シテ相隣者ノ關係ヨリ生スル權利ヲ主張シ或ハ相隣者ノ關係ニ關スル隣地所有者ノ不當ナル主張ヲ否認スルノ權ヲ有シ或ハ權利ノ目的タル土地ノ利益ニ於テ存スル地役權ヲ主張シ又ハ隣地ノ所有者ニ對シテ地役權ノ存在セサルコトヲ主張スル權ヲ有ス

第五　地上權者ハ其權利ノ目的タル事項ニ關シテハ任意ニ土地ヲ支配スルノ權利ヲ有スト雖モ其權利行使ハ常ニ其目的ノ範圍內ニ止マルコトヲ必要トシ所有者ノ承諾アルニ非サレハ此範圍ヲ超ユルコトヲ得ス例ヘハ山林ノ地上權ヲ有スル者カ其權利ノ目的タル山林ヲ宅地ニ變シ又ハ地上權者カ宅地或ハ山林ヲ田畑ニ變更シテ之ヲ耕作ノ用ニ供スルカ如シ又他方ニ於テ地上權ハ有期ノ物權ニシテ早晩消滅スヘキ權利ナルヲ以テ地上權者ハ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコトヲ得ス且權利終了ノ曉ニ於テハ工作物竹木ヲ收去シ土地ヲ原狀ニ復シテ之ヲ所有者ニ返還スルコトヲ要ス

第六　地上權者ハ其權利ノ目的タル土地ノ上ニ存スル工作物及ヒ竹木ヲ處分スル權利ヲ有シ其權利ノ存續期間內ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ルハ勿論其權利ノ消滅ニ際シ之ヲ收去スルノ權利ヲ

同ジ金貨ナラ十圓ノデモ二十圓ノデモ差支ナイ、又今申シタ制限ノ範圍內ニ於テハ銀貨ヲ以テスルモ銅貨ヲ以テスルモ差支ナイ、又ハ兌換券ヲ以テスルモ差支ナイ

之ニ付テ或ハ批難ヲ試ミル者ガアル、我民法ハ初ノ三編ハ明治二十九年ニ出來タノデアルカラ三十年ノ貨幣法ヲ見ナイデ出來タモノデアルガ、是ガ施行セラレタノハ三十一年デアルカラ施行セラルル際ニ改マルベカリシノガ其儘改マラナイデ施行セラレタノデナイカ、「債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得」トアル、是ハ兩本位ノ時ニハ宜カッタガ、今日ハ金貨本位デアッテ、銀貨白銅貨、青銅貨ハ皆制限ガアル、詰リ原則トシテハ必ズ金貨ヲ以テ辨濟ヲ爲サナケレバナラヌデアル、然ルニ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ト云ッテハ全ク現行貨幣法ノ主義ニ反スル、是ハ立法者ノ組漏デアリハセヌカト云フノデアルガ、此疑ハ全ク誤ッテ居ル、成程明治二十九年ニハマダ現行貨幣法ガ出來ヤウトハ豫想シテ居ラヌ、併ナガラ其前ノ法律即チ兩本位ノ法律ト雖モ各種ノ通貨皆自由自在ニ流通スルノデハナイ、矢張リ銅貨ノ如キハ補助貨デアッテ、制限ガアル、銀貨デモ矢張リ五十錢、二十錢、十錢、五錢ノハ皆補助貨デアッテ、ソレニハ强制通用力ノ制限ガアル、ソレ等ノコトハ固ヨリ承知デ此規定ヲ設ケタノデアッテ、勿論貨幣法ノ範圍內ニ於テト云フコトハ含マレテ居ル、否貨幣法ノ範圍ヲ超ユレバ眞ノ通貨ト云フコトハ殆ド出來ナイ、即チ今ノ法律デ云ヘバ銀貨ガ十圓ヲ超エレバ相手方ノ承諾ガナケレバ通用シナイ、十圓ヲ超エテハ眞ノ通貨トハ云ヘナイ、白銅貨、青銅貨ハ一圓ヲ超エテハ强制通用力ガナイカラ一圓ヲ超エテハ眞ノ貨幣ノ働ヲ爲サヌ、ソレハ初カラ立法者ガ豫期シテ居ルコトデ、貨幣法ガ如何ニ變更セラレヤウトモ此第四百二條ノ原則ニハ變更ハナイ、三十一年ニ民法ガ施行セラルル場合ニモ少シモ改ムル必要ヲ感ジナカッタ、即チ「此各種」ト云フコトハ第一ニ

0368

ハ同ジ金貨ノ中デモ二十圓デモ、十圓デモ五圓デモ宜イト云フコトデアル、銀貨ニ付テハ十圓マデ、白銅貨、青銅貨ニ付テハ一圓マデハ何レノ貨幣ヲ以テスルモ可ナリト云フコトデアル、尙ホ兌換券ハ通貨ナルヤ否ヤニ付テ多少ノ疑ハアルケレドモ先ヅ通貨ト云ッテ宜カラウト思フ、通貨ト見レバ是モ矢張リ各種ノ通貨ノ中ニ這入ル、而シテ其種類ハ澤山アルト謂ハナケレバナラヌ

債權ノ目的ガ金錢ナル場合ニ於テ如何ナル貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲スベキカト云フ問題ハ實ハ貨幣制度ノ根本タル問題デアル、單本位ト云ヒ複本位ト云フノハ詰リ此問題ニ歸著スルノデアル、即チ單本位ノ場合ニ於テハ本位貨幣ハ金額ニ限リナク强制通用力ヲ持チ、ソレカラ補助貨ナラバ必ズ其通用額ニ制限ガアッテソレ以上ニ於テハ通用力ヲ持タヌ、デスカラ殆ド通貨ノ働ヲ爲サヌ、强制通用力トハ如何ナル意味デアルカト云ヘバ即チ債務者ガ債務ノ履行ヲ爲スニ當ッテ其給付ガ果シテ履行ニナルヤ否ヤト云フコトデアル、二十圓ノ債權ノアル場合ニ債務者ガ銀貨二十圓ヲ持ッテ參ッテソレデ履行ヲシヤウト云ッテモ債權者ガ拒メバ仕方ガナイ、ソレハ銀貨ガ本位デナイカラデアル、之ニ反シテ金貨ガ本位デアル以上ハ債權者ハ寧ロ銀貨ヲ望ムト云フ場合デアッテモ矢張リ金貨ヲ持ッテ行ケバ拒ムコトハ出來ヌ、是ガ所謂「强制通用力」デアル、ソレデスカラ貨幣制度ノ財政上、經濟上ノ問題ハ詰リ金錢債務ノ履行ニ關スル問題デアル、此點ハ法律問題デ、經濟問題若クハ財政問題ガ混合スル場合デアル、故ニ舊民法ニ於テ「ボワッソナード」氏ハ兩本位制ノ弊ヲ矯ムル爲メニ設ケタル規定デアルト云ッテ、外國ニ其例ヲ見ザル所ノ規定ヲ設ケテ居ッタノデアリマスケレドモ、是ハ私共ノ信ズル所デハ全ク見當違ノ規定デ、「ボワッソナード」氏ノ目的ハ洵ニ結構デアルケレドモ決シテ舊民法ノ規定ニ依ッテ兩本位ノ弊ヲ矯ムルコトハ出來ナカッタモノデアルト思フ

第二　特種ノ貨幣ヲ目的トシタル債務

舊民法ニ於テハ特種ノ貨幣ヲ目的トスル契約ノ概シテ無效デアルト規定シテ居リマシタガ、新民法ニ於テハ之ヲ許シテ居ルノデ、特別ノ約束ガアル以上ハ其約束ハ有效デアルトナッテ居ル、即チ前ニ申上ゲタ補助貨デアッテモ無制限ニ特約ヲ以テ債務ノ目的ト爲スコトガ出來ル、例ヘバ白銅貨ヲ十圓トカ二十圓トカ支拂フベシト云フ契約デモ固ヨリ有效デアル、是ハ民法ニ明文ノアル所デアル、第四百二條第一項

債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得但特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス

トアル、此點ハ新民法ニ於テハ極メテ明瞭ニナッテ居リマスガ唯特種ノ通貨ガ通用力ヲ失ッタトキハドウデアル、例ヘバ天保錢ガ數年前マデハ通貨デアッタ、ケレドモ今日デハ最早强制通用ノ力ヲ失ッテ居ル、ソコデ天保錢ヲ目的トスル所ノ契約ノ效力如何ト云フノデアル、純然タル理論カラ考ヘテ見ルト、苟モ天保錢ト云ッタ以上ハ其天保錢ガ通用力ヲ有スルト有セザルトニ拘ハラズ給付シテ差支ナイ筈デアル、若シ政府ガ之ヲ引換ヘタ結果トシテ約束ダケノ天保錢ヲ得ルコトガ出來ナイナラバ履行不能ニ因ッテ債務者ハ其債務ヲ免レサウナモノデアルノデアリマスガ、併ナガラ是ハ當事者ノ意思ニ反スルコトガ多イデアラウ、通常ノ場合ニ於テハ當事者ガ天保錢ト云ッタノハ矢張リ通用力ヲ有スル所ノ貨幣トシテノ天保錢デアルダラウト思フ、然ルニソレガ全ク通用力ヲ失ッテ貨幣トシテ働ヲ爲サヌヤウニナッタナラバ初メ當事者ガ之ヲ目的トシタ時ノ意思ニ反スルノデアラウト云フ所カラ致シマシテ第四百二條第二項ノ規定ガ出來タノデアル

0369

債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ强制通用ノ效力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

最早通貨デナクナッタ以上ハ天保錢ヲ得テモ當事者ガ初ニ豫期シタ丈ケノ目的ヲ達スルコトガ出來ヌカラ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲サナケレバナラヌト云フコトニナッテ居ル、尤モ是ハ立法者ガ當事者ノ普通ノ意思ヲ推測シテ規定シテ居ル所デアッテ、若シ當事者ノ意思ガ通用力ノ如何ニ拘ハラズ或種類ノ貨幣ヲ得ント欲スルノデアッタナラバ固ヨリ其意思ニ從ハナケレバナラヌ、或種類ノ貨幣ヲ貨幣トシテデナクシテ欲スルコトガアル、サウ云フトキニハ別段デアルケレドモ、ソレハ普通ノ場合デハナイ、普通ノ場合ニハ假令貨幣ノ種類ヲ限ッテ居ッテモソレハ貨幣トシテノ意味デアル、通用力ヲ失ヘバ最早貨幣デナイノデアルカラ、ソレデ此規定ガアル、是ガ金錢債務ニ關スル第一ノ問題

第三　外國貨幣ヲ目的トシタル場合

是モ理論カラ云ヘバ貨幣ハ强制通用ノ力ヲ持ッテ居ルモノデアル、即チ百圓ノ債務ヲ負ウテ居ル者ガ或貨幣百圓ヲ以テ辨濟ヲ爲サントスルニ當ッテ債權者ガ之ヲ拒ムコトガ出來ナイノデコソ貨幣ノ實ガアル、債權者ニ於テ之ヲ受取ルト受取ラナイトノ自由ガアル場合ニハ我我ガ謂フ所ノ貨幣デハナイ、シテ見ルト此貨幣ト云フモノハ全ク法律ノ力ニ依ッテ其性質ヲ持ッテ居ルモノデアッテ、法律ガ强制通用ヲ命ジテ居ラナイ以上ハ貨幣デハナイト謂ハナケレバナラヌ、是ニ於テ外國ノ貨幣ハ其本國ニ於テハ純然タル貨幣デアルケレドモ、其他ノ土地ニ於テハ眞ノ貨幣トハ云ヘナイ、故ニ純然タル理論カラ云ヘバ外國ノ貨幣ニハ貨幣ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルコトハ出來ナイ筈デアル、去ナガラ今日ノ如ク交通ノ頻繁ナル世ノ中ニナッテハ此純然タル理論ヲ貫クコトハ出來ナイ、日本人ガ外國ニ旅行スル場合ニハ外國ノ貨幣ヲ携ヘナケレバ不便デアル、ソコカラ致シマシテ外國ノ貨幣ヲモ矢張リ貨幣トシテ之ヲ取扱ハナケレバナラヌ必要ガアル、ソコデ第四百二條ノ第三項ニ於テ貨幣ニ關スル一般ノ規定ヲ外國ノ貨幣ニモ準用シテアル

前二項ノ規定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

即チ佛蘭西ニ於テハ金銀兩本位デアル、ソコデ債務者ハ其選擇ニ從ッテ金貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スモ銀貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スモ自由デアル、又英國ハ金貨本位デアル、併ナガラ矢張リ我邦ノ如ク補助貨トシテハ銀貨ガアル、故ニ補助貨ノ制限内ニ於テハ銀貨ヲ以テ辨濟ヲ爲シテモ差支ナイ、況ヤ何レノ國ニ於テモ本位貨幣ノ中デ色色ノ種類ガアリマスガ、其何レヲ以テ辨濟ヲ爲スモ差支ナイ、但特ニ或種類ノ通貨ヲ目的トシテ居ル債務ニ在ッテハ固ヨリ其目的タル貨幣ヲ給付シナケレバナラヌ、尙ホ特種ノ貨幣ヲ目的トシタル場合ニ於テ其貨幣ガ通用力ヲ失ッタトキハ矢張リ唯今申上ゲタコトガ當嵌ル、是ガ金錢債務ニ關スル第三ノ問題デアル

第四　外國貨幣ヲ以テ債權額ヲ指示シタル場合

是ハ只今ノ場合ト少シ違フ、只今ノ場合ハ外國ノ貨幣ヲ債權ノ目的ト爲シテ居ル場合、今度ハサウデナイ、唯債權ノ額ヲ外國ノ貨幣ヲ以テ指示シテ居ルノデアッテ、必ズシモ外國貨幣ヲ債權ノ目的トシテ居ル場合デナイ、是ハ今日デハ最モ頻繁デアッテ、例ヘバ日本人ガ英吉利若クハ佛蘭西デ買物ヲスル場合ニハ大抵其代價ハ英吉利若クハ佛蘭西ノ貨幣ヲ以テ計算シテアル、併ナガラ若シ之ヲ日本ニ於テ辨濟スル場合ニ於テハ日本ノ貨幣ヲ以テ之ヲ辨濟スルノデアル、唯債權ノ高ヲ外國ノ貨幣デ以テ示スニ過ギナイ、ソレハ丁度外國人ガ日本デ買物ヲ爲シテソレヲ外國デ以テ辨濟スル場合ト同ジコトデアル、亞

0370

米利加人ガ日本デ買物ヲシテ其代價ヲ亞米利加デ拂フ場合ニ債權額ハ日本ノ貨幣ヲ以テ定メテアルデアリマセウケレドモ、實際支拂ヲ爲スニハ亞米利加ノ貨幣ヲ以テスル、ソレト同ジコトデアル、斯樣ナル場合ニ於テハ當事者ノ意思ガ必ズシモ外國ノ貨幣ヲ債權ノ目的ト爲シテ居ルノデナイノデスカラ固ヨリ日本ノ貨幣ヲ以テ之ヲ支拂ッテ宜シイ、唯爲替相場ニ依ラナケレバナラヌ、爲替相場ハ毎日各新聞ニ出テ居ル、東京ノ爲替相場ハ大抵正金銀行ニ於テ定ッテ居ル、ソレニ依ッテ支拂ヲ爲セバ宜シイ

第四百三條　外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得

以上ハ金錢債務ニ關スル」トデアリマシタ、是ガ不特定物ヲ目的トスル債權ニ關スル第二ノ事デアッタ、今度ハ第三、利息ニ關スル御話ヲ致シマス

利息ノ定義ハ私ハ次ノ如ク下サウト思フ、「他人ノ財產又ハ他人ノ財產ニ屬スベキモノヲ消費シテ得ベキ利益ノ對價トシテ給付スルモノデアル」ト、先ヅ第一ニハ如何ナル場合ニ利息ヲ附スルカ、昔經濟上ノ知識ノ開ケナイ時代ニ於テハ何レノ國ニ於テモ利息ト云フモノヲバヒドク不利益ナル眼ヲ以テ見タモノデアル、是ハ歐羅巴ニ於テモ我邦ニ於テモ同ジコトデアッタ、殊ニ歐羅巴ニ於テハ耶蘇敎ガ勢力ヲ占メテ居ル時代ニ於テ利息ハ此上モナキ罪惡ノヤウニ見ラレテ居ッタ、耶蘇敎ノ法律ニ於テハ利息ヲ取ルコトハ堅ク禁ジテ居ル、其理由ガ頗ル幼稚ナ考カラ起ッテ居ル、牛馬ヲ飼ッテ居レバ子ヲ產ム、金錢ハ如何ニ久シク貯ヘテ置イテモ子ヲ產マナイ、然ルニ之ニ付テ利息ヲ取ルノハ甚ダ不當デアルト云フノガ耶蘇敎ノ理由、實ニ經濟上ノ理ニ暗イコト憐ムベキモノデアル、成程箪笥ノ抽斗ニ納レテ置イタリ瓶ノ中ニ納メテ土中ニ埋メテ置イテハ決シテ子ヲ產マナイ、併シ之ヲ利用スレバ少カラヌ利益ヲ生ズル、

ソレ故ニ利息ヲ取ルノハ實ニ至當ノ事デアッテ、寧ロ取ラナイ方ガ不公平デアルト思フ位デアル、ソレ故ニ今日デハ各國ノ法律皆利息ヲ取ルコトヲ許シテ居ル、去ナガラ耶蘇敎國ニ於テハ今日尙ホ耶蘇敎ノ法律ガ多少ノ勢力ヲ持ッテ居ッテ利息ヲ附スルコトニ付テ少カラザル制限ヲ設ケテ居ル、併シ經濟學者ヲ首ト致シテ今日ノ多數ノ學者ハ總テ之ヲ不當ナリトシテ居ルノデアリマスカラ、段段ト利息ヲ附スル制限ハ減ズル傾向ニナッテ居ル、我民法ニ於テハ之ニ付テ最モ自由ナル主義ヲ採用シテ居ル、即チ利息ヲ附スルコトニ付テハ殆ド何等ノ制限モ設ケテ居ラヌ、後ニ詳シク論ジマスルガ、金錢債務ノ不履行ノ場合ニ於テ損害賠償トシテ所謂遲延利息ヲ取ルコトニ付テモ他ノ損害賠償ト同樣デ、例ヘバ期限ノ定アル場合ニ於テ債務者ガ其期限ニ履行ヲ爲スコトヲ怠レバ直チニ遲延利息ヲ拂フ義務ガアルト云フヤウニ之ニ付テハ最モ自由ノ主義ヲ取ッテ居ル、尤モ法律ニ何等ノ明文ナク又當事者間ニ於テ特約ノナキ限リハ固ヨリ利息ヲ附セヌ、是ハ當事者ノ普通ノ意思ヲ考ヘテ此ノ如ク規定シテ居ル、併シ是ハ民法上ノ話デアッテ、商法ニ於テハ特約ナシト雖モ仍ホ利息ヲ附スルコトニナッテ居ル、商法第二百七十五條、「商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得」商人ガ其營業ノ範圍內ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得」、貸借ノ場合ハ勿論、立替ノ場合ト雖モ直グニ之ニ利息ヲ附スルコトガ出來ルトナッテ居ル、併シ民法ニ於テハ法律ノ明文又ハ特約ノアル場合デナケレバ利息ハ附セヌ、ケレドモ之ヲ外國ノ例ニ照セバ利息ヲ附スルコトニ付テ最モ自由ナル主義ヲ取ッテ居ルノデアル、外國ノ多クノ例ニ依レバ不履行ノ場合ニ利息ヲ附スルニハ特ニ裁判所ニ請求ヲシナケレバナラヌトカ、又ハ利息ヲ附スルニ付テハ明示ノ當事者ノ意思ガナケレバナラヌト云フ風ニ、利息ヲ附スルコトニ付テ制限的ノ規定ガ出來テ居ル、

尙ホ此處デチョット申上ゲテ置キマスノハ、此利息ヲ附スルト云フコトハ必ズシモ金錢債務ニ限ルコトデハナイ、ソレ故ニ是ハ金錢債務ト別ニ存スルモノデアル今日デハ金錢債務ノ外ニ利息ハ實際少イケレドモ理論上有リ得ル、又昔ハ實際ニ於テモ隨分頻繁デアッタ、例ヘバ米ヲ借リテ其米ニ利息ヲ附スル、一石ノ米ヲ借リテ利息トシテ一斗ヲ拂ヒ、合セテ一石一斗ヲ拂フト云フコトモアッタ、理論カラ云ヘバ金錢債務ニ對シテ利息トシテ米ヲ拂ッテモ差支ナイガ、ソレハ實際減多ニナカラウト思ヒマス（稀ニハアルヤウナレドモ）、併シ反對ノ事ハ存外アルダラウト思ヒマス、米ヲ借リテ利息トシテ金錢ヲ拂フト云フコトハアルダラウト思フ、ソレデモ少シモ差支ナイ、ソレ等ハ特別ノ契約ニ依ルベキデアッテ、尙ホ慣習アレバ其慣習ニ依ルコトモアル、是ガ第一ノ問題

第二ニハ利率――利率ニハ法定利率ト約定利率トアル、「法定利率」ト云フノハ法律ニ利息ヲ附スベキコトヲ定メテ而モ其利息ノ割合ガ定メテナイ、或ハ當事者ノ契約ニ利息ノ割合ガ定メテナイトキニ單ニ「利息」ト云ヘバ如何ナル割合ヲ以テ之ヲ拂フベキカト云フコトヲ定メタモノデアル、適用ハ債務者ガ債務ヲ履行シナイ爲メニ遲延利息ヲ拂フベキ場合ニ最モ多イノデスケレドモ其他ノ場合ニ於テモアル、是ハ現行法ニ於テハ民事ニ在ッテハ五分、百圓ニ付テ年五圓、商事ニ在ッテハ六分、百圓ニ付テ年六圓ノ利息デアル、今日デハ外國ニ比シテ是ハ高イ方デス、外國デハ昔ハ此位ノ利率デシタケレドモ今日ハモット安イ、ケレドモソレハ經濟上ノ狀態ニ依ッテ極ルコトデスカラ仕方ガナイ、民法第四百四條ニ利息ヲ生スベキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トストアル

次ニハ「約定利率」是ハ原則トシテ自由、即チ法定利率ヨリモ低クスルコトモ出來レバ高クスルコトモ出來ル、年一割トシテモ宜シ又年四分トシテモ宜シイノデアル、例ヘバ銀行ガ預リ金ヲ致ス場合ニハ今日デハ多クハ三分カ四分、ソレカラ貸付ヲ爲ス場合ニハ多ク一割位取ル、ソレハ固ヨリ契約ノ自由デアル、併ナガラ今日デハ利息制限法ト云フモノガアッテ、利息ノ最高限ガ極ッテ居ル、即チ之ニ依レバ百圓未滿ハ年二割ヲ超ユルコトヲ得ズ、百圓以上千圓未滿ハ年一割五分ヲ超ユルコトヲ得ズ、千圓以上ハ年一割二分ヲ超ユルコトヲ得ズトナッテ居ル、此利息制限法ハ實際十分嚴重ニ行ハレテ居ル譯デハアリマセヌガ、併シ裁判所ニ訴フル場合ニ於テハ此制限ヲ超ユル利息ノ請求ハ出來ヌ、此制限法ハ私共ノ考ニハ殆ド有害無益ノモノデアルカラ廢シタ方ガ宜カラウト思ヒマスケレドモ今日ハ存シテ居ル、何故ニ私ハ之ヲ廢シテ宜シイト云フカト云ヒマスト、第一ニハ利息ノ割合ト云フモノハ經濟上ノ需要、供給ニ依ッテ定マルモノデアッテ、人爲的ニ法律ヲ以テ之ヲ制限スルコトハ經濟上不當デアルト考ヘテ居ルノデアル、即チ金融ノ有樣ト借主ノ信用如何ニ依ッテ低廉ナル利息デハ貸スコトガ出來ナイコトガアル、ソレヲ法律デ以テ無理ニ制限スルノハ甚ダ不當デアル、貸ス方デハ例ヘバ危險ガ多イカラ高イ利息デナケレバ貸スコトガ不利益デアル、假ニ十人ニ對シテ貸スト致シマシテ、何レモ信用ノ薄イ人デアルト致シマスト、其中ノ一人カ二人ハ多分返サヌデアラウト云フコトヲ豫算ニ立テナケレバナラヌ、サウスルト二割若クハ三割ノ利息ヲ以テ貸サナケレバ引合ハヌノデアル、ソレヲ法律ガ百圓未滿ナラバ二割ダケ取ッテモ宜シイ、其以上ハ一割五分若クハ一割二分ト云フヤウニ制限致シマシテハ到底經濟上貸借ハ出來ナイ譯デアル、又借リル方デモ縱令二割三割ノ利息ヲ拂ッテモ其金ガ四割、五割ノ利益ヲ生ズル場合ナラバ少シモ差支ナイ、或ハ其金ノ御蔭ニ破產ヲ免ルルト云フヤウナ特別ノ場合デアルナラバ如何ニ利息ガ高クテモ矢張リ借主ノ爲メニ利益デアル、ソレヲ法律ガ禁ズルノハ理由ノナイコトデア

0372

ル、第二ニ此法律ガ實際ニ行ハルルカト云ヘバ少シモ行ハレナイ、是ハ金貸社會ノ事情ヲ少シデモ御承知ノ方ハ私ノ說明ヲ俟タヌデアラウト思フ、當ニ高利貸ノミナラズ銀行ト雖モ利息制限法ハ殆ド度外ニ措イテ居ル、成程證書ニハ決シテ制限以上ノ利息ハ書イテナイ、必ズ制限以內ノ利息ガ書イテアル、其レ以上ノ利息ハ證書以外ニ於テ之ヲ授受スル、例ヘバ玆ニ一萬圓ノ金ヲ借リル人ガアル、法律ノ制限デハ一割二分ヨリ多ク利息ヲ取ルコトガ出來ナイ、サウシテ一割五分ノ利息デ之ヲ貸スト致セバ先ヅ一年ノ期限ト致シテ三分、即チ三百圓ダケヲ初ニ取ッテ仕舞フ、ソレハ證書以外デ以テ授受スルカラ後トニ大抵證據ハ殘ラヌ、サウシテ證書ニハ年一割二分、即チ例ヘバ毎月拂フ所ノ利息若クハ六个月毎ニ拂フ所ノ利息ハ一割二分ノ割合ヲ以テ拂フ、ソレデスカラ少シモ利息制限法ハ行ハレハセヌ甚シキニ至ッテハ利息制限法アルガ爲メニ利息ノ全部ヲ初ニ取ルコトガ盛ニ行ハレテ所謂高利貸社會ニ於テハ最モ普通ニ行ハレテ居ル、例ヘバ三个月ノ期限ヲ以テ一萬圓ヲ借ル、其利息ガ五割トスルト三个月デモ一割二分五厘ニ相當スル、證書ニ一萬圓ト書イテアッテモ實際ハ八千七百五十圓シカ渡サヌコトニナル、サウシテ證書ニハ矢張リ制限ダケノ利息ガ書イテアル、期限ニ至ッテ辨濟ヲシナイト裁判所ニ訴フル、サウシテ二重ニ利息ヲ取ラウト掛ル、證據ガナイト仕方ガナイ、利息制限法ノ御蔭デ却テサウ云フ慣習ガ出來タ、其以前ニハサウ云フコトノアッタコトハ聞カス、シテ見ルト利息制限法ハ有害無益ノモノデアッテ、少シモ法律ノ目的ヲ達シテ居ラス、其外ニモ此利息制限法ヲ潛ル方法ガアリマスケレドモ、今申上ゲタヤウナ方法デ潛レル、外國デハ隨分込入ッタ方法ガ行ハレテ居ル、今日デハ利息制限法ノ存シテ居ル國ハ一二ノ例外ヲ除ク外ナイガ、其代リ是ノ存シテ居ル國ハ重モニ刑罰ガアル、ソレデスカラ滅多ナ方法デ之ヲ潛ルト云フト刑罰ガ怖イカラ巧ミナ方法ヲ考ヘテヤッテ居ル、我邦デハソンナ方法ヲ考ヘル必要ガナイ、極ク容易ク之ヲ潛ル方法ガアリマス、萬一發覺シタ所ガ唯高イ利息ガ取レナイト云フ丈ケノ話デ別ニ法律上ノ制裁ハナイ、是ガ利率ノ御話

第三ニハ重利ノ御話

此重利ト云フモノハ從來我邦デモ歐羅巴デモ非常ナ罪惡ノヤウニ見ラレテ居ル、成程單ニ利息ヲ附スルコトサヘモ罪惡ノヤウニ思ッテ居ル眼カラ致シマシテハ利息ニ又利息ヲ附スルコトハ非常ニ罪惡ノヤウニ見エルデアラウト思フ、併ナガラ利息ヲ支拂フベキ時ニ之ヲ拂ハナイ場合ニ於テハ又ソレニ利息ヲ附スルコトハ理論カラ云ヘバ當然ナコトデアル、ソレ故ニ之ニ關スル特約ハ我民法ニ於テハ全ク自由トナッテ居ル、例ヘバ毎月利息ニ利息ヲ附シテモ宜イ、唯特約ナキトキニハドウスル、一般ノ理論カラ云ヘバ例ヘバ毎月利息ヲ拂フベキ場合ニ其支拂ヲ怠レバ損害賠償ノ名義ヲ以テ之ニ又利息ヲ附スルコトガ當然デアルヤウデアリマスケレドモ、併ナガラ慣習上利息ニ利息ヲ附スルコトハ滅多ニセヌ、日本デモ歐羅巴デモサウデアル、ソレ故ニ普通ノ意思ヲ推測致シマシテ我民法ハ第四百五條ノ規定ヲ設ケテ居ル

利息カ一年分以上延滯シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

此規定ニ依レバ特約ナキ限リハ利息ガ延滯致シマシテモ一年間ハ之ニ利ヲ附スルコトハ出來ナイ、其代リ利息ノ請求ニ付テ强制執行ヲ爲スコトハ固ヨリ法律ガ許シテ居ル、ソレヲシナイ以上ハ一年間ハ之ニ利息ヲ附スルコトハ出來ナイ、一年以上延滯シタ場合ニ於テハ直チニ利息ヲ附スルコトハ許サヌケレドモ、先ヅ催告ヲ爲シテ而モ支拂ヲ爲サヌトキニ此ニ始メテ之ニ利息ヲ附スルコトガ出來ル「元

0373

本ニ組入ルル」ト云フノハ更ニ之ニ利息ヲ附スルト云フ意味デアル、是ハ利息ノ支拂ノ時期如何ニ拘ハラヌ、利息支拂ノ時期ガ毎月デアラウトモ半年毎デアラウトモ又一年ノ終ニ於テスベキ場合デアラウトモ同ジコトデアル、即チ一年ノ終ニ於テ之ヲ爲スベキ場合ニ於テハ詰リ其時期ニ催告ヲ爲シテ尙ホ支拂ヲ爲サヌト云ヘバ直チニ之ヲ元本ニ組入レテ宜シイコトニナル

以上ニテ利息ノ御話ヲ終リ、同時ニ物ニ關スル債權ノ御話ヲ終リマシタ

第三款　選擇債務

第一　選擇債務ノ定義

選擇債務トハ「數箇ノ目的中、其一ヲ給付スベキ債務」デアル

第四百六條　債權ノ目的カ數箇ノ給付中選擇ニ依リテ定マルベキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

此債務ノ性質ニ付テ色色議論ガアル、少クモ三ツノ說ガ立チ得ル、第一ニハ此債務ハ數箇ノ目的ヲ持ッテ居ルモノデアルト云フ、例ヘバ馬又ハ牛ヲ給付スルト云ヘバ馬モ牛モ共ニ其債權ノ目的デアルト云フ、此說ハ確ニ誤ッテ居ルト私ハ思フ、馬又ハ牛ト云フカラ決シテ二箇ヲ同時ニ債權ノ目的トシテ居ルノデハナイ、就レカ一ツハ債權ノ目的デナイト謂ハネバナラヌヤウデアル、第二ノ說ニ據レバ是ハ目的ガ豫メ定マラヌモノデアル、馬又ハ牛ト云フカラドチラカデアッテ、初カラ定ッテ居ラヌノデアルト云フ、此說モ私ハ誤ッテ居ルト思フ、何トナレバ債權ハ其目的ガ定マラナケレバ成立シナイ、馬ダカ牛ダカドチラダカ分ラヌト云フナラバ債權ハ成立セヌ筈デアル、ソレデ第三ノ說ヲ私ハ主張シヤウト思フ、ソレハ私ノ考ニハ條件附債務ガ數箇包合シテ居ルノデアル、即チ馬又ハ牛ヲ給付スルト云フ債務デアルナラバ馬ヲ目的トスル所ノ債務ハ若シ牛ヲ選擇スルナラバ解除スルト云フ解除條件附債務デアリ、牛ヲ目的トスル所ノ債務ハ若シ馬ヲ選擇スルナラバ解除スルト云フ解除條件附債務デアル、其二ツノ債務ガ包合シテ居ルノデアル、選擇ガ一ノ條件デアッテ其選擇ガアレバ其結果デ一ノ債務ハ確定スルシ一ノ債務ハ消滅スル、或ハ其場合ニ於ケル條件ハ所謂隨意條件デアルカラ若シ之ヲ條件附債務トスレバ無效デアル筈デアルト云フカモ知レマセヌガ、ソレハ誤ッテ居ル、第一、所謂隨意條件（即チ無效ナルコトアルベキ隨意條件、以下同ジ）ナルモノハ單ニ條件ノ成就ヲ望ム意思ヲ表示スルダケデ他ニ何等ノ不利益ヲモ被ムルコトヲ要セヌモノデアル、然ルニ選擇債務ニ於ケル選擇ハ決シテサウ云フモノデハナイ、馬ヲ選擇スレバ最早牛ヲ選擇スルコトハ出來ナクナル、故ニ若シ牛ヲ選擇スル方ガ利益デアル場合ニ於テハ馬ヲ選擇スルノハ單ニ其意思ヲ表示スルダケデハナイ、不利益ヲ被ムラナケレバナラヌ、故ニ能ク利益ヲ考ヘテ之ヲ選擇シナケレバナラヌノデアル、ソレ故ニ是ハ所謂隨意條件デハナイ、從テ之ヲ條件附債務ト致シマシテモ決シテ無效デアルベキ筈ハナイ、第二、我民法ニ於テハ債務者ノ隨意條件ヲ停止條件トスレバ無效デアルケレドモ、他ノ場合、即チ債權者ノ隨意條件及ビ債務者ノ隨意條件デモ解除條件トシタモノナレバ有效デアル（民一三四）、故ニ選擇權ガ債務者ニ在ラザル場合ハ勿論、選擇權ガ債務者ニ在ル場合デモ私ハ選擇ヲ解除條件トスルガ故ニ縱令是ガ眞ノ隨意條件デアッタニシタ所ガ有效デアル

我說ニ對シテ反對ヲ試ムル者ハ必ズ言フデアラウト思フ、「若シ是ガ條件附債務デアルナラバ條件ニ關スル一般ノ規定ニ從ハナケレバナラヌ、然ルニ選擇債務ニ關スル規定ノ中デ一般ノ條件ニ關スル規定ト抵觸シテ居ルモノガアル、故ニ我立法者ハ決シテ條件附債務トハ見テナカッタノデアラウ」ト、即チ第

0374

百二十七條第二項ニ依レバ「解除條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ」トアッテ、條件ノ效力ハ既往ニ遡ラズト云フ主義ヲ取ッテ居ル、然ルニ選擇債務ニ付テハ反對ノ主義ヲ取ッテ居ル、第四百十一條ニ「選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス」トアル、是ニ由ッテ之ヲ觀レバ我立法者ハ決シテ選擇債務ヲ條件附債務トハ見テ居ラヌト云フ駁論ガ必ズ出ルデアラウト思フ、併シ私ハ此駁論ハ全ク價値ナキ駁論デアルト思フ、其譯ハ第一、法律行爲ノ效力ニ關シテ法律ガ規定ヲ設クル場合ニハ一般ノ規定ト特別ノ場合ニ於ケル規定ト牴觸スルコトハ決シテ珍シクナイ、例ヘバ同ジク隔地者間ノ意思表示デアッテモ原則ハ受信主義ヲ取ッテ、契約ノ承諾ニ付テハ發信主義ヲ取ルヤウナコトモアル、況ヤ條件ノ效力ニ付テハ我民法ニ於テモ決シテ絕對的ノ主義ヲ取ッテハ居ラヌ、第百二十七條ノ第三項ニ於テ「當事者カ條件成就ノ效果ヲ其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ」ト云ッテ居ル位、故ニ我立法者ハ選擇債務ニ於ケル當事者ノ意思ハ恰モ第百二十七條第三項ニ規定シテ居ル條件ノ效力ヲ既往ニ遡ラシムルノガ普通デアルト見テ居ル、無論當事者ノ意思ニ依ッテ此效力ハ變ルノデ選擇債務ニ於テモ選擇ノ效力ヲ選擇ノ時カラ始メテ生ゼシムルコトモ出來ル、初ノ草案ニハ明文ガアッタガ、今其明文ハ不必要トシテ削ッテアリマスケレドモ、固ヨリ出來ル、故ニ少シモ條件ノ性質ニ反スルコトハナイ、故ニ私ハ選擇債務ノ性質ハ寧ロ條件附債務デアルト信ジテ疑ハヌノデアル、是ガ選擇債務ノ定義

第二ニハ選擇權者ハ何人デアルカヲ申上ゲヤウト思フ

是ハ原則トシテハ債務者デアル、先キニ讀ンダ第四百六條ニ之ヲ規定シテ居ル、併シ是ハ固ヨリ公益的規定デハアリマセヌカラ特約ヲ許ス、即チ或ハ債權者ヲシテ選擇ヲ爲サシメ或ハ第三者ヲシテ選擇ヲ爲サシムルコトガアル

何故ニ原則トシテ債務者ニ選擇權ヲ與ヘタカト云フニ、是ハ債務ノ性質上然ルベキデアルト思フ、屢々申上ゲル通リ債權ノ目的若クハ債務ノ目的ハイツモ債務者ノ行爲デアル、行爲ノ性質ハ其行爲者ニ依ッテ定マル、行爲ト云フモノハイツモ意思ニ依ッテ行ハレマスカラ、其意思ニ依ッテ性質ノ定マルノガ當然デアル、然ラバ馬又ハ牛ヲ給付スルノ義務或ハ馬又ハ牛ヲ給付スルヲ債權ノ目的ト爲スト云フ場合ニ、其給付ト云フ行爲ハ誰ガ爲スカト云フト無論債務者ガ爲スノデアル、其行爲ガ馬又ハ牛ノ給付ト云フノナラバ其「又ハ」ト云フ選擇ハ誰ガ爲スカト云フト、普通ノ意味ニ於テハドウシテモ債務者ノ選擇ト云フ意味ニナラナケレバナラヌ、馬ヲ給付シテモ債務ノ履行ニナル、牛ヲ給付シテモ亦債務ノ履行ニナル、然ラバドウシテモ其選擇權ハ債務者ニ在ラナケレバナラヌ、實ニ疑ノナイコトデアルト思フ、左レバコソ此點ハ殆ド各國ノ法律ガ一致シテ居ル、今反對ノ立法例ノアルコトハ記憶セヌ、多分ナカラウト思ヒマス、併ナガラ是ハ固ヨリ公益ニ關スルコトデナイカラ或ハ特ニ債權者ニ選擇權ヲ與ヘ或ハ第三者ニ選擇權ヲ與ソルコトガアル、如何ナル場合ニ債權者ニ選擇權ヲ與フルカト云フト、債權者ノ利益ノ爲メニ契約ヲ爲ス場合ニ於テ、馬ガ宜カラウカ、牛ガ宜カラウカト躊躇シテ居ルトキニ、ソンナラアナタノ選擇ニ任セルカラ何時デモアナタガ選擇ヲシタラ宜カラウ」ト云フコトハ隨分アル、ソレカラ第三者ノ選擇、是ハ色色事情ガアラウト思フ、先ヅ以テ其契約ノ目的物ガ畢竟第三者ノ利益ノ爲メニスルモノデアルナラバ其者ノ望ニ任セルト云フコトガアル、或人ガ自己ノ細君ノ爲メニ反物ヲ買フト云フ場合ニ甲ノ反物ガ宜カラウカ、乙ノ反物ガ宜カラウカ決シ兼ヌル、是ハ細君ノ選擇ニ任セルト云フコトガアリ得ル、或ハ又美術品等ヲ買フ場合ニ於テ買主ハ美術眼ガナイ、ソコデ第三者ノ其道ニ明ルイ人ニ賴ン

0375

デ其人ニ選擇ヲシテ貰フコトガアルヽ、其他種種ノ事情ニ依ッテ第三者ヲシテ選擇ヲ爲サシムルコトガアリ得ルカラ、特約ヲ以テ之ヲ定ムルノハ固ヨリ差支ナイ、實ハ初ノ草案ニ明文ガアッタノデスガ、整理ノ際ニツイ削ルコトニナッタノハ甚ダ遺憾デアルト思フ、是ハ外ノ規定ト權衡ヲ得ル爲メニ削ッタノデスガ、今ヨリ之ヲ思ヘバ其削ッタノハ不得策デアッタコトヲ覺ルノデス、是ガ第二、選擇權者

第三　選擇ノ方法

之ニ付テハ各國ノ法律ガ全ク一致シテ居リマセヌケレドモ、我民法ニ於テハ單ニ意思表示ニテ足レリトシテ居ル、但其意思表示ハ相手方ニ對スル意思表示デナケレバナラヌトナッテ居ル、第四百七條第一項ニ

前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フ

トアル、是ガ今申上ゲタ當事者ノ反對ノ意思ヲ容ルルト云フ規定ノアッタノヲ削ッタ結果デ斯ウ云フヲカシイコトニナッテ居ル、「前條ノ選擇權」トハドウ云フコトデアルカ、チョット分リ惡イ、見樣ニ依ッテハ是ハ債務者ノ選擇權ト讀メナイコトモナイ、併シサウ云フ意味デナイコトハ殆ド疑ナイ、初ニハ詰リ債權ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依ッテ選擇權ハ定マルベキデアッテ、其定マラナイ場合ニハ債務者ニ屬スルトアッタ、ソレヲ削ッタモノダカラ斯ウ云フヲカシイコトニナッタ、併ナガラ「前條ノ選擇權」ト云フノハ最モ廣イ意味デアッテ原則トシテハ債務者ノ選擇權、特約アレバ債權者ノ選擇權ト云フ意味デアル證據ハ「相手方ニ對スル意思表示」トアル、若シ是ガ債務者ノ意思表示ナラバ必ズ債權者ニ對スル意思表示トナケレバナラヌ、債權者ニ對スルノミナラバ「相手方」トハ言ハヌ、故ニ是ハ固ヨリ廣イ意味デ使ッテアルコトハ疑ナイ、デスカラ原則トシテ「相手方」ト云フノハ債權者デアルガ、特約ガアレバ相手方ガ債務者ノコトモアル、ソレニ對シテ意思表示ヲ爲スノデアル

此意思表示ハ確定ノモノデアッテ後トカラ取消スコトハ出來ナイ、第四百七條第二項

前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

殆ド言フヲ俟タザルコトデアリマスケレドモ、隨分外國ニハ反對ノ例ガアルカラ特ニ此規定ヲ設ケタ、舊法典ノ如キモ單ニ選擇ノ意思表示ヲ爲シタル丈ケデハ取消ガ出來ルコトニナッテ居ル、ソレハ財產編第四百三十條ニアル

是ハ選擇權ガ債務者又ハ債權者ニ屬スル場合デアリマスガ若シ選擇權ガ第三者ニ屬スル場合ニハドウデアルカ、此場合ニ於テハ三ツノ主義ガアリ得ル、第三者ハ必ズ債權者ニ對シテ意思表示ヲ爲サナケレバナラヌト云フ主義ト必ズ債務者ニ對シテ意思表示ヲ爲サナケレバナラヌト云フ主義ト、ソレカラ債權者及ビ債務者ニ對シテ意思表示ヲ爲サナケレバナラヌト云フト主義トアリ得ル、併ナガラ此三ツノ主義ハ孰レモ餘リニ偏屈ナル主義デアルト謂ハナケレバナラヌ、抑モ第三者ハ當事者トノ間ニ於テ何等ノ關係モナイ、然ラバ特ニ債權者ニ對シテ爲サナケレバナラヌカ、債務者ニ對シテ爲サナケレバナラヌト定ムル理由ハナイ、況ヤ債權者及ビ債務者ニ對シテ之ヲ爲サナケレバナラヌト云フノハ餘リニ窮屈デアル、元元無關係ノ人デアルカラ利害關係者ノ或者ニ對シテ意思表示ヲスレバ宜シイ、債權者モ債務者モ共ニ債權ニ關シテ利害ヲ持ッテ居ル者デアル、普通ハ同ジヤウニ利害ヲ持ッテ居ル者デアルカラ、其一方ニ對シテ意思ヲ表示サヘスレバ宜イト我民法ハ定メタノデアル、第四百九條第一項

第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

0376

是デ選擇ノ方法ヲ終リマシタ

次ニ選擇權者ガ選擇ヲ爲サザル場合ニ於テハドウナルデアラウカト云フコトガ第四ノ問題デアル

先ヅ當事者ノ一方、債務者若クハ債權者ガ選擇權ヲ有スル場合ニ付テ申シマスルト――何等ノ規定モナク純然タル理論カラシテ考ヘテ見ルト、選擇權者ガ選擇ヲ爲サヌケレバ相手方ハイツマデモ待ッテ居ラナケレバナラヌ、債務者ガ選擇權ヲ有スル場合ニ選擇ヲ爲サヌケレバ債權者ハイツマデモ債權ノ履行ヲ得ルコトガ出來ナイ、債權者ガ選擇權ヲ有スル場合ニ於テ選擇ヲ爲サヌケレバ債務者ハイツマデモ債務ヲ免ルルコトハ出來ナイトナルベキデアル、所ガ是ハ相手方ニ取ッテ非常ニ迷惑ナコトデアッテ當事者ガ初メ債權債務ノ關係ヲ生ズル際、即チ最モ多クノ場合ニ於テハ契約其他ノ法律行爲ヲ爲ス場合ニ於テ此ノ如キ不確定ノコトガ長ク繼續シヤウトハ豫想シナカッタニ相違ナイ、故ニ何トカシテ速ニ債權者ハ其債權ノ履行ヲ得、債務者ハ速ニ其債務ヲ履行シテ義務ヲ免ルルコトガ出來ナケレバナラヌノデアル、是ニ於テ民法第四百八條ニ明文ヲ設ケタ、即チ此規定ニ依レバ選擇權者ガ催告ヲ受ケテモ猶ホ選擇ヲ爲サザル場合ニ於テハ選擇權ガ相手方ニ移轉スルトナッテ居ル、即チ此場合ニ於テハ選擇權者ガ其選擇權ヲ拋棄シタモノト法律ハ看做スノデアル

第四百八條　債權ガ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間內ニ選擇ヲ爲サザルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

勿論債權ガ辨濟期ニ在ラヌケレバナラヌ、期限モ到來シナイ中ニ催告ヲスルコトハ無論出來ヌ、併シ期限ハ既ニ到來シテ居ル、又ハ單純債務デアッテ初ヨリ債權ガ辨濟期ニ在ルトキニ選擇權者ガ選擇ヲシナイ、ソコデ相手方カラシテ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲ス、此「相當ノ期間」ト云フノハ固ヨリ事實問題デ爭ガアレバ裁判所デ決スルノ外ハナイノデスケレドモ、要スルニ選擇ヲ爲スニ必要ナル期間ト云フコトデアル、固ヨリ債權ノ性質ニ依ッテ多少長キ期間ヲ要スルモノト短キ期間ニテ足リルモノトアル、ソコデ「相當ノ期間」ト云フ漠然タル規定ニナッテ居ル、斯樣ニ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シテモ其期間內ニ選擇權者ガ選擇ヲ爲サザルトキハ其選擇權ヲ拋棄シタルモノト看做シテ選擇權ハ相手方ニ移轉スルト云フ主義ヲ取ッテ居ル、是ハ實際已ムコトヲ得ザル所ノ規定デアラウト思フ

當事者ノ一人ガ選擇權ヲ持ッテ居ル場合ニハ是デ宜シイノデアリマスガ、サテ第三者ガ選擇權ヲ有スルトキハドウデアル、是ハ理論上ニ於テハ隨分ムヅカシイ問題デアラウト思フ、第三者ニ選擇權ヲ與ヘテ居ル場合ニ於テハ一見シタ所デハ第三者ノ選擇ト云フモノガ一ノ條件デアッテ、第三者ガ二箇以上ノ給付ノ中ノ或物ヲ選擇シタナラバト云フ條件ガ債權ノ成立ニ繫ッテ居ルヤウニ見エル、又實際當事者ノ意思ガ此ノ如クデアルコトモ決シテ珍シクハナイデアラウト思フ、去ナガラ多數ノ場合ニ於テ當事者ノ意思如何ト云フニ我立法者ハ第三者ノ選擇ガ債權ノ成立ヲ繫ラシメテ居ル條件デハナイト見テ居ル、甲ノ馬カ乙ノ馬カ、甲ノ織物カ乙ノ織物カト云フガ如ク其選擇ヲ第三者ニ任シテ居ル場合ニハ當事者ノ普通ノ意思ハ甲カ乙カ孰レカヲ與ヘヤウト云フノデアッテ、マルデ其孰レヲモ與ヘナイト云フガ當事者ノ意思デアルコトハ稀デアラウ第三者ノ選擇ハ、詰リ甲カ乙カ其二ツノ中ノ一ツヲ與ヘヤウト云フノガ當事者ノ意思デアルガ、孰レヲ與ヘタラバ宜イカト云フコトヲ第三者ニ判斷セシムルノデアル、立法者ハ見テ居ル、故ニ若シ當事者ノ指示シタ所ノ第三者ガ死亡シテ選擇ヲ爲スコトガ出來ナイ、精神病ニ罹ッテ選擇ヲ爲スコトガ出來ス、或ハ一定ノ期間ヲ設ケテ居ル場合ニ於テ第三者ガ遠隔ノ地ニ旅行シテ其期間內ニハ歸ッテ來ナイコトガ明カデアル場合ニハ到底第三者ガ選擇ヲ爲スコトハ出來ナイノ

0377

デアル、或ハ又第三者ハ其處ニ居ッテモ其選擇ヲ爲スコトヲ欲シナイ、當事者ハ我ニ依賴スル積リデアルカモ知ラヌガ、ソレハ迷惑デアルカラ斷ルト云ッタナラバドウスル、勿論其第三者ノ選擇ガ初ヨリ債權ノ成立ノ條件デアッタナラバ其當事者ノ意思ニ從フノデアルケレドモ、我立法者ハ普通ノ場合ニ於テ當事者ノ意思ハ此ノ如キモノデナイト見テ居ル、ソコデ其場合ニハドウスルカト云フニ我民法ニ於テハ債權ハ是ニ因ッテ消滅シナイ、矢張リ成立シテ居ル、唯第三者ノ選擇權ガ消滅スル、其結果ハ選擇債務ノ一般ノ原則ニ戻ッテ債務者ガ選擇ヲ爲スコトニナル、債務ノ履行ト云フ行爲即チ債權ノ目的ハ債務者ノ行爲デアル、而シテ行爲者ノ性質ハ行爲者ノ意思ニ依ッテ定マル、故ニ甲ノ馬カ乙ノ馬カ、甲ノ織物カ乙ノ織物カト申シタトキニハ通常債務者ノ選擇ニ在ルモノト立法者ハ見テ居ル、第三者ノ選擇權ガ消滅シタナラバ其本則ニ戻ッテ債務者ガ選擇權ヲ持ッテ居ルモノト定メテ居ル、ソレガ當事者ノ最モ普通ナル意思ニ適合シテ居ルモノデアルト立法者ハ見テ居ル、第四百九條ノ第二項ニ規定シテアル

第三者ガ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス

以上ニテ第四ノ問題ヲ終リマシタ、今度ハ第五ノ問題即チ選擇債務ノ目的ノ一ツ若クハ總テガ不能ナル場合ニ於テハ如何ニナルカト云フコトデアル、此不能ト云フノハ若シ特定物デアルナラバ物ノ滅失ガ即チ履行不能ノ一ツノ場合デアル、ソレカラ又作爲ノ義務デアルナラバ債務者ガ其作爲ヲ實行スルコトガ出來ナクナル、例ヘバ畫工ガ畫ヲ描ク約束ノトキニ右ノ手ヲ怪我ヲシタ或ハ病氣ノ爲メニ其自由ヲ失ッタト云フガ如ク作爲ガ事實上出來ナクナルヤウナ場合デアル

是ハ分ツト云フト二ツノ場合ニナルノデ債權發生前ニ既ニ不能デアッタ場合ト其後ニ不能ニナッタ場合トアル、選擇債務ノ發生スル前ニ其目的物タル特定物ノ一ツ若クハ總テガ既ニ滅失シテ居ッテ其給付ヲ爲スコトガ實際出來ヌヤウナ有樣ニアッタ、又ハ債務者ガ其當時腕ニ怪我シテ居ッテ、又ハ病氣ニ罹ッテ居ッテ、到底其事ガ出來ナイコトガ明カデアルト云フコト、是ハ滅多ニハナイコトデスケレドモ代理人ニ由ッテ契約ヲ爲ス場合ノ如キハ往往ニシテサウ云フコトガアル、第二ニハ債權發生ノ後ニ物ガ滅失シタ又ハ債務者ガ怪我ヲシタト云フヤウニ、アトカラ其原因ノ生ジタモノ、是ハ理論カラ言フト大變ニ違フケレドモ、只今ノ問題ニ付テハ畢竟同ジコトデアル、故ニ私ハソレヲ併セテ論ズルノデアル

先ヅ第一ノ場合ハ債權ノ總テノ目的ガ不能トナッタ、例ヘバ馬カ牛カト申シタ所ガ馬モ死ニ牛モ死ンダ、或ハ畫ヲ描クカ又ハ馬ヲ與フルカト云フトキニ馬モ死ニ又畫ヲ描クコトハ債務者ガ怪我ヲシタ爲メニ出來ナイト云フヤウニ總テノ目的ガ不能ニナッタ場合、此場合ニ於テハ若シソレガ債權發生前ニ生ジタナラバ債權ハ目的ナキガ爲メニ無效デアル、若シ債權發生ノ後ニサウ云フ事實ガ生ジタナラバ債權ハ是ニ因ッテ消滅スル、何レニシテモ債務者ハ責ヲ免ルル、唯此場合ニ於テ若シ過失者ガアルナラバ其過失者ハ損害賠償ノ責任ヲ負フ、通常ハ債務者デス、ト云フノハ債務者ガ債務發生ノ時ニ既ニ目的ガ滅失シテ居ッタノヲ知リナガラ隱シタ、又ハソレヲ知ラナイコトガ其者ノ過失デアル場合ニハ若シ是ニ因ッテ相手方ガ損害ヲ受ケタナラバソレヲ賠償シナケレバナラヌ、況ヤ債權發生ノ後ニ債務者ノ過失ニ因ッテ其履行ガ不能ニナッタ場合ニハ債權者ニ對シテ損害ノ賠償ヲシナケレバナラヌ、稀ニハ債權者ノ過失ニ因ッテ履行不能ノ原因ヲ生ズルコトガアル、此場合ニハ債權者ヨリ却テ債務者ニ對シテ損害賠償ヲ出サナケレバナラヌ場合モ有リ得ル、要スルニ過失者ハ損害賠償ノ責任ヲ負フコトハアルガ、債權其モノハ初ヨリ無效カ又ハ後日ニ至ッテ消滅スルノデアル、是ハ疑ナイ

第二ノ場合ハ其目的ノ中ノ一ツガ不能トナル、馬カ牛ト申シタ、其馬ガ斃レテ之ガ給付ヲ爲スコトガ出

0378

來ナクナル又ハ畫ヲ描クカ馬ヲ遣ルカト云フ、其畫ヲ描クコトガ負傷ノ爲メニ出來ナクナッタ、斯樣ナル場合ニ於テハ債權ハ如何ニナルデアラウカ、即チ一ッ丈ケガ不能トナッテ他ノ一ッハ履行ガ出來ルト云フ場合、或ハ同ジ理窟デアルケレドモ二ッナガラ不能トナッタトシテモソレガ同時ニ不能トナラナイ、其中ノ或物ガ先ヅ不能トナル、例ヘバ馬カ牛カト云フ、其馬ガ先ニ斃レテ牛ハソレヨリモ後ニ斃レタト云フトキニハドウナル、畫ヲ描クカ馬ヲ與フルカト云フトキニ債務者ガ先ニ怪我ヲシタ、ソレカラ後ニ又馬ガ斃レタヤウナトキハドウナル、此場合ニハ債權ノ總テノ目的ガ同時ニ不能トナッタノデハナイカラ當然債務ガ消滅シタトハ必ズシモ云ヘナイ、ソンナラドウナル、是ハ場合ヲ分ッテ論ジナケレバナラヌ、先ヅ債權發生ノ當時ニ既ニ一ノ給付ハ不能デアル、馬ヲ與ヘヤウト云ッテモソレハ既ニ斃レテ居ッテ與ヘルコトガ出來ナイト云フ場合ハドウデアル、此場合ハ無論其殘ッテ居ルモノヲ給付シナケレバナラヌ、即チ馬カ牛カト云ッタナラバ其殘ッテ居ルモノヲ給付シナケレバナラヌ、既ニ無クナッテ居ル馬ト云フノハ無效デアル、殘ル所ハ牛デアルカラ是非牛ヲ給付シナケレバナラヌ、是ハ疑モナク且各國ノ法律ガ皆一致シテ居ル

第二ノ場合、即チ債權發生當時ニハ皆不能デナカッタ、馬カ牛カト云フ、馬モ牛モチヤント現存シテ居ッテ、後日ニ至ッテ其一方ガ斃レテ履行ガ不能トナッタトキニハドウナル、是ハ場合ヲ細別シナケレバナラヌ、即チ三ッニ分タナケレバナラヌ

第一ハ天災ニ因ッテソレガ不能トナッタ場合、此場合ニハ殘ッテ居ルモノヲ給付シナケレバナラヌ、馬カ牛カト云フ、馬ガ斃レタナラバ何人ガ選擇權ヲ持ッテ居ッテモ牛ヲ給付シナケレバナラヌ、是モ各國皆一致シテ居ル、ナゼカト云フニ、此場合ニ於テ尙ホ選擇權アリトセハ債務者ガ選擇權ヲ有スル場合ニハ必ズ既ニ不能トナッタモノヲ選ブニ極ッテ居ル、債權者ガ選擇權ヲ持ツ場合ニハ必ズ其殘ッテ居ルモノヲ擇ブニ極ッテ居ル、ソコデ立法者ハ當事者ノ普通ノ意思ト公平ナル結果ヲ考ヘテ、天災ニ因ッテ無クナッタナラバ、マダ履行ヲシナイ中ニハ孰レノモノヲ給付スベキカト云フコトガ確定シテ居ナイ、然ラバ則チ物ノ滅失ノ危險ハ債務者ガ負擔シテ宜シイ筈デアル、債權者ノ方デハ孰レヲ貰フカ分ラヌ中ニ其一ッガ無クナッタ、是ハ債務者ノ不利益ニ於テ無クナッタモノト見ル方ガ穩當デアルト見テ居ル、是ハ雙務契約ニ於ケル危險問題ノ精神ト同一ノ精神カラ出テ居ルト私ハ思フ

第二ノ細別ハ選擇權者ノ過失ニ因ッテ目的ガ不能トナッタ場合、馬カ牛カト云フ、其馬ヲ選擇權ヲ持ッテ居ル者ガ過失ニ因ッテ殺シタ、債務者ガ馬ヲ危險ナ場所ニ引イテ行ッテ十分ノ注意ヲシナカッタカラ馬ガ大ナル怪我ヲシテ途ニ死ンダト云フヤウナノハ債務者ノ過失、若クハ稀ナ場合デハアルカモ知レヌケレドモ債權者ノ過失ニ因ッテソレガ斃レタ場合モ想像ガ出來ル、此場合ニ債權者ガ選擇權ヲ持ッテ居ッタナラバドウデアル、此場合ニ於テモ矢張リ殘存シテ居ルモノヲ選擇シナケレバナラヌ、即チソレガ債務ノ目的トナル、ソレハ又ナゼデアルカト云フニ選擇權者ガ自己ノ過失デ一方ノ目的ヲ不能トシタノデアル、是ハ見樣ニ依ッテハ己ガ他ノ物ヲ選擇スル意思デアルカラ滅失ニ歸セシメタ、故意ニテ物ヲ滅失スル場合ハ無論サウデス、例ヘバ馬カ牛カト云フ、馬ヲ態態殺ス者ハナイカモ知ラヌガ、牛ハ殺シテ賣ルト相當ノ直段ニナル、此場合ニ於テハ申スマデモナク畢竟馬ヲ給付シヤウト云フ意思ガアルカラソレデ牛ヲ殺ス、併シ求メテ殺シタノデナクテモ過失ニ因ッテソレヲ殺シタ場合ニハ之ヲ債務ノ目的トシヤウト云フ意思ハナカッタモノト見ル、ソレガアレバ特ニ注意ヲシナケレバナラヌ筈デアル故ニ此場合ニハ矢張リ殘存シテ居ルモノガ直グニ債權ノ目的トナルトナッテ居ル、是モ各國皆一致シテ居ル、唯此

0379

場合ニ於テハ選擇者ガ債權者デアル場合ノ如キハ多クハ債務者ニ對シテ損害ノ賠償ヲシナケレバナラヌ、馬カ牛カト云フノヲ選擇權ヲ債權者ガ持ッテ居リナガラ馬ノ方ヲ故意又ハ過失ニ因ッテ殺シタトキニハ債務ノ目的トシテハ牛ガ目的デアル、併ナガラ其馬ヲ殺シタコトニ付テ債權者ハ債務者ニ向ッテ損害ノ賠償ヲシナケレバナラヌコトニナル、ソレハ不法行爲ノ制裁デアル

第三ノ細別ハ選擇權ヲ有セザル當事者ノ過失ニ因ッテ目的ガ不能ニナッタ場合、馬カ牛カト云フ場合ニ選擇權ハ債務者ガ持ッテ居ル、然ルニ債權者ノ過失ニ因ッテ馬ガ斃レタ場合デアル、此場合ニ於テハ殘存シテ居ルモノノ上ニ債權ガ存スルトハ決シテ云ヘナイ、何トナレバ其目的ヲ不能ト爲シタ者ハ選擇權ヲ有セザル者デアル、故ニ若シ選擇者ガ馬ヲ擇バウト思ッテ居ル際ニ其馬ヲ相手方ノ過失ニ因ッテ斃レシメタナラバ之ガ爲メニ過失ナキ所ノ選擇權者(通常ハ債務者)ガ其選擇權ヲ失フベキ筈ハナイ、故ニ此場合ニ於テハ選擇者ハ孰レヲ選擇シテモ宜イ、多クノ場合ニハ其不能トナッタモノヲ選擇スルデアラウト思フ、サウスルト債務ヲ免レマス、併ナガラ必ズシモサウトハ限ラヌ、例ヘバ其滅失シタル物ノ價ガ貴クテ殘存シテ居ル物ノ價ガ賤シイコトガアル、此場合ニハ殘存シテ居ル物ヲ給付シテ之ヲ以テ債務ノ履行ト爲シ而モ其殺サレタルモノ、今ノ例デ云フト馬ノ價ガソレヨリ貴イナラバソレヲ損害賠償ノ名義ヲ以テ相手方ニ請求スルコトガ出來ル、要スルニ此場合ニハ選擇者ハ少シモ其選擇權ヲ害セラルルコトガナイ、舊法典ニハ此等ニ付テ大變細密ナル規定ガ設ケテアリマスケレドモ其結果ハ必ズシモ公平デナイ、新民法ハ簡單ニ今説明シタ丈ケヲ規定シテ居ル

第四百十條　債權ノ目的タルベキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ、債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス

スル能力ヲ喪失セシムルモノニシテ資格喪失ト云フニ同シ

三一條ニ列擧シタル權能ノ中ニ於テ六號乃至九號ノ規定ハ害有テ益ナシ將來删除スルコトヲ要ス

二五　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス(刑三三條)重罪ヲ犯スト雖モ重罪ノ刑ニ處セラレサルトキハ此規定ノ適用ナシ

第二項　停止公權

二六　停止公權ハ刑法第三十一條ニ列擧スル九種ノ公權ノ享有能力ヲ一時中斷ス故ニ期間ヲ經過スルトキハ……選擧權、被選擧權、年金權其他……喪失シタル所ノ公權ヲ回復ス官職ハ其例外ナリ(刑三三條)

二七　停止公權ハ禁錮又ハ監視ノ繼續スル間ヲ其期間トス(刑三三條三四條)但シ選擧、被選擧資格ハ禁錮滿期ノ後仍ホ若干年間引續キ之ヲ喪失スルコトアリ(衆選一〇四條)

第三章　刑ノ適用

第一節　通則

0380

一　刑ノ適用トハ法律ノ規定又ハ裁判ノ宣告ヲ以テ犯罪ニ相當スル刑ヲ示定スルヲ謂フ

例ヘハ刑法第三六六條ニ「人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二箇月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス」ト規定シ竊盜ニ對スル刑ヲ指定シタルハ即チ法律上ノ刑ノ適用ナリ又某ト云フ一定ノ竊盜犯人ニ對シ裁判官カ二箇月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ例ヘハ一年ノ重禁錮ニ處スト言渡スノ類ハ裁判上ノ刑ノ適用ナリ故ニ其雙方ヲ合シテ抽象的ニ云ヘハ刑ノ適用トハ或犯罪ニ對シ刑ヲ指定スルノ意味ナリ兩者ヲ區別シテ云フトキハ法律上ノ適用ハ同種類ノ犯罪ニ對スル總テノ場合ノ刑ヲ概括的ニ指定シ裁判上ノ適用ハ其罪ヲ犯シタル某ニ對シ裁判官カ具體的ニ刑ヲ指定スルモノト謂フヘシ

二　裁判ノ宣告ヲ以テ隨意ニ各罪ノ刑ヲ定ムルコトヲ得テ法律ニ何等ノ制限ナキハ之ヲ名ケテ刑ノ適用ニ關スル放任主義ト謂フ之ニ反シテ豫メ法律ヲ以テ各罪ノ刑ヲ定メ裁判上取捨伸縮スルコトヲ許ササルハ之ヲ名ケテ刑ノ適用ニ關スル法定主義ト謂フ共ニ弊害アリ故ニ現今ノ刑法ハ一般ニ一ノ折衷法ヲ採用シ刑ハ必ス豫メ法律ノ定ムルモノニアラサレハ之ヲ科スルコトヲ得スト雖モ其之ヲ定ムルニ方リテハ亦必ス裁判官ニ於テ多少ノ伸縮ヲ爲スコトヲ得ル餘地ヲ存シタリ

放任主義ハ刑ノ適用ヲ裁判官ノ自由ニ一任スルノ主義ナリ之ニ反對ナル極端ハ法定主義ニシテ科スヘキ刑ヲ一切法律自身ニ於テ指定シ裁判官ハ之ヲ加減スル自由ヲ有セサル主義ナリ此二主義ヲ比較スルニ放任主義ハ事情ニ適シタル刑ヲ言渡シ得ルノ便利アリト雖モ處分ノ統一ヲ得サルノ不便アリ法定主義ハ處分ノ統一ヲ保ツ長所アリト雖モ其統一タルヤ機械的ニシテ變化極リナキ各場合ノ事情ニ適シタル刑ヲ言渡ス能ハサルノ缺點アリ故ニ現今文明國ノ刑法ハ悉ク一種中間ノ法ヲ採用シ一方ニ於テ裁判官ハ法律ノ認メサル種類ノ刑罰及ヒ法律ノ認メサル刑期、金額ヲ言渡スヲ嚴禁スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ法律ハ或點ニ達スルマテ斟酌ヲ爲スノ自由アル刑ヲ指定シ其範圍内ニ於テハ裁判官カ自由ニ刑ヲ加減スルコトヲ得ルノ自由ヲ與フル主義ヲ採ルニ至レリ我現行刑法亦固ヨリ此主義ヲ採用ス

刑ノ適用ニ關シ現今一般ニ行ハルル折衷方法ノ最モ優レルハ勿論ナリト雖モ或法律ハ或ハ放任主義ニ傾キ他ノ或法律ハ法定主義ニ傾キ其程度ヲ異ニスルハ已ムヲ得サル所ニシテ現行法ノ如キハ稍ヤ法定主義ニ傾キ過キタルノ嫌アリト謂ハサルヘカラス將來改正スル場合ニハ尙ホ大ニ放任主義ニ傾キテ裁判官ノ職權ヲ以テ伸縮スルコトヲ得ルノ範圍ヲ擴張セサルヘカラス

三　法律ノ定ムル刑ヲ法律自身又ハ裁判官伸縮スルコトアルカ爲ニ爰ニ加重減輕及ヒ之ニ關係スル諸種ノ問題ヲ生ス

四　附加刑ニ對シテハ附加ノ罰金ヲ除ク外(刑七四條)加重又ハ減輕ノ問題ナシ

0381

現行刑法ハ其第一〇條ニ於テ(一)剝奪公權(二)停止公權(三)監視(四)罰金(五)沒收ノ五種ノ附加刑ヲ認ム第一ト第二ノ附加刑ハ第三二條乃至第三四條ニ據リ其期限一定スルカ故ニ加重減輕ノ問題ヲ生セス第三ノ監視モ亦第三七條乃至第四〇條ニ據リ期限一定サレ且監視ヲ設ケタル精神ヨリ論スレハ其期間ハ變更スル能ハサルモノト解釋セサルヘカラサルカ故ニ亦加重減輕ノ問題ヲ生セス第五ノ沒收ニ至リテハ第四三條ノ規定ヲ一讀スレハ加減スル餘地ナキ理由ヲ發見スルコトヲ得ヘシ此ノ如クニシテ附加刑中加減ノ問題ヲ生スルハ獨リ附加ノ罰金ノミニ限ラル

第二節　加重

第一項　通則

五　裁判官ハ一等又ハ一等以上ノ加重ヲ爲スコトヲ得ス斯ノ如キ職權ヲ認ノタル法文ナキヲ以テナリ故ニ最高度 Maximum アル刑ニ就テハ其最高度ヲ超ユヘカラス各本條ニ最高度ナキ刑(重罪ノ主刑)ハ其上級ノ刑ニ移ル可ラス例ヘハ第三〇〇條第二項ノ刑ハ五年以下ト云フ最高度ヲ有スル刑ナルカ故ニ最高度以上ニ上リテ言渡ヲ爲スヲ得ス同條第一項ハ輕懲役ト云フ名稱ヲ示シ特ニ最高度ヲ示ササル刑ナルカ故ニ此ノ如キ場合ハ上級ノ刑ニ移リ重懲役ニ處スト言渡スヲ得ス要スルニ裁判官ハ認定ヲ以テ刑ヲ加重スル職權ヲ有セス

六　之ニ反シテ法律自身一等又ハ一等以上ノ加重ヲ爲スコトアリ但シ別ニ又制限ヲ附シテ曰ク加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス(刑六六條)輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス(刑七〇條)違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ノ刑ニ入ルコトヲ得ス(刑七二條)ト

第二項　法律上ノ加重

七　法律上ノ加重ニ再犯加重、特別加重ノ二アリ再犯ノ加重ハ重罪、輕罪、違警罪一般ニ通シ特別ノ加重ハ各本條ノ示シタル犯罪ノミニ限ラル

八　再犯加重ハ再犯タル身分ニ基ク加重ナリ之ニ反シテ特別加重ハ身分ニ基ク場合(例、刑一六七條)ト客觀的事實ニ基ク場合(例、刑一七三條、二二七條)トアリ身分ニ基ク加重ハ共犯ノ場合ニ身分ナキ者ノ刑ヲ變セス(刑一〇六條、一一〇條)

再犯加重ノ問題ハ第九一條以下ノ規定スル所ナリ講義案第三編第三章ニ之ヲ論ス確定判決後再ヒ罪ヲ犯セリト云フ身分ノ關係ナリ之ニ反シテ特別加重即チ第二編以下ノ各條ニ於テ法律カ或刑ヲ加重スル場合ハ第一六七條、第一七四條第二項、第二〇五條、第二一五條第二項、第二三九條等其數甚タ多シ此ノ如ク身分ニ基ク特別加重、再犯加重ハ縱令共犯アリトシテモ其人以外ノ共犯者ハ刑ヲ加重サルルコトナシ之ニ反シ例ヘハ第一七三條ノ如キ客觀的事實ニ基ク特別加重ハ其罪ヲ犯シタル者一同

0382

ニ對シ刑ヲ加重セサルヘカラス何トナレハ一同カ事情ノ重キ罪ヲ犯シタルヲ以テナリ

第三節　減輕

第一項　裁判上ノ減輕

九　裁判上ノ減輕ハ刑法ノ所謂酌量減輕ナリ重罪、輕罪、違警罪ヲ分タス其情狀原諒スヘキモノアルトキハ裁判官ハ一等又ハ二等ノ減輕ヲ與フル職權ヲ有ス(刑八九條、九〇條)

第八九條ノ「所犯情狀原諒」ト云フヲ解スルニ二說アリ第一說ハ犯人其罪ヲ犯スニ至レル情實ノ恕スヘキモノアルヲ謂フト解シ第二說ハ犯罪ノ與ヘタル損害ノ輕微ナルヲ謂フト解ス共ニ採ルニ足ラス廣ク「所犯情狀原諒ス可キ者」ト云ヒテ右ノ二說ニ言フ如ク情實ノ恕スヘキモノタルト損害ノ輕微ナル場合タルトヲ區別セサル以上ハ其何レニ據テモ刑ヲ減スルヲ得換言スレハ裁判官ハ法律ノ科シタル刑ヲ重シト認定スレハ如何ナル事情ニ基クヲ問ハス酌量減輕ヲ爲スヲ得ト解セサルヘカラス

一〇　酌量スヘキ情狀アルヤ否ヤハ事實ノ認定ナリ故ニ之ニ對シテ上告ヲ爲スコト克ハス

何トナレハ上告審ハ事實ノ認定ヲ左右スルコト能ハサルヲ以テナリ

一一　法律上ノ加重又ハ減輕アル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ與フルコトヲ得(刑八九條)

一二　主刑ニ對シテ酌量減輕アリタルトキハ附加ノ罰金ニ對シテモ亦當然同等ノ減輕アリタルモノトス(刑七四條)

第二項　法律上ノ減輕

一三　法律上ノ減輕ニ宥恕減輕、特別減輕、自首減輕(附全免)、未遂犯ノ減輕、從犯ノ減輕ノ五種アリ未遂犯、從犯ノ減輕ノ事ハ第三編ニ讓ル

未遂犯、第一二二條、第一二三條、從犯、第一〇九條參照

一四　宥恕減輕……ノ一ハ年齡ニ基キ一等又ハ二等ノ減輕ヲ與フル場合是ナリ第一編第五章一〇號ニ見ユ(刑八〇條以下)重罪、輕罪、違警罪一般ニ通ス他ノ一ハ學說上挑發宥恕ト名クルモノニシテ殺傷罪ノミニ關シ二等又ハ三等ノ減輕ヲ與フル場合是ナリ(刑三〇九條乃至三一三條以下)何レモ主觀的ノ減輕ナルヲ以テ同一ノ原因ナキ他ノ共犯ノ刑ヲ變セス

三〇九條乃至三一三條ノ挑發宥恕ハ外部ノ刺擊ニシテ法文ニ列擧サレタルモノニ依リ人ヲ殺シ又ハ傷ケタル者ノ刑ヲ二等又ハ三等ヲ減スル規定ナリ幼者ノ智識ノ不十分ナルカ爲メ刑ヲ減スル場合ヲ宥恕ト名ケタルニ對シ普通人ノ道理心ヲ幾部分失ヒタル場合ノ減刑ヲモ同シク宥恕ト名ケタリ宥恕減輕ハ年齡ニ基クト挑發ニ基クトヲ問ハス其狀態ニ意思ノ關係ヲ含ムヲ以テ共犯者アル場合ニ同一ノ原因ナキ共犯者ノ刑ヲ變更スルコトナキハ勿論ナリ

0383

一五　特別減輕……各本條ニ於テ法律カ一定ノ犯罪ニ限リ刑ヲ減スルハ等シク特別減輕ナリト雖モ現行刑法ニ謂フ所ノ特別減輕ハ其中特ニ宥恕又ハ自首ノ名アルモノ即チ挑發宥恕及ヒ特別ノ自首減輕ヲ除カサル可ラス

特別加重ニ主觀的加重ト客觀的加重ノ區別アルニ均シク特別加重モ亦主觀的事實ニ基クコトアリ第一七八條、第二三〇條等ノ如シ又客觀的事實ニ基クモノアリ第一八六條、第一九〇條、第一九七條等ノ如シ而シテ主觀的減輕ハ其犯アル場合ニ他ノ共犯ノ刑ヲ變更セサルコト加重ニ付テ述ヘタルニ同シ

一六　自首減免……ハ犯人自ラ進ンテ相當ノ官署又ハ官吏若クハ被害者ニ未發覺ノ犯罪ヲ告知シタルヲ理由トシ法律カ其刑ノ全部又ハ一部ヲ免スル制度ナリ支那法系ニ屬スル諸刑典ハ古來汎ク之ヲ採用ス

犯人ノ自首ヲ理由トシテ刑ノ全部又ハ一部ヲ免スルノ規定ハ歐洲ノ法律ニ於テハ或一定ノ犯罪ヲ限リ各本條中ニ之ヲ設クルヲ常トス之ニ反シテ清國ノ法律ニ於テハ唐以來今日ニ至ルマテ總則中ニ其規定ヲ設ケテ謀故殺ヲ除ク外一切ノ犯罪ニ適用ス我現行法ハ此立法例ヲ襲用シタルモノナリ

一七　第一ノ條件トシテ犯人自ラ進ンテ其犯罪ヲ告知シタルコトヲ必要トス

(1)嫌疑ヲ受ケ相當官吏ニ推問サレタルニ因リ初メテ己ノ罪ヲ告クルハ自首ニアラスシテ一ノ自白ナリ(2)他人ノ犯罪ヲ告知スルハ告訴又ハ告發ニ屬シ自首ニアラス(3)但シ口頭ヲ以テスルト書面ヲ以テスルト自身ニ告知スルト他人ニ代告セシムルトヲ區別スルコトナシ

舊刑法中ニハ書面ヲ以テ自首シ又ハ人ヲシテ代リテ通知セシメタル場合ニ於テモ自首ノ效力アルヲ規定シタルニ拘ハラス現行刑法ニ此ノ如キ明文ナキヲ以テ或ハ犯人自身相當官署ニ出頭シテ口頭ヲ以テ首服セサルヘカラスト云フ者アリ然レトモ法文ニ斯ル制限ナキ以上ハ書面ヲ以テスルト代人ヲ以テスルトヲ區別セスト解釋スヘシ但自首ヲ減免ノ理由トスル立法ノ精神ヨリ推シテ之ニ一ノ條件アリト信ス元來自首減輕ヲ設ケタルハ刑ノ減免ナル利益ヲ以テ成ルヘク速ニ眞ノ犯人ヲ誘出シ之ヲ訊問シ處罰シ以テ無辜ヲ罰スル虞ヲ除カントスル精神ニ出ツルヲ以テ苟モ自首ノ效力ヲ保タントスル以上ハ犯人カ己ヲ訊問處罰シ得ル條件ヲ以テ首服シタルコトヲ必要トスヘシ彼ノ匿名ヲ以テ犯罪ノミヲ通知シ若クハ外國ヨリ書面ヲ以テ自首ノ通知ヲ爲ス類ハ減免ノ利益ヲ與フヘキモノニ非スト信ス

一八　第二ノ條件トシテ相當ノ官署又ハ官吏若クハ被害者ニ未發覺ノ犯罪ヲ告知シタルコトヲ必要トス

(1)相當ノ官署官吏トハ檢事局、警視廳、警察署、檢事、司法警察官等犯罪ヲ搜査スル職權アル官署官吏ヲ謂フ財產ニ對スル犯罪ニ限リ被害者ニ首服スルハ官ニ自首シタルト同一ノ取扱ヲ受ク(刑八七條)

茲ニ掲ケタル官署官吏ハ僅ニ一例ヲ示シタルニ過キス此外ニ於テモ苟モ犯罪ヲ搜査シ得ル職權アル

0384

官吏ハ其犯罪ニ關スル自首ヲ受クルノ職權アルモノト知ルヘシ

(2)未タ發覺セサル犯罪トハ搜査權ヲ有スル官署又ハ官吏犯罪ノ事實又ハ犯人ノ誰タルヲ知ラサル間ノモノヲ謂フ故ニ被害事實ノ屆出アルモ犯人ノ知レサルモノ又ハ被害者若クハ搜査權ナキ者ノミ犯人ノ誰タルヲ知リタルモノハ何レモ未發覺トス

發覺トハ何ソヤト云フ問題ハ刑法第八五條ノ關係ト刑事訴訟法第五六條ノ現行犯ノ關係トヲ區別シテ解釋セサルヘカラス現行犯ノ關係ニ在リテハ犯罪事實ト多クノ時ヲ隔テサル間ニ速ニ證據ヲ保存セシメントスル趣意ニ出ツルヲ以テ實行ノ際又ハ實行ヲ終リタル際ニ其犯罪ノ事實アルコト及ヒアリシコトヲ覺知シタルトキハ現ニ發覺シタル犯罪ナリ之ニ反シテ自首減免ノ關係ニ於テハ成ルヘク速ニ眞ノ犯人ヲ得テ之ヲ訊問處罰セントスル精神ナルカ故ニ縱令犯罪事實ハ己ニ官吏ノ知ル所ト爲リシトスルモ未タ其犯人ノ誰タルヲ知ラサル間ハ依然減免ノ利益ヲ與ヘテ犯人ヲ誘フノ必要アリ依テ犯人ノ知レサル間ハ發覺セサル事件ニシテ自首ノ效力アリト解釋セサルヘカラス

一九　自首ノ效力ハ犯罪ノ種類ニ因リテ同シカラス

(1)謀殺故殺ヲ除ク外一般ノ犯罪ニ就テハ一等ノ減輕ヲ與フ(問題、强盜殺人罪ニ就テハ自首減輕ノ適用アリヤ否ヤ)

現行法カ謀故殺ニ限リ自首減免ノ特點ヲ與ヘサルハ歷史上ノ理由ト理論上ノ理由トニ出ツ歷史上ノ關係ハ支那刑法ニ此ノ如キ先例アリト云フニ在リ理論上ノ關係ハ謀故殺ノ如キ重大ナル事件ハ刑ノ減免ヲ擔保トシ犯人ヲ誘フカ如キコトヲ爲ササルモ之ヲ逮捕スルニ難カラス且謀故殺ノ如キハ初ヨリ刑ヲ恐レスシテ犯スコトアル犯罪ナルカ故ニ之ニ減免ノ擔保ヲ與フレハ却テ犯罪ヲ奬勵スルト云フニ在リ現行法カ謀故殺ニ自首減免ヲ與ヘサルハ此理由ニ出テタルヘシト雖モ歷史ノ關係ハ重キヲ置クニ足ラス理論ノ關係ニ於テ謀故殺ハ容易ク發覺スト云ヘルハ事實ニ反ス又犯罪ヲ奬勵スルノ虞ハ自首ニ依リ當然刑ヲ減スト定ムルヲ改メテ減スルコトヲ得ト修正スレハ之ヲ除クコトヲ得結局無用ノ制限ナリト謂フヘシ

(2)財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者官又ハ被害者ニ自首シタル上其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタルトキハ自首ニ因ル一等減輕ノ外尙ホ一等ノ減輕……即チ併セテ三等ノ減輕……ヲ受ク其全部ヲ償還セスト雖モ半數以上ヲ償還シタルトキハ一等……即チ併セテ二等……ノ減輕ヲ受ク(刑八五條、八六條)

(3)總則ニ揭クル減輕ノ外若シ各本條ニ於テ自首ノ效力ニ關スル規定アルトキハ之ニ從フ(例、刑一二六條、一九二條、一二二六條等)

本文ニ引用シタル自首全免ノ特別條文ニ付テ一問題アリ此ノ如キ規定アル罪ニ付テ尙ホ總則ノ自首減輕ノ適用アルヤ否ヤ例ヘハ內亂ノ實行ニ著手シタル者尙ホ其發覺セサルニ當リ自首シタルトキハ一等ノ減輕ヲ與フヘキヤ否ヤ各本條ノ全免ニ關スル規定ハ特ニ其全免ニ必要ナル條件ヲ規定シタルニ止マリ總則ノ適用ヲ受クル精神ニ非スル例ヘハ內亂ニ關シ自首全免ヲ得ルトスル者ハ第一二六條ノ命スル條件ヲ具ヘ事ヲ擧ケサル間ノ自首ナラサルヘカラスト雖モ己ニ事ヲ擧ケタル後ニ至レハ刑ノ

0385

全免ヲ得ル能ハサルノミニシテ發覺セサル間ニ自首セハ總則ニ據リ一等ノ減輕ヲ受クヘシ

(4)自首ハ自首シタル者ニ限リ減免ノ利益ヲ受ケ他ノ自首セサル共犯ニハ其效力ヲ及ホサス(一〇六條)

第四節　加減例及ヒ加減順序

二〇　法律ノ規定又ハ裁判ノ宣告ヲ以テ刑一等又ハ一等以上ヲ加重減輕セントスルトキハ若干ノ刑期金額ヲ以テ一等ト爲スカ二種以上ノ加減ノ原因共存スルトキハ其間ニ先後ノ順序ヲ立ツルコトナキカノ二問ヲ生ス現行刑法ハ第一問ヲ加減例、第二問ヲ加減順序ト題スル章ノ中ニ規定セリ

第一項　加減例(刑六六條—七四條)

二一　加減例ハ刑一等ト稱スルモノノ標準ヲ定ム重罪ノ刑ト輕罪、違警罪ノ刑ト其標準同シカラス

二二　重罪ノ非國事犯ノ刑ハ一、死刑二、無期徒刑三、有期徒刑四、重懲役五、輕懲役……國事犯ノ刑ハ一、死刑二、無期流刑三、有期流刑四、重禁獄五、輕禁獄ノ等級ニ照シ刑名一ヲ一等トシテ加減ス(刑六七條)

二三　重罪ノ最下級ノ刑タル輕懲役ヨリ一等ヲ減セントスルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ……輕禁獄ヨリ一等ヲ減セントスルトキハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス(刑六九條)

二四　輕罪ノ刑タル禁錮罰金竝ニ違警罪ノ刑タル拘留、科料ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ以テ一等トナシ加減ス……例、二月以上四年以下ノ禁錮ニ一等ヲ加フレハ二月十五日以上五年以下……又一等ヲ減スレハ一月十五日以上三年以下ノ期間トナル(刑七〇條、七二條)

二五　輕重ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但シ禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ノ刑ニ入ルコトヲ得ス但シ拘留ハ加ヘテ十二日科料ハ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得(刑七〇條、七二條)

例ヘハ第三六七條ノ刑ニ一等ヲ加フルトキハ六箇月四分ノ一以上五年四分ノ一以下ノ重禁錮ト爲ル若シ總則第二四條ノ禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲スト云フ規定ヲ確守セントスルトキハ五年四分ノ一ト云フ刑期ヲ得タル場合ニ重罪ノ輕懲役ニ上ルカ又ハ四分ノ一ノ端數ヲ捨ツルカノ二者ヲ選ハサルヘカラス現行法ハ其中間ノ方法ヲ採リ加重ノ結果トシテ七年マテハ禁錮ノ名稱ヲ保存スルコトヲ許シタリ拘留、科料モ此例ヲ推シテ第七〇條第七二條ノ精神ヲ知ルコトヲ得ヘシ

二六　禁錮ヲ減盡シタルトキハ拘留ニ、罰金ヲ減盡シタルトキハ科料ニ處ス

0386

ルコトヲ得但シ拘留ハ一日以下ニ降スコトヲ得ス科料ハ五錢以下ニ降スコトヲ得ス

二七　輕罪違警罪ノ刑ニ就テ二等以上ノ加減ヲ施サントスルトキハ通加減スヘキカ遞加減スヘキカ同一ノ原因ニ出ツルトキハ通加通減スヘク別種ノ原因ニ出ツルトキハ加減順序ノ規定ニ據リ遞加減セサル可ラス

第二項　加減順序（刑九九條）

二八　刑法第九十九條ハ別種ノ加減ノ原因共存シタル場合ノ順序ヲ定メタリ

(1)從犯、未遂犯及ヒ各本條ノ特別加重減輕ノ原因存スルトキハ其加減ヲ先ニス而シテ此等ノ原因相互ノ間ニハ法律ニ別段ノ順序ノ規定ナキヲ以テ一等ノ加重ト減輕トヲ相殺スルコトヲ得

(2)以上ノ加減ヲ了リタル刑ニ基キ(一)再犯加重(二)宥恕減輕(三)自首減輕(四)酌量減輕トイフ順序ヲ履ミテ加減ス既ニ順序アル以上ハ勢ヒ遞加減スルコトヲ要ス又一等ノ再犯加重ト一等ノ宥恕其他ノ減輕トヲ相殺スルコト克ハス

第四章　刑ノ執行

第一節　通則

一　刑ハ裁判確定シタル後ニアラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス（刑五〇條、刑訴三一七條）裁判確定スレハ死刑ヲ除ク外ハ即日ヨリ之ヲ執行スルコトヲ得（刑訴三一九條）

二　執行ノ指揮ヲ與フルハ檢事ノ職ナリ（刑訴三二〇條）執行ノ職ニ當ルハ司獄官又ハ警察官若クハ執達吏ナリ

司獄官ハ刑ノ執行トシテハ自由刑全體ヲ執行スル職權アリ死刑又同シ但拘留ニ付テハ次ノ例外アリ警察官ハ警察署ノ留置場ニ於テスル拘留及ヒ沒收ノ一部分竝ニ監視ヲ執行スル職權アル執達吏ハ罰金科料及ヒ部分ノ沒收ヲ執行スル職權ヲ有ス

三　能力刑ハ宣告確定スレハ當然其效力ヲ生シ執行ニ就テ別段ノ問題ナキヲ以テ以下死刑、自由刑、財產刑ノ執行ヲ略述セントス

第二節　死刑ノ執行

四　死刑ノ執行ニ就テハ其方法、場所、時期ノ三問題ヲ生ス我刑法ハ(1)方法ニ於テ絞(2)場所ニ於テ獄內(3)時期ニ於テ大祀、令節、國祭ノ日及ヒ姙婦ヲ除ク外司法大臣ノ命令アリタル日ヨリ三日ノ間ト定ム（刑一二條乃至一四條、附則一

0387

條乃至四條、監施細二二條乃至二五條、刑訴三一八條、三二一條）

死刑執行ノ方法及ヒ場所ノ問題ハ其刑法ノ採用シタル主義如何ニ因リ著シキ差異ヲ生ス古ヘ刑法ヲ以テ世人ヲ威嚇スルノ道具ナリト認メタル時代ニハ種種ノ殘酷ナル執行方法ヲ採用シ且成ルヘク衆人ノ目ニ觸ルル場所ニ於テシタリト雖モ現今文明國ノ刑法ニ在リテハ單ニ犯人ノ生命ヲ奪ヒ絶對的ニ之ヲ陶汰スルヲ目的トスルカ故ニ方法ニ付テハ迅速ニシテ且確實ナルヲ條件トスルノ外別ニ苦痛ヲ與フルノ必要ヲ認メス場所ニ付テハ獄内ニ於テ一定ノ官吏ノ立會ヲ爲スノ外ハ他人ノ目ヲ避ケテ執行スルノ主義ヲ採用セリ

五　死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後一百日經過セサレハ之ヲ執行スル克ハス（刑一一條）但早産流産亦同シ（？）

六　死刑ノ執行トハ生命ヲ剝奪スルヲ謂ヒ奪命ノ方法タル絞首ヲ謂フニアラス故ニ一旦此方法ヲ了スルモ蘇生スルトキハ更ニ之ヲ執行セサル可ラス

第三節　自由刑ノ執行

七　現行刑法上自由刑執行ノ方法及ヒ場所ノ問題ノ要點ハ大略下ノ如シ

(1)徒刑ハ無期有期ヲ分タス男子ハ之ヲ島地ニ發遣シ婦女ハ之ヲ内地ノ懲役場ニ留メ共ニ定役ニ服ス（刑一七條、一八條）

(2)流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス（刑二〇條）

(3)懲役、禁獄、禁錮、拘留ハ内地ノ獄ニ入レ懲役、重禁錮ハ定役ニ服シ禁獄、輕禁錮、拘留ハ定役ニ服セス（刑二二條、二四條）

(4)定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ囚人ニ其幾分ヲ給與ス（刑二五條）

第一項　流刑制度

八　配流制度トハ囚人ヲ遠島又ハ邊地ニ移シテ終身又ハ一定ノ期間其自由刑ヲ執行スル方法ヲ謂フ之カ利害得失ハ其國其時代ニ適當ナル刑事移民地アルヤ否ヤニ因ツテ決スヘキ相對的ノ問題ナリト信ス

自由刑ニ處セラレタル囚人ヲ遠洋ノ殖民地ニ移シ又ハ露西亞ノ西伯利亞ニ於ケルカ如キ邊地ニ移住セシムル制度ハ古ヨリ各國ノ採用シタル所ナリ而シテ近世ニ至リ之カ利害得失ハ學者實際家ノ大切ナル研究問題ニ數ヘラレタル一ナルカ絶體ニ其當否ヲ斷定スル能ハス例ヘハ英佛ノ如ク適當ノ移民地アル國ニハ將來尙ホ之ヲ採用スル餘地アルヘシト雖モ現ニ我國ノ如キハ適當ナル場所ナキノ故ヲ以テ特別ナル新事實ノ生スルマテハ排斥スルノ外ナシト評スルノ外ナシ

第二項　拘禁方法

0388

九　囚徒ヲ監房ニ拘禁スル方法ハ雜居式（附分類雜居）、獨居式、折衷式ノ三種ニ大別スルコトヲ得特ニ注目スヘキハ折衷式ノ一種ニ數フヘキ階級制ナルヘシト雖モ之ト同時ニ尙他ノ制度ノ長所ヲ察シ彼是併用スルノ策ニ出ツヘキナリ

雜居式ハ其文字ノ示ス如ク晝夜一室ニ多數ノ囚人ヲ拘束スル拘禁方法ナリ昔ハ極端ナル雜居式拘禁法行ハレ老幼男女スラ區別セサリシ實例アリシト雖モ現今ニ至リテハ老幼男女ト云フ大ナル分類ハ之ヲ爲スト雖モ尙ホ一室ニ多數囚人ヲ拘禁スル方法ハ各國ニ存シ現ニ日本ノ如キモ尙ホ雜居式ナリ』此方法ハ手數ト費用トカ他ノ方法ヨリ比較的尠キモ囚人相互ノ間ニ思想ヲ交換スルノ途ヲ杜絶スル能ハス遂ニ監獄ヲシテ犯罪學校タラシムルノ弊アリ獨居式ハ晝夜共ニ犯人ヲ一室ニ拘禁スル方法ニシテ中世既ニ其實例アリシト雖モ近年ノ分房制ノ基礎ヲナセル獨居式ハ雜居式ノ弊ヲ救ハントシテ亞米利加ニ於テ始メテ試驗的ニ採用セラレタルモノナリ此方法ハ囚人相互ノ間ニ犯罪ヲ研究スル途ヲ斷チ再犯ヲ企ツル虞極メテ尠シト雖モ手數ト費用トニ於テ大ナル不便ヲ有スル短所アリ

折衷式ノ拘禁方法ハ尙ホ左ノ三種ニ區別スルコトヲ得

（一）晝間雜居夜間分房式ノ拘禁法　此方法ハ雜居式ト獨居式トノ長所ヲ採ラント試ミタルモノナルモ却テ雙方ノ短所ヲ合セテ暴露スルノ虞アリ

（二）階級制　此方法ハ自由刑ノ始ノ間ヲ獨居式ニ依リ拘禁シ漸ヲ追ヒテ雜居式ニ移ス方法ナリ此式ハ稍ヤ長期ノ自由刑ヲ執行スルニ適當ナル方法ナルモ亦單ニ此方法ノミヲ採用スルハ却テ不便ナリ是ニ於テカ左ノ方法ヲ生スルニ至レリ大略下ノ如シ

（三）刑期ノ稍ヤ短キモノハ其全部ヲ獨居式ニ依リ執行ス但僅ニ數日ヲ出テサル拘留ノ如キハ場合ニ依リ雜居式ニ依ルモ差支ナシ次ニ稍ヤ刑期ノ長キモノニシテ改心ノ見込アル者ハ階級制ニ依リテ執行スルコト即チ始ハ獨居式ニ稍ヤ改心シタル事實アルニ隨テ漸次ニ之ヲ雜居式ニ移スモノナリ終ニ再犯ノ虞ナキ者及ヒ到底改心ノ見込ナキ者ハ各〻之ヲ分テ同種類ノ者ヲ雜居セシム此最後ノ折衷方法ヲ巧ニ應用スルトキハ再犯ヲ防キ初犯ヲ豫防スル上ニ於テ大ナル效力アルヲ信ス

第三項　定役（附工錢）

一〇　定役トハ法令カ自由刑執行ノ方法ノ一トシテ囚徒ニ强制スル勞働ヲ謂フ其作業ノ施行ニ關シ受負業、混同業、官司業ノ三樣アリ各長短アルヲ免レスト雖モ經濟ノ本旨ニ戻ラス民業ヲ妨害セスシテ刑ノ目的ヲ達スルニハ官司業ヲ採ラサル可ラサルニ似タリ

第四項　衣食住

一一　囚徒ニ與フヘキ衣食住ノ品質及ヒ數量ハ規律ト衞生トノ要求ヲ滿スニ許ス限リ少キ經費ヲ以テスル方針ヲ採ラサル可ラス其國其時代ノ最下級民ヲ標準トシテ立論スルカ如キハ謬見ノ甚シキモノナリ

0389

第五項　獄内ノ賞罰

一二　賞ニハ賞表ヲ與ヘ(監四〇條)罰ニハ十六歳以上ノ者ニ對シテハ屏禁又ハ減食若クハ闇室十六歳未滿ノ者ニ對シテハ獨慎又ハ減食ヲ科ス(監四二條、四三條)獄内ノ賞罰其宜ヲ得ハ規律ノ保持及ヒ悛改ノ奬勵ニ巨效アルヘシ

第六項　假出獄、免幽閉

一三　流刑ヲ除ク外重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ行政處分ヲ以テ假ニ其出獄ヲ許スコトヲ得其條件トシテ

(1)無期徒刑ニ處セラレタル者ハ十五年其餘ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑期四分ノ三ヲ經過シタルコト

(2)刑期限内重罪又ハ輕罪ヲ犯ササリシコト

(3)獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アルコト

ヲ必要トス但シ其果シテ悛改ノ狀アリヤ否ヤヲ認定シテ假出獄ノ許否ヲ決スルハ一ニ當該官吏ノ職權ニ屬シ囚人之ヲ請求スル權利ヲ有スルニアラス(刑五三條、五七條)

一四　假出獄ヲ得タル者徒刑ノ囚ニ係ルトキハ仍ホ島地ニ居住シ其他ノ囚ニ係ルトキハ豫メ定メタル場所ニ居住シ本刑期限内特別ノ監視ヲ受ク(刑五四條、五五條、刑附四二條以下)

一五　假出獄ヲ許サレタル者出獄中更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯ストキハ直ニ出獄ヲ停止セラレ出獄中ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入サルルコトヲ得ス之ニ反シテ更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯スコトナキトキハ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入サルル結果刑期ノ滿了スルト共ニ本刑亦消滅ス(刑五七條)

一六　無期流刑ニ處セラレタル者五年ヲ經過スレハ行政處分ヲ以テ幽閉ヲ免セラレ島地ニ於テ地ヲ限リ居住スルコトヲ得有期流刑ニ處セラレタル者三年ヲ經過スルトキ亦同シ(刑二一條、五三條)

第四節　財産刑ノ執行

一七　罰金、科料、没收ハ檢事ノ指揮ニ因テ之ヲ執行スヘキコト他ノ刑ニ同シ(刑訴三三〇條)但金圓又ハ物品ヲ徵收スル任務ハ執達吏ニ在リ(執規三條)

一八　罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内、科料ハ十日内ニ之ヲ納完スルコト

0390

ヲ要ス（刑二七條、三〇條、四三條、四二條）沒收ニハ此ノ如キ猶豫期間ナシ

一九　若シ限内罰金又ハ科料ヲ納完セサルトキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但シ其金額何程巨大ナル場合ト雖モ換刑處分タル輕禁錮ノ期間ハ二年ヲ過クルコトヲ得ス（刑二七條、三〇條）

二〇　換刑處分タル輕禁錮又ハ拘留ハ罰金科料執行ノ一方法タルニ過キスシテ同一ノ名稱ヲ有スル自由刑ト全ク其性質ヲ異ニス

二一　換刑處分ノ期限内ニ罰金又ハ科料ヲ納メタルトキハ其經過シタル日數ヲ控除シ禁錮又ハ拘留ヲ免ス他人代納シタルトキ亦同シ（刑二七條三項）

第五章　刑ノ消滅

第一節　通則

一　刑ハ(1)其執行結了シタルトキ(2)犯人死亡シタルトキ(3)餘罪ノ刑確定シタルトキ(4)非常上訴成立シタルトキ(5)恩典アリタルトキ(6)期滿免除ヲ得タルトキ消滅ス

二　刑ノ消滅ト稱スルハ其實刑ノ執行權ノ消滅ニ外ナラス

三　刑ハ其執行結了シタルニ因リ消滅スルコト恰モ辨濟ニ因リ債務ノ消滅スルヵ如シ最モ適切ナル消滅ノ場合ナリ但シ前第四章ニ述ヘタルヲ以テ爰ニ之ヲ繰返サス

第二節　犯人ノ死亡

四　有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者死亡スルトキハ刑ヲ適用スヘキ物體消滅スルカ故ニ刑罰モ亦當然消滅ス古法ノ如ク遺骸ヲ罰スルコトナシ

五　佛國刑法及ヒ我現行法ノ草案ハ罰金科料ニ限リ其判決確定後ハ普通ノ債權ノ如ク遺產相續人ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ認ム而レトモ判決確定セサレハ執行力無ク確定スレハ債權ニ變ストイハハ結局財產刑ナキニ均シ故ニ我現行法ハ罰金科料ト雖モ犯人ノ死亡ニ因リ消滅スルコトヲ明言ス（刑附二〇條）

沒收ニ就テハ其明文ナシト雖モ罰金、科料同樣ニ解スヘキナリ

沒收ニ付テハ其附加刑タル性質ヲ有スルモノハ罰金、科料同樣ニ犯人死亡スレハ其執行權モ亦消滅スト雖モ行政處分タル性質ヲ有スルコト例ヘハ主刑ナキ禁制品ノ沒收ノ如キハ何人ノ手ヨリモ執行スルコトヲ得ヘシ

0391

第三節　餘罪ノ刑ノ確定

六　同一人ノ犯シタル二個以上ノ犯罪中一罪ニ對スル刑ノ宣告確定後ニ更ニ餘罪發覺シ之ニ對スル刑ノ宣告確定スルトキハ前發ノ刑消滅ス是其時ヨリ後發ノ刑ヲ併合シ執行ノ理由ヲ一變スルヲ以テナリ(刑一〇二條)

例ヘハ持兇器竊盜ヲ犯シ第三七〇條ノ適用トシテ輕懲役六年ニ處セラレタル者カ其後ニ至リ更ニ第二九四條ニ據リ無期徒刑ニ處スヘキ故殺罪ヲ犯シタル事實ヲ發覺スルトキハ第一〇二條ノ適用トシテ更ニ其無期徒刑ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス無期徒刑ヲ言渡シタルトキハ其刑ハ故殺罪ト持兇器竊盜罪トノ刑ト爲ルモノニシテ其間ニ前ノ六年ノ懲役消滅ス此法理ハ後ノ刑カ前ノ刑ヨリ輕ク又ハ等シキ場合ト雖モ同一ナリ

第四節　非常上訴ノ成立

七　非常上訴ニ非常上告ト再審トノ二種アリ甲ハ法律點ヲ理由トシ(刑訴二九二條)乙ハ事實點ヲ理由トシ(刑訴三〇一條、三〇二條)法ノ命スル制限内ニ於テ既ニ確定シタル判決ヲ破ラシムル非常手續ナリ既ニ刑ノ宣告確定シタル後ニ於テ……即チ刑ノ執行權生シタル後ニ於テ……之ヲ破毀スル效力アルカ故ニ非常上告及ヒ再審成立スルトキハ共ニ前刑ヲ消滅セシム

第五節　恩典

八　爰ニ恩典ト稱スルハ憲法第十六條ニ所謂大赦、特赦、減刑及ヒ復權ノ四ナリ何レモ公益ニ基ク大權ノ命令ナルヲ以テ一私人之ヲ拒絶スルコト克ハス

第一項　大赦

九　大赦ハ某ノ犯罪事件ニ對スル訴追又ハ裁判ヲ廢滅スルヲ以テ未タ其公訴起ラサルトキハ將來之ヲ提起スルコトヲ得ス既ニ公訴起リタルトキハ之ヲ續行スルコトヲ得ス裁判既ニ確定シタルトキハ裁判全部消滅ス此終ノ場合ハ純然タル刑ノ消滅ナリ

一〇　斯ノ如ク大赦ハ其事件ニ關シ法ノ一部ヲ中止スルニ均シキヲ以テ立法機關ノ一行動トナス例アリ(佛憲三條)ト雖モ運用ノ妙ヲ缺ク不便アリ我國ニ於テハ憲法ニ因リ天皇ノ大權ニ屬ス

一一　大赦ニ因テ有罪ノ確定判決消滅シタルトキハ一當然直ヶニ復權ヲ得(刑六四條)二又爾後再犯ノ事由トシテ數フルコトヲ得ス(刑九七條)

一二　大赦ハ刑ノ消滅シタル後ニ於テモ其適用アリ

0392

一三　大赦ニ遇ヒタル行爲ニ對シテ民事上ノ訴權アリヤ　積極說

大赦アリタルトキハ其事件ノ公訴權消滅スルカ故ニ公訴附帶ノ私訴ヲ爲スヲ得サルハ明カナリ然レトモ單純ナル贓物返還又ハ損害賠償ノ訴ハ普通ノ民事訴訟トシテ之ヲ爲スヲ得ヘシ何トナレハ損害ヲ加ヘタリト云フ事實ハ大赦ニ因リ消滅セシムルヲ得サルヲ以テナリ

第二項　特赦及ヒ減刑

一四　大權命令ヲ以テ一定ノ犯人ニ對シ確定ノ刑罰全部ヲ取消スハ之ヲ特赦ト謂ヒ一部ヲ取消スハ之ヲ減刑ト謂フ

憲法第一六條ニ謂フ所ノ減刑ハ言渡確定シタル刑ノ一部ヲ恩典ニ依リ免除スルノ意味ナリ但刑法ノ條文ニ特赦ト規定シタル語ノ中ニハ憲法ノ減刑モ含ムモノトス憲法第一六條ノ減刑ト刑法ノ減輕トヲ混同スヘカラス甲ハ刑ノ言渡確定シタル後大赦ニ因リ其一部ヲ免除スルヲ謂ヒ乙ハ刑ノ言渡ヲ爲ストキ裁判官カ刑ノ適用ヲ爲ス際ニ一等以上輕クスルヲ謂フ

一五　特赦減刑ト大赦トヲ比較スルニ左ノ區別アリ

(1)手續ニ於テ特赦減刑ハ當該官吏ヨリ之ヲ上奏シ　御裁可ヲ請フコトヲ要ス(刑訴三三一條)大赦ニ斯ノ如キコトナシ

(2)適用ニ於テ大赦ト異リ特赦減刑ハ裁判確定後刑ノ消滅前ニ限リ(刑訴三三一條)將來ニ刑ノ全部又ハ一部ノミヲ取消シ裁判其者ヲ廢滅セシメス

(3)效力ニ於テ赦狀中特ニ記載アルニアラサレハ復權ヲ得ス(刑六四條)將來再犯ノ事由ニ數フルコトヲ妨ケサル(刑九七條)等

一六　特赦減刑ノ運用其宜ヲ得ルトキハ(1)悛改ヲ奬勵シ

一ノ關係ニ於テ刑ノ執行中改悛シタル者ニハ假ニ出獄ヲ許ス規則アルモ假出獄ニ付テハ時期ノ制限アリ(五三條)其時期ニ達セサル中ニ於テモ特赦減刑ヲ以テ改悛セシムルコトヲ得ヘシ

(2)法ノ不備ヲ補ヒ

二ノ關係ニ於テ刑法ハ裁判官ニ刑ヲ減シ得ヘキ程度ヲ制限スルヲ以テ裁判官ノ爲シ得ルタケノ減輕ヲ爲シ終ルモ尙ホ其刑重シト認ムルトキハ大權ニ基ク減刑ヲ利用スルヲ得ヘシ

(3)裁判ノ誤ヲ止スコトヲ得ル利益アリ

三ノ關係ニ於テ裁判官ノ誤リタル儘確定シタル後非常上告又ハ再審ニ依リテ破ルコト能ハサルモノアルトキハ特赦又ハ減輕ヲ利用スルノ外ナシ

第三項　復權(六三條—六五條)

一七　復權ハ剝奪サレタル公權ノ享有能力ヲ付與スル大權命令ナリ故ニ將來ニ公權ヲ享有スルコトヲ得ル能力ヲ生スルノミニシテ宣告ノ當時享有セシ公

0393

權……例、年金權……其者ヲ回復スルニアラス

第六節　期滿免除—時效

一八　時效　Prescriqtio longi temporis, Verjährung トハ時ノ經過ニ因ル權利ノ取得 Usucaqio 又ハ消滅 Prescriptio ヲ謂フ刑事法ニアリテハ止タ消滅時效ニ比スヘキ公訴ノ時效及ヒ刑ノ期滿免除アルノミ（刑訴八條一〇條刑五八條—六二條）

一九　時效ヲ設クル理由ハ若干ノ時間ヲ經過シタル後ハ權利又ハ義務ヲ認ムルニ因テ却テ不便不利益ヲ釀スヲ以テナリ特ニ刑事ニ就テイフトキハ訴追又ハ執行上種種ナル積極的又ハ消極的ノ反對事情ヲ生スルカ故ナリ

時效ヲ認ムル理由ニ付テハ古來種種ノ學說アリト雖モ予ハ單ニ利害問題ヨリ生シタル制度ナリト信ス多クノ時ヲ隔テテ權利又ハ義務ヲ主張スルコトヲ得セシムル利益ト損害トヲ比較シ實際ノ經驗上寧ロ其權利義務ヲ消滅セシムルヲ利益トスルカ爲メニ此ノ如キ制度ヲ認メタルモノナリ例ヘハ刑事訴訟ニ於テ犯罪後多クノ時ヲ隔ツレハ被告ノミニ不利益ナル證據モ消滅シ又利益ナル證據モ消滅スト雖モ强テ其裁判ヲ爲サントスレハ曖昧ノ中ニ裁判ヲ言渡スノ己ムヲ得サルノ害アリテ利ナシト謂フヘシ即チ此ノ如キ利害關係ニ外ナラスト信ス

二〇　刑事法上時效ヲ認ムルニ付キ全部之ヲ刑法ニ規定スルアリ……例、獨刑六七條以下……刑事訴訟法ニ規定スルアリ……例、佛刑訴六三五條以下……我國ニ於テハ公訴ノ時效ヲ刑事訴訟法第八條第十條ニ規定シ刑ノ期滿免除ヲ刑法第五十八條以下ニ規定ス

第一項　適用ノ範圍及ヒ期間

二一　剝奪公權、停止公權及ヒ監視ニハ期滿免除ノ適用ナシ（刑六〇條、三二條、三九條、四〇條）禁制物ノ沒收ニ付キ亦同シ

二二　其餘ノ刑ニ付キ期滿免除ヲ得ヘキ期間ハ(1)死刑三十年　(2)無期徒流刑二十五年　(3)有期徒流刑ハ二十年　(4)重懲役重禁獄十五年　(5)輕懲役輕禁獄十年　(6)禁錮罰金七年　(7)拘留科料一年　(8)禁制物以外ノ沒收五年　(9)附加ノ罰金主刑ト同期間（刑五六條）

第二項　期間起算點

二三　前項ニ揭クル期間ハ對席判決ニ係ル刑ハ其執行ヲ遁レタル日ヨリ起算シ闕席判決ニ係ル刑ハ其宣告アリタル日ヨリ起算ス

0394

二四　期間ノ中斷……右ノ區別ニ從ヒ既ニ進行ヲ開始シタル期間ハ二個ノ原因ノ爲メ中斷サルルコトアリ

(1)執行ヲ遁レタル者一旦縛ニ就キ再ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ新ニ期間ヲ計算ス

(2)執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ新ニ期間ヲ計算ス故ニ毎年一回令狀ヲ發スルトキハ終生時效ヲ得ス（刑六二條）……獨刑七二條、伊刑九六條同主義、白刑九六條反對

第三編　罪狀

第一章　犯罪ノ類別

本章ニ揭クル類別ハ一箇ノ犯罪ヲ種種ノ點ヨリ觀察シテ其特徵ヲ示シタルモノトス故ニ第一節乃至第八節ニ揭クル所ノ孰レカノ一ハ必ス總テノ犯罪ノ有スル所ナリ例ヘハ兇器ヲ携帶シテ竊盜ヲ犯サントシ現場ニ於テ發覺シタル事實アリト假定セン之ヲ本章ノ分類ニ照セハ第一節ノ重罪ニ當リ（三〇條）第二節ノ普通犯ニ當リ第三節ノ作爲犯第四節ノ即成犯第五節ノ現行犯第六節ノ非親告罪第七節ノ非附帶犯第八節ノ非政治犯ニ當ルカ如シ

第一節　重罪、輕罪、違警罪

一　現行刑法ハ一切ノ犯罪ヲ大別シテ重罪、輕罪、違警罪ノ三種トナシ（刑一條）主刑ヲ以テ之カ區別ノ標準ト爲ス

(1)死刑、徒刑、流刑、懲役、禁獄ヲ科スルハ重罪ナリ禁錮罰金ヲ科スルハ輕罪ナリ拘留、科料ヲ科スルハ違警罪ナリ（刑七條、八條、九條）

(2)上ニ示ス刑ヲ減輕スヘキ場合ハ未遂犯、從犯、特別減輕ニ基ク減輕ハ罪質ヲ變シ宥恕減輕、自首減輕、酌量減輕ニ基ク減輕ハ罪質ヲ變セス（議論岐ル）

重罪、輕罪、違警罪ノ區別ハ法律ノ科スル刑ヲ以テ其標準ト爲スコト勿論ナリ但其法律ノ一旦科シタル刑ヲ更ニ加重又ハ減輕シタルトキハ加減スル前ノ刑ヲ以テ罪質ヲ定ムヘキカ加減シタル後ノ刑ヲ以テ罪質ヲ定ムヘキカノ問題ヲ生ス之ヲ解決スルコト左ノ如シ

（一）加重ノ場合ニハ其如何ナル原因ヨリ來レルヲ問ハス斷シテ罪質ヲ變スルコトナシ（七〇條二項、七一條二項）

（二）減輕ノ場合ハ如何ナル原因ニ基クヲ問ハス罪質ヲ變スルコトナシトスル說アリト雖モ予ハ第九九條ノ精神ニ基キ其原因中本文ニ揭クル如キ區別ヲ立テテ罪質ヲ變スルモノト然ラサルモノトヲ分ツヘシト爲ス說ノ正當ナルヲ信ス

現今ハ犯罪三分主義ヲ採レル刑法カ尙ホ立法例ノ多數ヲ占ム然レトモ其當否ニ付テハ議論極メテ多キノミナラス或ハ反對說ノ漸次勝ヲ制スルノ傾アリ而シテ他ノ學說若クハ立法例ノ如何ニ拘ハラス予ハ廢止說ヲ主張セント欲スル者ナリ元來此區別ハ歷史上ヨリスル特別ナル理由ト裁判所ノ構成又

0395

ハ訴訟手續等ノ目的ヨリ生シタル區別ニシテ理論上犯罪其モノニ此ノ如キ階級ヲ設ケントスレハ到底杜選ニ流レサルヲ得ス故ニ外國ニ生シタル歴史ニ關係ナキ我國ニ於テハ裁判所ノ構成竝ニ訴訟手續ニシテ犯罪三分主義ヨリモ一層簡便ナル方法アレハ之ヲ保守スルノ必要ナシト信ス

二　區別ノ實益ハ

(1)刑三二條、三四條、三七條、三八條、五三條、五六條、五七條、七〇條—七二條、八三條、九一條—九三條、一〇〇條、一〇一條、一〇五條、一〇九條、一一三條、一四七條、一五一條、二一八條、二二〇條、二九六條、三〇三條、四二五條一四號

(2)刑訴八條、四九條、五七條、五八條、六〇條、六二條、六七條、六九條、一二四條、一四二條、一四四條、一四六條、一四九條、一五七條、一六六條—一六八條、一七二條、二一二條、二一四條、二三五條—二三七條、二四〇條、二四一條、二六四條、三〇一條

(3)監則三五條

三　違警罪即決例(明治十八年九月三一號布)

第二節　普通犯、特別犯

四　普通犯トハ普通刑法(狹義ノ刑法)ニ觸レテ成立スル犯罪ヲ謂ヒ特別犯トハ普通刑法以外ノ刑罰法令ニ觸レテ成立スル犯罪ヲ謂フ特別犯ノ中ニハ普通刑法總則ノ例ニ據ラサルモノアル(刑五條)ヲ其區別ノ實益トス

此區別ハ違犯シタル法則ヲ標準トシタルモノニシテ狹義ノ刑法即チ吾人ノ研究シツツアル刑法ニ違犯シタル罪ハ普通犯ト爲リ其以外ノ刑罰法令ニ違犯シタル罪ハ特別犯ト爲ルモノナリ

普通刑法ノ犯罪ト特別法ノ犯罪トハ犯罪タル點ニ於テハ固ヨリ區別ナシ然レトモ若シ同一ノ事項ヲ雙方ニ規定シタル場合ニ於テハ特別法ハ普通法ニ勝ルトヱフ原則ノ適用トシテ特別法ニ依リ處分スヘキモノナリ猶ホ本問題ニ關係アル規則トシテ明治十四年第七二號布告ヲ參考スルコトヲ要ス

特別犯ニ關シテハ普通刑法總則ノ例ニ據ラサルモノアリ例ヘハ明三十八年五月五日法律第七一號賣藥稅法違反ノ如シ該法ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス同法一六條)但其普通刑法總則ノ例ニ據ラサルハ特ニ其旨ヲ明言シタル關係ノミニ限ラルルヲ以テ前示賣藥稅法違反ノ如キモ該法ニ示ササルコト例ヘハ幼者、狂者、瘖啞者ヲ責任無能力ト爲スコト、故意ニ出テサルトキハ責任ナキコト等ハ依然刑法總則ノ例ニ據ルヘキモノナリ

第三節　作爲犯、不作爲犯

五　作爲犯トハ積極行爲ニ依テ犯罪ノ成立シタル場合ヲ謂ヒ不作爲犯トハ消極行爲ニ依テ犯罪ノ成立シタル場合ヲ謂フ犯罪ノ種類ニ因リ作爲ニ依ルニア

0396

ラサレハ成立セサルモノト不作爲ニ依ルニアラサレハ成立セサルモノトアリトナス說ハ其內容ノ如何ニ因テ取捨セサル可ラス(行犯、不行犯、作爲ニ依ル行犯、不作爲ニ依ル行犯、作爲ニ依ル不行犯不作爲ニ依ル不行犯、禁示違反、命令違反)

第一　作爲犯、不作爲犯ナル區別ハ犯罪ノ種類ノ區別ニ非スシテ其成立シタル行爲ノ外形ヲ標準トシテ設ケタル區別ナリ故ニ殺人罪ト云フ一定ノ犯罪カ斬ル若クハ突クト云フ如キ積極行爲ニ因テ犯サレタルトキハ作爲犯ト爲リ衣服ヲ與ヘスト云フ如キ消極行爲ニ因テ犯サレタルトキハ不作爲犯ト爲ルモノナリ一派ノ學者ノ主張スル如キ或種類ノ犯罪ハ常ニ積極行爲ヲ以テ犯サル可キ性質ノモノ又他ノ種類ノ犯罪ハ常ニ消極行爲ヲ以テ犯サル可キ性質ノモノト論スルハ事理ニ適セサルナリ

第二　作爲犯、不作爲犯ナル區別ハ刑罰法令ノ禁止的規則及ヒ命令的規則ト離ルヘカラサル關係ヲ有スルモノニシテ法律ノ禁制スル規則ヲ破ルニハ其禁制シタルコトヲ爲スヲ要シ又法律ノ命令スル規則ヲ破ルニハ其命令シタルコトヲ爲ササルヲ要ス此意味ニ於テ作爲犯ハ禁制ニ違犯シタル場合ニ成立シ不作爲犯ハ命令ニ違犯シタル場合ニ成立スト論スルハ固ヨリ至當ナル解釋ト云ハサルヘカラス然リト雖モ第何條ト云フ定マリタル法文ハ常ニ禁制若クハ命令ノ一方ノミニ屬スルモノトスルハ狹キニ失シタル不當ノ解釋ナリ表面禁止的ニ規定シタル條文ハ裏面ニハ必ス命令ノ性質ヲ含ミ表面命令的ニ規定シタル條文ノ裏面ニハ亦必ス禁制ヲ含ムモノナリ第二九四條ノ「人ヲ殺シタル者」ト云ヘル語ハ人ノ生命ヲ奪フ所ノ斬ル若クハ突クト云フ如キ行爲ヲ爲ス勿レト云フ禁止的條文タルト同時ニ一定ノ人ニ生命ヲ奪ハサルノ行爲例ヘハ衣服ヲ與フルコト若クハ食物ヲ與フルコトヲ命令シタルモノト云ハサルヘカラス而シテ他ノ總テノ條文モ亦之ト同一ノ關係ヲ有ス

第四節　即成犯、繼續犯

六　即成犯トハ僅ナル時間內ニ所爲(行爲及ヒ結果)ヲ終結シタル罪ヲ謂ヒ繼續犯トハ多クノ時間ヲ費シテ所爲ヲ終結シタル罪ヲ謂フ

繼續犯ニ性質上ノモノアリ事實上ノモノアリ性質上ノ繼續犯ハ(1)數多度同一行爲ヲ繰返ス(慣行犯)カ(2)又ハ行爲ノ結果持續スル永續犯?)ニアラサレハ成立セサル犯罪ノ謂ナリ(刑四二五條一一號、同二七八條、二七九條、三二二條等)

事實上ノ繼續犯亦之ヲ二ニ細別スルコトヲ得

(1)　一ハ即時ニテモ終結スルコトヲ得ル性質ノ所爲ニ對シ犯人カ事實上多クノ時間ヲ費シタル場合ヲ謂ヒ(2)他ハ一回ニテモ罪トナルヘキ所爲ヲ數回繰返シテ而モ單ニ一罪ト成ル場合ヲ謂フ同一ノ法益(個人的ノモノヲ除ク)ニ對シ特定又ハ概括ノ一犯意ヲ以テ同一ノ侵害ヲ與フルコト是ナリ

序上ノ區別ハ(1)一罪數罪ノ差別(一〇八號以下參照)及ヒ(2)公訴ノ時效ノ起算

0397

點(刑訴一〇條)ニ關シ其實益アリ

茲ニ性質上ノ繼續犯ト名ケタルハ只一回ノ行爲ニ止マルカ又ハ僅少ナル時間繼續シタルニ止マルトキハ何等ノ罪モ成立セサルモノヲ意味ス左ノ二種ノ場合アリ

第一種ハ例ヘハ刑法第四二五條一二號ノ罪ニ於テ數度諸方ヲ徘徊シタル事實アルニ非サレハ犯罪成立セサル如ク數度同一ノ行爲ヲ繰返シ其當然ノ結果トシテ比較的多數ノ時間繼續スルニ非サレハ成立スルコト能ハサルモノ是ナリ

次ニ第二種ノ性質上ノ繼續犯ハ行爲其モノ若クハ行爲ノ結果持續シテ多クノ時間ヲ費シタルニ非サレハ其罪ト成ラサルコト例ヘハ不正ニ人ヲ監禁スル罪ノ如キ是ナリ僅ニ一二分間人ヲ幽閉スルモ監禁ノ未遂又ハ逮捕罪ト成ルコトアルハ格別監禁罪ノ既遂ヲ以テ論スル能ハサルナリ

事實上ノ繼續犯ノ第一種ノ例ハ他人ノ庭内ニ在ル動産物ヲ竊取スル爲メニ毎日一尺ツツ其位置ヲ移シ數日ノ後始メテ竊取ヲ遂ケタルカ如シ

事實上ノ繼續犯ノ第二種ハ或ハ名ケテ連續犯ト稱ス例ヘハ一ノ倉庫内ニ在ル動産物ヲ始ヨリ全部竊取スルノ意思ヲ以テ毎日其一箇ツツヲ取出シ數箇月ノ後其全部ヲ取出シタルカ如シ之ヲ第一種ノ事實上ノ繼續犯ト比較スルニ甲ニ在リテハ僅ニ器物ヲ一寸動カシタル所爲ヲ以テ一箇ノ竊盜既遂犯アリタリト云フ能ハスト雖モ乙ニ在リテハ一箇ノ目的物ヲ奪ヒタル行爲ヲ分離シテモ完全ナル竊盜既遂犯ナリ此點ヲ兩者ノ區別ノ眼目トス

連續犯ハ其一回ノ行爲ノミヲ分離シテ其罪ノ既遂タルヲ得ト雖モ犯人カ始ヨリ概括的ノ犯意ヲ以テ同一ノ法益ヲ侵害シタルカ故ニ其全部ヲ通シテ單ニ一箇ノ犯罪成立スト解釋スルヲ普通トス即チ前各、其性質ニ應シテ選擇スル所ナカルヘカラス之ヲ要スルニ一方ニ短期ノ受信的業務ヲ行フ者ハ他方ニ於テ短期ノ授信的業務ヲ營ミ長期ノ債務ヲ負フ者ニシテ始メテ長期ノ貸付ヲ行フヘキナリ「ワグネル」ハ銀行營業上ノ一大原則ヲ示シテ曰ク「銀行ノ受信的業務ノ性質ハ其銀行ノ行フヘキ授信的業務ノ性質ヲ決定ス」ト

第四節　信用ノ利害

以上數節ニ縷述セル信用取引、信用證券、信用機關ハ相待テ如何ナル利益及ヒ弊害ヲ一國ノ經濟ニ與フルモノナルカ先ツ之カ利益ヲ述ヘン

第一　信用取引ハ財貨ノ移轉ヲ容易ナラシメ隨テ一國ノ生産ヲ進捗スルコト大ナリトス試ニ信用取引禁止セラレタル場合ヲ想像センニ農商工業者ハ一方ニ於テハ資本ヲ得ルコト能ハス他ハ一方ニ於テハ其産出物ヲ賣却スルコト極メテ困難ナルヘシ

第二　有爲ノ才能ヲ抱ク者ニシテ資本ヲ缺ク者少カラス故ニ信用ニ依リ之ニ資本ヲ給シ以テ資本ト勞働トヲ結合調和セシメハ一國生産ノ發達ニ資スルコト少カラス蘇格蘭ニ於ケル産業ノ發達カ銀行貸付ノ一種タル「カッシュクレデット」ニ負フ所大ナルハ著名ナル事實トス又經濟事情ノ進歩スルニ隨ヒ企業者ハ主トシテ借用資本ヲ以テ事業ヲ營ムコト多ク「ベジョット」ハ英國カ他ノ歐洲諸國ニ對シテ商業上優勢ヲ占ムルハ英國ニ於ケル信用制度ノ發達與テ大ニ力アリト爲セリ

第三　右ニ述フルカ如ク資本ヲ借ル者カ利益ヲ得ルト共ニ之ヲ貸シタル者モ亦利息ヲ得テ利益ヲ受クルモノトス即チ自ラ所有スルニ於テハ單ニ貯藏スルニ止マリ毫モ利殖スルコトナキ貨幣モ銀行ニ預

0398

入ルルカ如キ方法ニ依リ相當ノ利息ヲ得ルカ故ニ自ラ資本ヲ生産ニ使用シ能ハサル人モ勤勉貯蓄ノ念盛ナルニ至ル

第四　遠隔セル場所ノ間ニ於テ支拂ヲ爲シ又同一ノ場所ニ於テモ巨額ノ支拂ヲ爲スニ當リ貨幣ヲ用フルトキハ其運搬又ハ計算ノ爲メニ時間ト費用トヲ要スルノミナラス危險モ亦之ニ伴フモノトス然ルニ信用證券ヲ用フレハ支拂容易ニシテ且安全ナリトス獨佛戰爭ノ後佛國カ五十億「フラン」ノ償金ヲ支拂フニ當リ二十五億「フラン」ハ手形ニ依レリト云フ又我政府トカ倫敦ニ於テ償金ノ受拂ヲ爲スヤ常ニ小切手ヲ用ヒ其金額ノ最大ナリシハ實ニ一千百萬磅ニ上レリ

第五　信用證券及ヒ信用機關ハ單獨ニ又ハ相俟テ大ニ金銀貨幣ヲ節約スルモノトス例ヘハ我國ニ於テ現今日本銀行カ保證準備ヲ以テ發行シ得ヘキ銀行券ハ其額一億二千萬圓トス若シ此銀行券ナクンハ則チ社會ノ需要ニ應スルカ爲メニ此巨額ノ貨幣ヲ製造發行セサルヘカラス爲替振替、手形交換等ニ依テ貨幣ノ授受ヲ省略スルコト少カラサルナリ

信用ハ又弊害ナキニ非ス即チ信用ニ依リテ借入レタル資本ヲ不生産的ニ消費スルトキハ是レ資本ヲシテ資本タル性質ヲ失ハシムル所以ナリトス此種ノ信用ハ債務者ノ浪費ヲ促シ遂ニ其債務ヲ辨償スルコト能ハサルニ至ラシム又信用ハ縱令生産的ナルモ往往投機ノ念慮ヲ盛ナラシメ過剩生産ヲ惹起シ彼ノ恐慌ノ原因ト爲ルコトアリ即チ世上ノ景氣順調ニ向ヒ物價ノ騰貴ヲ來スカ如キ場合ニ際シテハ製造者ハ成ルヘク速ニ其供給ヲ增加シ成ルヘク多クノ利益ヲ占メントシ遂ニ信用ヲ濫用シテ生産額ヲ增加シ爲メニ實際ノ需要ニ超過スルニ至ル是ニ於テ物價下落シ製造家ハ其負債ヲ辨濟スルコト能ハス資本ヲ貸與セル銀行モ亦弊害ヲ被リ遂ニ彼ノ恐慌ヲ起スニ至ル殊ニ賣買取引ノ大部分カ信用取引ニ屬スルニ當リテハ經濟社會ノ組織甚タ錯雜且微妙ニシテ其一部ノ破綻ハ忽チ其影響ヲ全部ニ及ホスモノナリ此ノ如ク信用モ亦弊害アルヲ免レスト雖モ其利益ヤ實ニ大ニシテ且其漸次ニ發達スルハ自然ノ勢ナリ「ゼヴォンス」曰ク取引ハ物物交易ニ始マリ而シテ再ヒ物物交易ニ終ル然レトモ第二ノ物物交易ハ第一ノモノト同シカラスト蓋シ第二ノ物物交易トハ貨幣ノ媒介ヲ要セサル信用取引ヲ謂フニ外ナラス之ヲ要スルニ健全ニ發達セル信用制度ハ一國ノ生産上ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナレトモ其發達ハ俄ニ之ヲ望ムコトヲ得ス第一、資本ノ蓄積大ニ進歩シ商工業既ニ隆盛ノ域ニ達シ第二、國民ノ德義一般ニ高ク第三、法律完備シテ裁判ノ執行安固迅速ナルヘク第四、政治上及ヒ經濟上ノ自由確立セサルヘカラサルナリ

第六章　商業

第一節　商業ノ意義及ヒ其利益

文化進ミ交通開ケ勞働分配行ハルルニ至リテハ初ヨリ交易ヲ目的トスル生産者ヲ生スルノミナラス所謂生産者ト消費者トノ間ニ立チテ財貨交易ノ媒介ヲ以テ其職業ト爲ス者現出スルニ至リ是レ即チ商人ニシテ商人ノ業務トスル所即チ商業ナリ之ヲ換言スレハ商業トハ財貨ヲ買入レ其性質、形體ニ著シキ變更ヲ加ヘスシテ再ヒ之ヲ賣却シ其間ニ利益ヲ收ムルヲ以テ目的トスル業務ヲ謂フ

商業ハ買入價格ト賣却價格トノ差異ヲ以テ其利益ト爲スモノナルカ故ニ不當ノ利益ヲ占ムルモノナルカ如シト雖モ決シテ然ラス其歸著スル所ヲ見ルニ商業ハ財貨ノ價格ヲシテ平均ヲ得セシムルモノトス何トナレハ商人ハ價格ノ最モ廉ナル地又ハ時ニ財貨ヲ買入レ其最モ騰貴セル地又ハ時ニ之ヲ賣却スル

0399

コトヲ努メ以テ需要供給ノ平均ヲ來セハナリ又商人ナル者ハ所謂生產者ト消費者トノ間ニ立チ兩者ヲシテ大ニ時間ト浪費トヲ節約セシム若シ生產者ニシテ自ラ其生產物ノ消費者ヲ求ムルニ於テハ其困難少カラス消費者モ亦商人アルカ爲メニ物品ノ品質、數量及ヒ時間ニ關シ自己ノ必要ニ應シテ之ヲ買入ルルコトヲ得

第二節　內國商業ニ對スル政策

國家カ內國ノ商業ニ對シテ施行スヘキ政策ハ要スルニ消極的ナリトス蓋シ商業者ノ最モ希望スル所ハ其運動自由ヲ極メ資本ノ使用上毫モ檢束ヲ蒙ラサルニ在リ而シテ工業等ニ比スレハ之ヲ自由ニ放任スルモ敢テ弊害ノ大ナルヲ見スト雖モ之ヲ自然ニ放任スルニ先チ行動ノ自由、競爭ノ公平ヲ妨クルモノアレハ之ヲ除去セサルヘカラサルナリ然レハ則チ一國ニ於ケル各種ノ生產ハ最惠ノ條件ヲ備フルモノ益〻發達シ他ノ劣等ノ條件ヲ有スルモノハ爲メニ衰頹スルコトアルモ是レ一時ノ損失ニシテ資本、勞働ヲ最モ有效ニ使用スルヨリ生スル永久ノ利益ハ甚タ大ナルモノナリ

右ニ述フルカ如ク內國ノ商業ニ對シテハ放任主義ヲ採ルヘシト雖モ商業ノ種類ニ從ヒ多少ノ制限ヲ加ヘサルヘカラス例ヘハ藥品、銃器、古物ノ如キハ諸國皆特別ノ規則ヲ設ケ行商ノ如キモ多少ノ制限ヲ被リ市場モ亦多クハ政府ノ認可ヲ要スルモノトス又彼ノ取引所ヲ見ルニ英、米二國ニ於テハ放任主義ヲ採レトモ歐洲大陸諸國及ヒ我國ニ於テハ之カ設立ハ政府ノ認可ヲ要シ又常ニ政府ノ監督ヲ受クルモノトス蓋シ取引所ノ利害得失ニ關シテハ世論一致セス之ヲ攻擊スル者ハ取引所ニ行ハルル定期取引ヲ以テ全ク投機取引トシ投機取引ハ經濟上有害無益ト爲スナリ然レトモ投機ナルモノハ取引所ニノミ行ハルルモノニ非ス且定期取引ハ必スシモ投機者流ニノミ行ハルヘキモノニ非ス眞正ノ農工業者ニ一種ノ保險手段ヲ供スルモノトス又取引所ニ於ケル定期取引ノ過半ハ投機取引ナリトスルモ其結果ヲ見ルニ物價變動ノ回數ハ之カ爲メニ增加スルモ其程度ハ却テ減少ス又國債債券、株券等ノ發行非常ニ巨額ニ上ルニ當リ取引所ノ如キ市場ナカランニハ之カ賣買ハ大ニ困難ヲ極メ隨テ此等有價證券ノ發行、流通ハ今日ノ如ク盛ナルヲ得サルナリ然レトモ取引所モ亦弊害ナキニ非ス其重ナルモノハ世人ノ投機心ヲ刺激、增長セシムルコトヲ是ナリ即チ賣買取引ニ關スル知識、經驗ナキ者モ亦取引所ニ於テ投機賣買ヲ爲スノ慣習發生スルナリ其他虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ虛僞ノ取引ヲ爲シテ故意ニ相場ヲ上下スルカ如キ買占、賣崩ヲ爲スカ如キ是ナリ要スルニ取引所モ亦利害相伴フヲ免レス「ロッセル」曰ク「今日ノ如ク分業ノ行ハルル國民經濟ニ於テハ取引所ハ尙ホ人身ノ心臟ノ如ク淸血ト共ニ惡血モ出入ス」ト即チ取引所ハ今ヤ經濟社會ニ於テ一ノ必要ナル機關ト爲リ多少弊害アリト雖モ之ヲ廢スルコトヲ得ス唯實際ノ事情ニ照シテ其弊害ヲ少カラシムル方法ヲ講スヘキノミ

第三節　外國貿易及ヒ外國貿易ニ對スル政策

世界ノ列國ハ氣候、地味等天然ノ情況ヲ異ニシテ又勞働、資本等人事ノ情態ヲ同シウセサルカ故ニ其生產スル財貨モ種類、品質、數量等ニ差異アルヲ免レス隨テ其間ニ財貨ノ交易行ハルルハ當然ノ事タリ而シテ各國カ外國貿易ニ依リテ如何ナル利益ヲ受クルカヲ見ルニ第一、自國ニ於テ生產スルコト能ハサル財貨ヲ得ヘシ第二、自國ニ於テ之ヲ生產スルトキハ多大ノ勞費ヲ要スル財貨ヲ比較的廉價ニ外國ヨリ輸入シ得ヘシ第三、外國貿易ハ地方的勞働分配ヲシテ益〻盛ニ行ハレシメ各國ヲシテ最モ自國ニ適合

0400

スル財貨ヲ生産セシムルニ至ル第四、從來自國ニ於テ十分ニ生産セル財貨ニシテ俄ニ其産額ヲ減スルコトアリ殊ニ穀物ノ如キハ然リトス然レトモ萬國同時ニ凶作ナルカ如キコトナキヲ以テ收穫豐饒ナル國ヨリ米穀ヲ輸入セハ以テ其不足ヲ補フコトヲ得ルナリ「ポーリュー」曰ク「外國貿易ハ穀價ノ騰貴饑饉ニ對スル保險ニ等シキ效力ヲ有ス」ト

外國貿易ノ利益ハ右ニ述ヘタルカ如シ然ラハ國家ハ內國商業ト同シク諸種ノ障礙ヲ除却シテ以テ貿易ノ進行ヲ全然自由ナラシムヘキヤ即チ國家カ毫モ干涉制限ヲ加ヘサルトキハ之ヲ稱シテ自由貿易ヲ行フト謂ヒ之ニ反シ外國ノ競爭ヲ防遏シ內國ノ生産ヲ保護、奬勵スルカ爲メニ外國品ニ關稅ヲ課スルカ如キ方法ヲ採ルトキハ之ヲ保護貿易ヲ行フト謂フ自由貿易ヲ行フ國ニ於テモ外國品ニ課稅スルコトアルモ其目的ハ國家ノ收入ヲ得ルニ在テ毫モ外國ノ競爭ヲ防クニ非ス英國ノ關稅ノ如キ即チ是ナリ

自由貿易、保護貿易ノ利害得失ニ關シテハ學者論客ノ多年辯論スル所ナリ自由貿易論者ハ主張シテ曰ク正當ナル交易ハ當事者ノ雙方ニ利益ヲ與フルモノニシテ國民間ニ於テモ猶ホ箇人間ニ於ケルカ如ク自由ニ交易ヲ行フトキハ勞働分配ヲシテ十分ニ行ハレシメ兩國共ニ利益ヲ受ク若シ夫レ外國人ニシテ內國人ニ比シ一層善良ナル若クハ一層廉價ナル物品ヲ供給シ得ルニ當リ人爲的ニ之ヲ我市場ヨリ排斥スルハ一部ノ生産者ノ爲メニ消費者一般ノ利益ヲ犧牲ニ供スルモノナリ何トナレハ保護セラレタル生産業ノ物品ハ其價格ノ騰貴ヲ來セハナリ又保護ニ依リテ成立セル生産ハ恰モ溫室內ニ成長セル植物ノ如ク必スシモ其國ノ自然ノ狀況ニ適合スルモノニ非ス然レトモ一旦成立セル以上ハ相當ノ資本ト勞働トヲ要スルカ故ニ此等ノ資本、勞働ハ其國ニ適セル他ノ生産業ヨリ移轉セサルヲ得ス是レ即チ資本ト勞働トヲシテ最大ノ效果ヲ生セシメサル所以ナリ而シテ保護ニ依リテ成立セル生産業ニ於テハ企業者自ラ依賴心ヲ生シ改良進步ヲ怠ルノ傾向ヲ生スルモノトス又重稅ヲ課シテ偶〻外國品ノ輸入減少スルトキハ自國ノ物品モ亦之ニ應シテ輸出減退セサルヲ得スト

次ニ保護貿易ノ論據モ亦一ニシテ足ラス左ニ其重要ナルモノヲ擧ケン

第一　保護貿易ハ幼稚ナル工業ヲ發達セシムルニ必要ナリトス蓋シ國民經濟ノ時期ニ三段アリ其第一段即チ農業時代ニ在リテハ自由貿易ヲ行ヒテ經濟事情ノ發達ヲ圖リ第二段即チ農工商ノ産業既ニ發達十分ナル時期ニ於テモ亦自由貿易ヲ行ヒ以テ他國ト競爭スヘシト雖モ第三段即チ工業ノ漸ク起ラントスル時期ニ於テハ保護稅ノ制度ヲ設ケテ之カ發育ヲ助ケサルヘカラス若シ之ヲ自然ニ放任セハ先進國ノ抑壓ヲ被リテ到底發達スルコトヲ得ス要スルニ此種ノ保護政策ハ經濟上ニ於テ國民ヲ敎育スル手段ニシテ之ヲ行フ當時ニ於テハ多少ノ損失アルヲ免レス何トナレハ保護セラレタル工業ノ發達尙ホ十分ナラサルニ由リ物品ノ生産費自ラ大ナレハナリ然レトモ其敎育的保護ニ依リテ新ニ生産力ヲ養成シ永遠ニ之ヲ利シ得ルトキハ將來ニ於ケル利益ハ現在ニ於ケル多少ノ損失ヲ償ヒテ餘アルヤ必セリ

第二　保護貿易ハ國內ニ種種ナル生産業ヲ成立セシムルノ利益アリトス若シ夫レ自由貿易ヲシテ十分ニ行ハレシムルニ於テハ各國ノ生産業ハ最モ其國情ニ適應スル物品ニ止マリテ他ノ物品ハ悉ク外國ノ供給ヲ仰クニ至ルヘシ然ラハ則チ一國ノ生存ハ大半外國ニ依賴スル所以ニシテ一旦外國トノ關係ニ異變ヲ生スルトキハ大ニ困難ノ狀態ニ陷ルヘキナリ

第三　保護貿易ハ內國ノ商業ヲ盛ナラシム而シテ內國ノ商業ハ外國貿易ニ比シテ確實ナリ何トナレハ內國ノ商業ニ於テハ市場廣大ニ失セサルカ故ニ需要供給ノ關係ヲ知ルコト外國貿易ニ於ケルカ如ク困難ナラサレハナリ且外國貿易ハ戰爭其他ノ事變ニ因リテ妨害セラルル場合內國商業ヨリモ多シトス

0401

要スルニ自由貿易論者ハ國際關係ヲ以テ箇人間ノ關係ニ等シキモノト爲スカ如シ事實果シテ然リトセハ自由貿易ニ依リ各國其宜キニ從テ生產ニ從事セハ相互ノ利益タルヤ明カナリ然レトモ世界ノ列國ハ歷史ヲ異ニシ國情ヲ別ニシテ言語、風俗ノミナラス人種モ亦多クハ相同シカラストス是ヲ以テ資本又ハ勞働ノ移轉ハ一國內ニ於ケルカ如ク圓滑自由ナラス國際貿易ノ結果トシテ甲國ノ生產業乙國ノ競爭ニ敗ルルモ甲國ノ資本ハ容易ニ乙國ニ移リテ其優等ナル生產業ニ使用セラルルモノニ非ス況ヤ勞働者ニ於テオヤ故ニ外國貿易ノ結果トシテ自國ノ生產業他國ノ爲メニ壓倒セラルルトキハ資本家、勞働者共ニ損害ヲ被リ其損害ハ或ハ回復スルノ期ナクシテ一國ノ衰頽ヲ來スヘシ是ヲ以テ一國內ニ於テ優等ナル生產者繁榮ヲ來シ劣等ナル生產者衰微スルト同一視スルコトヲ得サルナリ又自由貿易論者ハ世界ノ諸國ハ先天的ニ特別ノ自然條件ヲ有スルモノト爲スカ如シト雖モ各國ノ有スル自然條件ハ必スシモ一定不動ノモノニ非サルナリ今日世界ノ工場ト稱セラルル英吉利モ數百年前ニ於テハ純然タル農業國ニシテ經濟上ノ發達他國ニ先ンシタルヲ以テ第一ニ工業國ト爲リタルノミ先天的ニ英吉利ノミ工業國ニ適シ他ノ諸國ハ諸種ノ製造品ヲ英吉利ニ仰カサルヘカラサルノ理ナク今日農業國タルモ他日工業國ト爲ルモノアルヤ必セリ故ニ如何ナル生產業カ果シテ一國ニ適スルヤ否ヤハ豫メ之ヲ定ムルコト能ハス諸國ノ工業ニシテ人爲的ノ原因ニ依リ始メテ發生シ又盛大ニ趨キタル實例少カラス且國際ノ關係ハ箇人間ノ關係ト異ナリ箇人ハ全ク他人ニ依賴シテ生活ヲ營ムコトヲ得レトモ國家ハ全ク他國ニ依賴シテ生產ヲ全ウスルコトヲ得サルナリ故ニ一國ノ生存ニ必要ナル生產事業ハ縱令經濟上多少ノ損失アリト雖モ保護政策ヲ以テ之カ成立及ヒ發達ヲ圖ラサルヘカラス然レトモ本節ノ初ニ述ヘタルカ如ク外國貿易ハ數多ノ利益ヲ與フルモノナルカ故ニ漫ニ之カ進行ヲ妨害スルノ不可ナルハ論ヲ俟タス保護政策ノ必要アリテ始メテ之ヲ行フヘキナリ

自由貿易、保護貿易ニ關スル理論ハ以上述フルカ如シ而シテ之ヲ重要ナル列國ノ近況ニ徵スルニ自由貿易ヲ行フハ殆ト英吉利ノミニシテ他ノ諸國ハ保護貿易ヲ行フモノ多シトス

第七章　交通機關

第一節　運輸機關

交通機關ハ通常別テ二種トス即チ運輸機關及ヒ通信機關是ナリ交通機關ハ種種ナル目的ニ使用セラルト雖モ經濟上特ニ財貨ノ交易ヲ行フカ爲メニ用ヒラルルコト最モ大ナリ即チ財貨ノ交易ハ交通機關ノ進步發達ヲ待テ始メテ廣ク速ニ安全ニ且頻繁ニ之ヲ行フコトヲ得先ツ運輸機關ニ付キ少シク之ヲ述ヘント欲ス

運輸機關トハ人類又ハ財貨ノ運輸ヲ目的トスルモノニシテ陸路、水路、鐵道及ヒ之ニ伴フ車馬、船舶、汽車等ヲ包括シ其進步セル程度ニ於テハ勿論其尙ホ幼稚ナル時期ニ於テモ亦三要素ヨリ成ル即チ道路、運送具及ヒ動力是ナリ而シテ之カ發達ノ順序ヲ見ルニ其初期ニ於テハ自然ノ土地、天造ノ河海即チ道路ト爲リ駱駝ノ背、奴隷ノ肩又ハ凹形ノ木材即チ運送具ト爲リ河海ノ潮流、畜類ノ體力即チ動力ト爲ル次テ多少人力ヲ施シタル道路生シテ車、橇等用ヒラレ水上ニハ櫓舟ノ往來スルヲ見更ニ進テハ橋梁陸ニ架セラレ帆船海ニ浮ヒ遂ニ汽船ヲ走ラセ鐵道ヲ敷設スルニ至ルモノトス此ノ如ク運輸機關ハ次第ニ進步セルモノナレトモ全ク他ヲ排シテ一種ノ運輸機關ノミ運輸ヲ獨占スルモノニ非ス水路、陸路、鐵道ハ各〻之ニ隨伴スル車馬、船舶、汽車ヲ利用シテ互ニ相助クルモノトス

0402

通常ノ陸路ハ水路又ハ鐵道ニ比シテ其運輸力小ナリ其原因ハ運送具ヲ用フルニ當リ摩擦ノ多キト強大ナル動力ニ依リテ巨大ナル運送具ヲ用フルコト能ハサルトニ在リ是ヲ以テ通常ノ陸路ハ規則正シク迅速ニ、一時ニ、多量ニ隨テ廉價ニ運輸スルコト能ハサレトモ何レノ時代ヲ問ハス必要ナルモノトス

水路トハ大海ヲ始トシテ總テ舟楫ヲ通スヘキ水面ヲ謂ヒ其大部分ハ自然ノ狀態ニ於テ使用シ得ヘキモノナルカ故ニ古來水路ハ交通、運輸ニ用ヒラレ現今ノ如ク鐵道ノ敷設盛ナルニ當リテハ水路ハ內地運輸ノ爲メニ不用ナルカ如シト雖モ決シテ然ラス蓋シ水路ハ陸路及ヒ鐵道ニ比シ之ニ勝ルノ點アリ第一、抵抗力少キコト第二、大ナル運輸具ヲ用フルニ適スルコト是ナリ是ヲ以テ水路ハ重量ノ非常ニ大ナル物ヲ一時ニ運輸スルコトヲ得隨テ甚タ廉價ナル運輸ヲ爲シ得ルナリ內地ノ水路ニシテ既ニ右ニ述ヘタルカ如シ海路ノ運輸カ至大ノ便益ヲ與フルハ言ヲ俟タス而シテ海路ノ運輸ハ蒸汽船ノ發明以來長足ノ進歩ヲ爲セリ

鐵道ハ近世ノ經濟社會ニ至大ノ影響ヲ及ホセルモノニシテ或人曰ク英國近代ニ於ケル貿易ノ發達ハ之ヲ自由貿易ニ歸センヨリ寧ロ鐵道ノ效ト爲ササルヘカラスト蓋シ鐵道ハ千八百三十年始メテ英國ニ布設セラレ爾來諸國ニ傳播シテ陸上ニ於ケル重要ナル運輸機關ト爲レリ鐵道ノ長所ハ左ノ如シ

第一　運輸速力ノ大ナルコト

第二　規則正シク運輸ヲ爲スコト

第三　多量ノ運輸ヲ爲スハ水路ニ劣レトモ通常ノ陸路ニ優リ隨テ廉價ノ運搬ヲ爲シ得ルコト

第四　鐵道ノ運輸ハ安全ナルコト

此等ノ運輸機關ニ對シテ國家ハ如何ナル態度ヲ採ルヘキカヲ一言セント欲ス

第一　通常ノ道路ハ前述シタル如ク今日ト雖モ必要ナルモノナルカ故ニ本道ハ國家專ラ之カ築造及ヒ維持ヲ負擔シ他ノ支道ニ至リテハ府縣郡若クハ町村ヲシテ築造修繕ノ任ニ當ラシメ而シテ道路ノ使用ハ何人ニ對シテモ無料タルヲ要スルナリ

第二　水路ニ付テ之ヲ觀ルニ必要ナル場合ニハ運河ヲ開キ築港ヲ爲シテ燈臺ヲ設クル等國家自ラ之ヲ爲ササルヘカラス又之ニ使用スル船舶ハ私人ヲシテ隨意ニ製造シテ自由ニ航行セシムルヲ以テ通則ト爲スト雖モ必要ナル場合ニ於テハ保護、奬勵ヲ加フルヲ要ス例ヘハ航海奬勵法、造船奬勵法ノ如キ是ナリ

第三　鐵道ニ至リテハ諸國其制度ヲ異ニシテ全國ノ鐵道ヲ私人ノ敷設經營ニ放任スルモノアリ國家自ラ敷設シテ之ヲ經營スルモノアリ半ハ國有ニ屬シ半ハ私設ニ係ルモノアリ或ハ國有ニシテ之ヲ私人ノ經營ニ委スルモノト私人ノ所有ニシテ國家之ヲ經營スルモノトアリ此ノ如ク種種ナル制度ノ行ハルハ各國ニ於ケル歷史上ノ原因、國民ノ性質等ニ基クモノニシテ一概ニ之カ利害ヲ斷言スルコトヲ得スト雖モ鐵道ナルモノハ全ク之ヲ私人ノ利己心ニノミ放任スヘキニ非ス少クトモ國家ノ監督ヲ要ス何トナレハ鐵道ノ敷設ハ土地ノ强制的收用ヲ要シ隨テ土地ノ所有權ヲ侵スコトヲ免レス又鐵道ハ實際自由競爭ヲ許ササルモノニシテ所謂自然的獨占ノ性質ヲ有スルモノナレハナリ例ヘハ甲乙二都ノ間ニ二會社ヲシテ鐵道ヲ併行セシメンニハ是レ即チ二倍ノ資本ヲ要シ一國ノ資本ヲ浪費スル所以ニシテ此ノ如ク二會社間ニ於テハ他ノ事業ニ於ケルカ如ク適度ノ競爭ヲ爲スコトヲ得ス其競爭タルヤ一方全ク倒レテ而シテ始メテ止ムニ非サレハ中途ニシテ二會社合併スルニ至ルハ英、米等ノ實例ニ徵シテ明カナリ』

是ヲ以テ鐵道ノ國有ヲ主張スル論者少カラス其論點ヲ擧ケンニ

0403

第一　鐵道ハ自然的獨占ノ性質ヲ具フルモノナルカ故ニ初ヨリ國家之ヲ獨占スヘキナリ

第二　鐵道ノ敷設ヲ全然私人ノ企業ニ放任スルトキハ乘客荷物ノ多ギ地ニハ早ク之カ敷設ヲ見ルモ其少キ地ハ棄テテ顧ミス然ルニ國家自ラ鐵道ヲ敷設スルトキハ此ノ如キ不權衡ヲ來スコト少シ

第三　國有ノ鐵道ハ社會ノ公益ヲ主眼トシ必スシモ收益ノ多キヲ欲セサルカ故ニ賃金モ自ラ低廉ナルヲ得ヘシ

第四　鐵道ノ敷設ヲ私人ノ企業ニ委スルトキハ其敷設ニ緩急アルコトヲ免レス即チ金利低落シテ企業熱ノ盛ナル時ニ當リテハ鐵道ハ大ニ延長スルモ世上ノ景氣不良ナルニ當リテハ中絶スルカ如キコトアルハ諸國ノ例ニ徵シテ明カナリ

國有論者ノ言フ所ハ以上ノ如シト雖モ其豫期スル利益ヲ得ント欲セハ

第一　忠實ニシテ有爲ナル多數ノ官吏ヲ要シ殊ニ長ク其職ニ止マリ十分經驗ヲ積メル人ナカルヘカラス

第二　政府ノ財政鞏固ナルコトヲ要ス鐵道ヲ國有ト爲スモ社會ノ公益ヲ犧牲トシテ財政補足ノ用ニ供セラルルニ至リテハ却テ害アルモノト謂ハサルヘカラス

第三　政府鞏固ニシテ議會ノ爲メニ容易ニ動カサルルコトナキヲ要ス、何トナレハ種種ノ利益ヲ代表スル議員ノ爲メニ左右セラルルカ如キコトアランニハ統一的ノ計畫ヲ行フコト能ハサレハナリ

若シ夫レ此等ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ鐵道ノ國有モ果シテ其利益ヲ收ムルヤ否ヤ疑ナキ能ハス且私設鐵道ト雖モ政府ノ監督十分ニ行ハレ許可スヘキ線路ヲ豫定シテ以テ競爭ヲ豫防シ賃金ノ如キモ政府ノ認可ヲ要スルモノト爲シテ之ヲ制限シ又初ヨリ收益ノ多キ地ト其少キ地トヲ連結シテ以テ敷設ヲ許可セハ鐵道ノ一地方ニノミ偏スルノ弊ハ自ラ減スヘキナリ

第二節　通信機關

通信機關トハ通信ヲ傳達スル設備ニシテ其重ナルモノハ郵便、電信、電話是ナリ

第一　郵便ニ就テ之ヲ觀ルニ往時ニ在リテハ何レノ國ヲ問ハス驛傳ノ制度アリタルモ主トシテ政府ノ爲メニ書信ヲ傳達スルニ止マレリ次テ官用ノ傍ラ私人ノ信書ヲモ取扱ヒ更ニ進ンテ社會公衆ノ信書傳達ヲ以テ郵便ノ本務ト爲スニ至レルナリ而シテ郵便ナルモノハ今日就レノ國ニ於テモ政府ノ經營スル所ニ係リ英米ノ如ク諸種ノ事業カ私人ノ企業ニ放任セラルル國ニ於テモ郵便ハ實ニ政府ノ管掌スル所タリ若シ郵便ヲ以テ私人ノ事業ト爲サンカ鐵道ト同シク有利ナル地ニハ十分ナル設置ヲ爲スモ人口稀薄、交通不便ノ地ハ棄テテ顧ミラレサルコトアルヘシ又數多ノ私人ヲシテ競爭セシメントスルモ其結果ハ必スヤ合併ニ終リテ自然的獨占ノ事業ト爲ラン然ルニ國家之ヲ行フニ於テハ統一セル制度ヲ設ケ遠近ノ區別ナク全國同一ノ郵便稅ヲ以テ信書ヲ傳達スルカ如キ便利ヲ生ス又信書ノ祕密ハ之ヲ政府ニ委任スルヲ以テ一層安全ナリト爲スナリ又郵便事業ハ其組織甚タ簡單ニシテ單純畫一ノ方法ヲ以テ之ヲ經營スルコトヲ得ルカ故ニ敢テ私人ニ委スルノ必要ナシ此等ノ理由ニ依リ郵便事業ハ何レノ國ニ於テモ政府之ヲ行フモノトス

第二　電信事業ヲ官設ト爲スヘキ所以ハ郵便事業ト相同シ即チ政府自ラ之ヲ經營シテ始メテ能ク公衆ノ要求ニ應シ私設會社獨占ノ弊ヲ避ケ自由競爭ノ短ヲ免ルルコトヲ得ヘシ且電信事務ハ郵便事務ト結合スルコト容易ニシテ既ニ郵便ヲ以テ官業ト爲スニ於テハ電信ヲ之ニ附屬セシムルノ甚タ便利ナルヲ

0404

見ルは是ヲ以テ電信モ亦諸國殆ト皆政府ノ事業ト爲ス即チ英國ノ如キ初メ私立會社ニ許可セシモ後之ヲ政府ニ買上ケテ郵便事業ニ合併セリ唯リ米國ニ於テハ私設ノ制度行ハルルモ實際一大會社ノ獨占ニ歸シ之ニ對スル批難少カラサレトモ之ヲ矯正スルコトヲ得サルナリ海底電線ニ至リテハ今日モ仍ホ主トシテ私立會社ニ屬スルモノトス

第三　電話ハ其發明日尚ホ淺シト雖モ今ヤ諸國ニ行ハレ重要ナル一ノ通信機關ト爲リ殊ニ遠距離ノ電話行ハルルニ及ヒ電信ト競爭スルニ至レリ而シテ此事業モ亦獨占ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ電信ト同シク國家ノ經營ニ委スルヲ以テ適當ト爲スナリ

第四編　財貨ノ分配

第一章　分配ノ意義及ヒ所得ノ種類

第一節　分配ノ意義

財貨ノ分配トハ生産セラレタル財貨ヲ生産ニ關係セル人人ニ分配スルノ謂ナリ經濟事情ノ極メテ幼稚ナル時代ニ於テハ財貨ノ交易ノ行ハルルコト稀ナルカ如ク財貨ノ分配モ亦之ヲ行フ場合少シトス何トナレハ生産ハ多クハ一家ノ内ニ行ハルルカ故ニ生産物ヲ他人ニ分與スルノ必要ヲ見サレハナリ然レトモ進歩セル社會ニ於テハ單獨的經濟ヲ行フ者極メテ少ク勞働分配ノ行ハルルニ隨ヒ一物ノ微ト雖モ其原料ノ獲得ヨリシテ全ク生産ヲ告クルニ至ル間數多ノ人之ニ關係シ或ハ土地ヲ以テ或ハ資本ヲ以テ或ハ勞働ヲ以テ生産ノ進行ヲ助ク故ニ此等ノ土地、資本又ハ勞働ニ對スル報酬ハ結局生産ノ結果ヨリ之ヲ得サルヘカラス是レ即チ財貨ノ分配ノ起ル所以ナリ然レトモ多クノ場合ニ於テ其生産物ヲ直接ニ分配スルニ非ス例ヘハ企業者カ勞働者ニ與フル賃銀ハ生産ノ半途ニ於テシ而モ多クハ貨幣ヲ以テ支拂ヘトモ是レ企業者カ一時立替ヲ爲スニ外ナラス企業者ハ生産ノ結了ヲ待テ其立替ノ返償ヲ受クルモノトス

財貨ノ分配ハ社會上極メテ重要ナル事項ニシテ財貨ノ分配宜キヲ得サルニ於テハ種種ナル弊害ノ起ルヲ免レサルナリ然ラハ財貨ハ如何ニ分配セラルルヲ以テ最モ一國ノ進歩ニ適スルモノト爲スカ即チ財貨分配ノ結果トシテ人人ノ間ニ生スル貧富ノ差ハ如何ナル程度ヲ以テ最モ可ナリト爲スカヲ觀ルニ各人ノ所得及ヒ財産ノ全ク相平均スルト其懸隔ノ甚タ大ナルトハ共ニ有害ニシテ中産者ノ數多キヲ以テ最モ宜シトス中産者トハ多少ノ資産ヲ有スレトモ勞働ニ從事スルニ非サレハ相當ノ生活ヲ爲スコト能ハス而シテ勤勉業ヲ行ヘハ益、其境遇ヲ改良シ得ル者ヲ謂フ

各人ノ所得財産全ク相平均スルハ甚タ可ナルカ如シト雖モ是レ決シテ一國ノ進歩ヲ速ナラシムル所以ニ非ス之ヲ從來ノ經驗ト現時ノ狀態トニ徵スルニ一國ノ文化ハ少數者カ他ニ先ンシテ進ミ衆人カ漸次其後ニ從フニ依リテ進歩スルモノトス若シ各人ノ地位全ク同等ニシテ毫モ頭角ヲ顯ハス者ナキニ於テハ社會ハ必ス沈滯ノ狀態ニ陷ルヘク近時社會ノ進歩ハ才能人ニ秀テ資産衆ニ抽ンスル少數者ノ力ニ負フ所大ナリ然レトモ所得及ヒ財産ハ全ク少數者ノ掌裡ニ集注シテ國民ノ多數ハ極メテ貧困ナル境遇ニ在ルハ又決シテ喜フヘキ現象ニ非ス何トナレハ少數ノ富豪ハ必ス矯奢懶惰ニ流レ財貨ヲ浪費スルニ至リ多數ノ人民ハ日日ノ糊口ニ汲汲トシテ毫モ其境遇ヲ進ムルノ餘裕ナケレハナリ現今ノ社會ニ於テ財貨ノ分配ハ決シテ理想的ニ行ハレサルハ明カナリト雖モ社會主義ノ論者ノ唱フルカ如ク國家ノ權力ヲ

0405

以テ非常ノ制限ヲ加ヘテ之カ平均ヲ圖ラントスルハ蓋シ不可能ノ事タリトス故ニ財貨ノ分配ハ財貨ノ交易ノ場合ト同シク主トシテ之ヲ自由競爭ニ放任シ唯間接ナル方法ヲ以テ曩ニ述ヘタルカ如キ中產者ノ增加ヲ促スヘキナリ而シテ其方法ハ相續法ノ制定、租稅賦課法、勞働者保護法、勞働者保險制度等是ナリ要スルニ勞働スル者ハ必ス之ニ對シテ十分ナル報酬ヲ受ケ勤勉ト忍耐トニ由リ其地位ヲ進ムルコト容易ナルハ最モ希望スヘキ狀態ニシテ米國ノ如キ新開國ハ此點ニ於テ歐洲ノ舊國ニ勝ルモノトス

第二節　所得ノ種類

前節ニ述ヘタルカ如ク生產セラレタル財貨ハ結局其生產ニ要素ヲ供シタル土地ノ所有者、勞働者、資本主及ヒ三要素ヲ結合シテ生產ヲ實行セル企業者ノ間ニ分配セラルルモノニシテ土地ノ所有者ノ所得ヲ地代、勞働者ノ所得ヲ賃銀、資本主ノ所得ヲ利息、企業者ノ所得ヲ利潤ト稱スルナリ而シテ實際ニ於テハ其間ノ分界必スシモ判然タラス且一人ニシテ數種ノ所得ヲ收ムル者アリト雖モ右ニ列擧セル四種ノ所得ハ其性質相同シカラサルカ故ニ次ヲ追フテ之ヲ說明セン

第二章　地代

第一節　地代ノ意義及ヒ其原理

地代トハ土地天賦ノ性質ヲ使用スルヨリ生スル所得ナリ天賦ノ性質トハ毫モ人力ヲ籍ラスシテ全ク原始的ニ存在スル性質ノ謂ニシテ要スルニ地味、位置及ヒ含蓄物ニ外ナラサルナリ而シテ地代ノ成立スル原因ハ土地カ此等ノ性質ヲ具備スルコト不同ニシテ其優等ナルモノニ限アルコト及ヒ報酬漸減ノ法則ノ行ハルルコトヲ是ナリ

先ツ農業ニ使用スル土地ノ地代ニ付テ之ヲ述ヘンニ例ヘハ一隊ノ人民未開ノ地ニ移住シタル場合ニ於テハ地味及ヒ位置ノ比較上最優等ナル土地ヲ擇ヒテ之ヲ耕作スヘシ而シテ此ノ如ク第一等ノ土地カ必要以上ニ存在スルトキハ人ノ使用スル土地ニ優劣ノ差異ナキヲ以テ地代ハ未タ成立セサルナリ然レトモ人口繁殖シ第一等ノ土地ノ收穫ノミヲ以テ其欲望ヲ滿足スルコト能ハス隨テ穀物ノ價格騰貴スルニ於テハ第二等ノ土地モ亦用ヒラルルニ至ラン何トナレハ第二等地ハ第一等地ニ比シテ收穫少キモ穀物ノ價格ノ騰貴ニ因リ其收穫ハ以テ其生產費ヲ償フニ至リ且報酬漸減ノ法則ニ由リ第一等地ニ對シテ資本、勞働ヲ增加スルヨリモ之ヲ第二等地ニ投下スルトキハ收穫却テ大ナレハナリ而シテ第一等地ハ一反歩ヨリ米二石ヲ產シ第二等地ハ一石五斗ヲ產スルモノト假定セハ其差五斗ハ即チ第一等地ノ地代ニシテ第一等地ノ所有者カ第二等地ノ所有者ニ對シテ有スル利益ナリ此時ニ當リ新ニ移住シ來レル者アリトセンニ此等ノ移住民ハ第二等地ヲ使用シテ收穫ノ全部ヲ得ルモ第一等地ヲ借受ケテ五斗ノ地代ヲ拂フモ其得ル所ハ同一即チ一石五斗ナリトス人口尙ホ增加シテ米ノ供給不足ヲ告クレハ米ノ價格ハ益〻騰貴シ一反歩ヨリ一石ヲ產出スル第三等地ヲ耕スモ亦其生產費ヲ償フニ至レハ第一等地ノ地代ハ一石ト爲リ第二等地モ亦五斗ノ地代ヲ生スルニ至ルナリ

地代ノ成立スルハ右ニ述ヘタルカ如シ而シテ此成立セル地代ハ何人ノ所得ニ歸スヘキヤ所有者自ラ其土地ヲ使用スルニ於テハ地代ハ他ノ所得ト共ニ當然所有者ニ歸シ之ヲ他人ニ貸與シタル場合ニハ需要供給ノ關係ニ依リテ定マリ土地ニ對スル需要大ナルトキハ地代ノ全部ヲ擧ケテ土地ノ所有者之ヲ收受スヘキナリ何トナレハ借受人ハ己カ下シタル勞働、資本ニ對シテ相當ノ報酬ヲ得レハ損失ヲ被ラサル

0406

カ故ニ地代ノ全部ヲ拂フニ至ルヘケレバナリ

地代ナルモノハ人口ノ繁殖ト共ニ次第ニ增加スルノ傾向アルモノトス即チ農產物ヲ要スルコト益〻多キニ及ヒテハ遠隔ノ土地又ハ劣等ノ土地ヲ用フルノ必要ヲ生シ隨テ近傍ノ土地又ハ豐饒ナル土地ノ地代ハ益〻騰貴スヘキモノトス地代騰貴スルトキハ農產物ノ價格モ隨テ騰貴スヘキカ如シト雖モ是レ原因ト結果トヲ顚倒スルモノニシテ地代ハ農產物ノ價格ノ一部ヲ成サザルモノトス何トナレハ曩ニ論シタルカ如ク農產物ノ價格ハ最モ不利益ナル條件ノ下ニ生產セラレタル部分ノ生產費ニ依ルモノナレハナリ即チ地代ハ農產物ノ價格ノ騰貴ニ依リテ始メテ成立シ又ハ增加スルモノニシテ地代成立シ若クハ增加シタル故ニ農產物ノ價格騰貴スルモノニ非ス故ニ土地ノ所有者カ借地人ヲシテ地代ヲ支拂ハシメサルモ農產物ノ價格ハ低落スルコトナク唯借地人ヲシテ利益ヲ得セシムルニ過キサルナリ即チ地代ナルモノハ土地ノ所有者カ實際之ヲ獲得スルト否トニ拘ハラス社會ノ需要ニ應シテ使用セル土地ニ肥瘠、近遠ノ差異アルトキハ決シテ消滅セサルモノトス

鑛山ノ地代モ其原理ニ於テハ農業地ノ地代ニ同シク各鑛山カ其生產費ヲ異ニスルニ基クモノトス即チ其含蓄スル鑛物ノ多少、其品質ノ善惡之ヲ採掘スルノ難易、市場ヨリノ距離等ニ依リテ地代ノ有無、高低ヲ生スルナリ又家屋ノ敷地等ニ供スル土地ノ地代ハ主トシテ其位置ニ依リテ定マリ此種ノ地代ハ特ニ都會ニ於テ著シトス

第二節　地代ノ原理ニ關スル反對ノ學說及ヒ事實

前節ニ述ヘタルカ如ク地代ノ成立シ地代カ土地ノ所有者ニ歸シ地代カ次第ニ昇騰シ而シテ地代カ生產物ノ價格ノ一部ヲ構成セサル所以ノ原理ヲ一括シテ「リカルドー」ノ地代說ト名ク蓋シ「リカルドー」ニ先チ既ニ地代ヲ論シタル者アレトモ最モ明白ニ之ヲ說明シタルハ「リカルドー」ナリ此「リカルドー」ノ學說ニ關シテハ反對論ナキニ非ス又實際上原理十分ニ行ハレサル場合アルヲ以テ少シク之ヲ述ヘン米國ノ經濟學者「ケレー」ノ如キハ地代ヲ以テ土地天賦ノ性質ニ歸セス土地使用ノ準備ノ爲メニ投下セル資本及ヒ勞働ニ對スル報償ニ過キストセリ實際土地ヲ使用スルニ多少ノ資本、勞働ヲ要スルモノニシテ土地ノ賣買、貸借セラルルヤ其價格又ハ借地料ハ人力ヲ以テ土地ニ施シタル改良ノ報償ヲ含蓄スルモノトス然レトモ土地天賦ノ性質ニ差異アリテ地代カ此原因ニ基ク所以ハ前節ニ述ヘタルカ如シ地主カ毫モ資本、勞働ヲ加ヘサルニモ拘ハラス都會ニ於ケル地代ノ急激ニ上騰スルカ如キ事實ハ明カニ「ケレー」ノ說ノ誤レルヲ證ス「ケレー」ハ又米國ノ如キ新開國ノ實際ニ徵シテ曰ク人ノ始メテ耕作ヲ爲スヤ「リカルドー」ノ言ヘルカ如ク最モ豐饒ノ土地ヲ選フモノニ非スト夫レ或ハ然ラン然レトモ資本未タ豐富ナラス人力尙ホ缺乏セル當時ニ於テ生產ヲ要スルコト比較的少クシテ收益比較的多キ土地ヲ耕作スルハ明白ニシテ「リカルドー」ノ最モ豐饒ナル土地ト云フハ此意ニ外ナラスト解釋セハ地代成立ノ原理ハ毫モ變更スル所ナキナリ

社會主義ノ論者ハ曰ク地代ノ成立シ且其上騰スルハ土地所有者ノ功ニ非ス全ク外圍ノ狀況ノ變移ニ依ルモノナレハ土地所有者カ唯リ之ヲ取得スルハ不當ナリ故ニ土地ハ之ヲ社會ノ共有ト爲サザルヘカラスト此說タルヤ多少ノ眞理ヲ含蓄スルモノナレトモ土地共有ノ制度ハ今日之ヲ行フヲ得ス課稅等ノ方法ニ依リ此所謂不當所得ヲ國家ニ納メシメントスルモ之カ見積極メテ困難ナリトス且土地ノ所有者ハ屢〻變更スルモノナルカ故ニ其利益ハ必スシモ一人ニ歸スルモノニ非ス又或場合ニハ地代減少ノ爲メ

0407

ニ地主ハ損失ヲ被ルコトアリトス

前節ニ述ヘタルカ如ク地代ハ漸次ニ上騰スル傾向ヲ有スレトモ地代ノ騰貴ヲ制限スル原因モ亦存在ス例ヘハ農業ノ進歩ニ因リ收穫增加スルトキハ劣等又ハ遠方ノ土地ヲ用フルノ必要減スルナリ又運輸機關發達シテ運搬費減少スルトキハ遠方ノ土地ヲシテ近傍ノ土地ト競爭スルコトヲ得セシメ隨テ近傍ノ土地ノ有スル便益ヲ減少スルカ故ニ其地代ハ下落スヘシ近年歐洲ニ於テ耕作地ノ地代下落ノ傾向アルハ米國等ヨリ廉價ノ穀物輸入セラルルニ因ルモノトス又實際借地人カ地主ニ支拂フ地代ナルモノハ古來ノ習慣等ニ依リテ定メラルル場合多キカ故ニ理論上地主ニ歸スヘキ利益モ借地人ノ所得ト爲ルコト少カラス其實例ハ英國又ハ歐洲大陸ニ於テ之ヲ見ル之ニ反シ愛蘭ニ於テハ地主ノ收斂甚シク借地人間ノ競爭激烈ナルカ故ニ借地人ノ支拂フヘキ地代ハ往往一年ノ全收穫ヲ超ユルコトアリト云フ

第三章　賃銀

第一節　賃銀ノ意義

人ハ其有スル勞働力ヲ發揮スルニ當リ或ハ企業者トシテ自ラ之ヲ用ヒ或ハ之ヲ他人ノ使用ニ供スルコトアリ第一ノ場合ニ於テハ勞働ニ對スル報償ハ他ノ所得ト混同スト雖モ第二ノ場合ニ於テハ其勞働ニ對シテ特ニ定メタル報酬ヲ得ルモノトス是レ即チ賃銀ナリ

今日ノ社會ニ於テハ他人ノ爲メニ勞働スル者少カラス官吏ノ如キモ其一タリ然レトモ官吏ノ俸給ハ自由競爭ノ爲メニ絶エス變動スルモノニ非ス又醫師、辯護士等モ亦他人ノ依賴ニ應シテ勤勞ヲ供シ其收受スル報酬ハ一種ノ賃銀ニ外ナラスト雖モ此等ノ職業ハ多少獨占的ノ性質ヲ有シ且風習、慣行ニ制セラレ經濟上ノ原則ノミニ依リテ定マルモノニ非ス之ニ反シテ狹義ノ賃銀即チ所謂勞働者ノ收得スル賃銀ハ其高低スル所以主トシテ經濟上ノ原則ニ基キ而シテ一國ノ經濟上ヨリ之ヲ觀ルニ殊ニ重要ナルモノトス何トナレハ此賃銀ナルモノハ多數人民ノ唯一ノ所得ナレハナリ之ヲ換言スレハ社會ニ於ケル多數ノ人民ハ此賃銀ニ依リテ衣食スルモノナレハナリ

現今ノ經濟社會殊ニ歐米諸國ニ於テ製造其他ノ產業ニ從事スル勞働者ハ其生產ニ使用スル原料、器具、機械等ヲ自ラ所有スルモノニ非ス此等ハ營業主ニ屬スルモノトス故ニ勞働者ハ單ニ勞働ヲ供スルニ止マリ勞働ノ結果タル生產物ニ對シテハ直接ノ利害關係ヲ有セサルナリ然レトモ今日ノ勞働者ハ往時ノ奴隸ノ如ク外部ノ强制ニ因リテ勞働スルニ非ス全ク自己ノ自由意思ニ依リテ勞働ス故ニ之ヲ譬フレハ勞働者ノ勞働ハ一種ノ商品ニシテ賃銀ハ其價格ニ外ナラサルナリ然レトモ勞働ハ勞働者ノ身體ト分離スヘカラサルカ故ニ此勞働ノ賣買ハ普通ノ商品ノ如ク全ク雙方ノ利己心ニノミ放任スルコトヲ得サルナリ

第二節　賃銀ノ分類

第一　賃銀ニ實物ヲ以テ支拂フモノト貨幣ヲ以テ支拂フモノトアリ前者ハ飲食、住居、衣服等ヲ以テ勞働ノ報酬ニ充ツルモノニシテ經濟事情ノ幼稚ナル時代ニ於テハ此種ノ賃銀支拂法大ニ行ハレ而シテ授受者雙方ニ便利ナリシナリ然レトモ貨幣ノ使用行ハレ交通ノ便開ケ而シテ勞働者ノ欲望增加シ其獨立心盛ナルニ及ヒテハ貨幣ノ支拂法ニ依ラサルヲ得ス而シテ貨幣ヲ以テ賃銀ヲ受取ルトキハ甚ク便利ナリト雖モ物價ノ變動ヨリ生スル影響ハ全ク之ヲ負擔セサルヲ得ス實物支拂ノ賃銀モ亦全ク其跡ヲ絶タ

0408

スト雖モ現今ニ於テハ貨幣支拂ノ賃銀主トシテ行ハレ彼ノ「トラックシステム」ノ弊害ヲ豫防スルカ爲メニ賃銀ハ貨幣ヲ以テ支拂フヘキコトヲ規定スル邦國少カラス

第二　賃銀ハ時間ニ應シテ支拂フモノト仕事高ニ應シテ支拂フモノトアリ前者ニ於テハ契約ノ條件單純ナルカ故ニ雇主ト勞働者トノ間ニ誤解ヲ生スルコト少ク勞働者ハ豫メ其所得ヲ計算スルコトヲ得然レトモ勞働者ハ成ルヘク少ク勞働ヲ爲サント欲シ雇主ハ成ルヘク多ク勞働ヲ爲サシメントスルノ傾向ヲ有シ利害相反スルモノトス仕事高ニ應シテ賃銀ヲ支拂フ場合ニハ雇主ハ生産物ノ多キヲ欲シ勞働者ハ所得ノ多キヲ望ミ雙方ノ意思調和スルモノトス且賃銀ハ勞働者ノ勤惰ニ應シテ增減スルモノナルカ故ニ公平ト謂フヘキナリ然レトモ此支拂法ハ之ヲ應用スル範圍ニ自ラ限アリ即チ生産物ノ數量明カニ計算シ得ヘク其品質容易ニ識別シ得ヘキモノナラサルヘカラス又勞働者ハ過度ノ勞働ヲ爲スノ傾向ヲ有シ而シテ一人ノ勞働從前ヨリモ多額ノ生産ヲ爲シ得ルカ故ニ勞働者ノ數ノ增加シタルト同一ノ結果ヲ生シ爲メニ賃銀ノ低落ヲ來スノ恐ナキニ非サルナリ

第三　普通ノ賃銀以外ニ賞與金ヲ與ヘ又ハ利潤ノ一部ヲ分配スル方法アリ前者ニ於テハ或ハ勞働者ノ精勤又ハ生産物品質ノ優等又ハ原料品ノ節約ヲ奬勵スル爲メ一定ノ規則ニ依リ普通賃銀以外ニ賞與ヲ與フルナリ後者ニ於テハ企業ヨリ生スル利潤ノ一部ヲ勞働者ニ分與スルモノニシテ此方法タルヤ常ニ軋轢反目ノ傾向ヲ有スル雇主ト勞働者トノ關係ヲ調和スルノ效能アルカ如シト雖モ實際其功ヲ收ムルコト難シトス何トナレハ企業ヨリ生スル利潤ハ勞働者ノ勤勞如何ニ基クヨリモ寧ロ世上ノ景氣又ハ之ヲ利用スル企業計畫者ノ手腕ニ依ルコト多ク勞働者非常ニ勤勉ナルモ之ニ應シテ所得必スシモ增加スルモノニ非ス隨テ此方法ハ好結果ヲ收メタル實例ナキニ非サルモ之ヲ應用スル範圍ハ廣カラス

第四　賃銀ヲ支拂フニ滑準法ナルモノヲ用フルモノアリ即チ雇主ト勞働者トノ合意ヲ以テ生産物ノ標準價格ト標準賃銀トヲ定メ生産物ノ價格カ標準價格ヨリ上レハ賃銀モ亦之ニ應シテ標準賃銀ヨリ上リ之ニ反シテ生産物ノ價格標準價格ヨリ下レハ賃銀モ亦低落スルモノトス此方法ハ專ラ英、米ノ製鐵所、石炭坑等ニ用ヒラルルモノニシテ他ノ事業ニハ未タ之カ應用ヲ見サルナリ

第二節　賃銀ノ高低スル理由

曩ニ述ヘタルカ如ク賃銀ハ勞働ノ價格ニ外ナラサルヲ以テ其高低ハ需要供給ノ關係ニ依リテ定マルモノトス而シテ需要者タル雇主ハ成ルヘク賃銀ノ低カランコトヲ欲シ供給者タル勞働者ハ成ルヘク其高カランコトヲ望ムハ當然ノ理ニシテ勞働者ト雇主ト對立スルノミナラス雇主及ヒ勞働者各自ノ間ニ於テモ競爭行ハルルナリ然レトモ賃銀ノ高低ニハ自ラ一定ノ制限アリテ其最低ヲ定ムル原因ハ勞働者ニ在リテ最高度ヲ定ムル原因ハ雇主ニ在リトス

賃銀ノ最低度ヲ定ムル原因ハ勞働者ノ生活ノ程度是ナリ文明ノ程度、氣候ノ寒暖、生活上ノ習慣、教育ノ高低、職業ノ種類等ニ依リテ同一ナラスト雖モ一國ノ勞働者ニシテ同一ノ階級ニ屬シ同一ノ勞働ニ從事スル者ハ自ラ生活ノ程度ヲ等シウスルモノトス而シテ賃銀下落シ從來ノ生活程度ヲ維持スルコト能ハサラントスルトキハ勞働者ハ全力ヲ盡シテ之ニ抵抗シ以テ其低落ヲ防クナリ生活ノ程度ナルモノハ固ヨリ一定不動ノモノニ非ス能フ限リ抵抗ヲ試ムルモ尙ホ賃銀下落スルトキハ最下等ノ程度ニ下ルコトアルモ賃銀上騰スルトキハ生活ノ程度モ亦上ルモノトス然レトモ一定ノ時、一定ノ地ニ於テハ同種類ノ勞働者間ニ於テハ自ラ生活程度ノ最低限アルヲ見ルナリ

0409

「リカルドー」ハ勞働者ノ生活程度ト賃銀ノ關係トニ付キ極端ナル學說ヲ唱ヘタリ曰ク勞働ノ自然價格ハ勞働者カ生活シ且其繼續者ヲ產出シ以テ其數ヲ增減セサルカ爲メニ必要ナル費用ニ等シトス而シテ實際市場ノ賃銀ニシテ此自然價格ヲ超ユルトキハ勞働者ハ幸福ノ境遇ニ在ルモノニシテ十分ニ其欲望ヲ滿タシ得ヘシ然レトモ其結果タルヤ必ス人口ノ增殖ヲ來シ隨テ勞働者ノ數增加スルカ故ニ需要供給ノ關係ニ因リ賃銀ハ再ヒ自然價格又ハ其以下ニ低落セン是ニ於テ勞働者中生活ニ必要ナル欲望ヲ滿足セシムルコト能ハサル者ヲ生シテ死亡ノ割合增加シ隨テ勞働者ノ數減少スルカ故ニ賃銀上騰シテ自然價格ニ達スヘシ此ノ如ク賃銀ハ高低スルモノナレトモ自然價格ヲ中心トシテ之ニ近ク傾向ヲ有スルモノナリト而シテ社會主義論者ハ「リカルドー」ノ賃銀說ヲ賃銀ノ鐵則ト名ケ之ヲ前提トシテ推論シテ曰ク賃銀ノ高低スル所以「リカルドー」ノ言ヘルカ如クナルトキハ勞働者ハ始終社會ノ下層ニ在リテ毫モ其境遇ヲ改良スルコトヲ得ス是レ實ニ殘酷ナル經濟上ノ原則ニシテ其然ル所以ハ現今ノ社會組織宜シカラサレハナリト然レトモ「リカルドー」ノ說ハ極端ニ馳スルモノト謂フヘシ何トナレハ賃銀上騰スルモ勞働者ハ必スシモ濫ニ結婚シテ人口ノ增殖ヲ來スモノニ非ス其生活ノ程度ヲ高ムル方針ヲ採ル者亦尠カラス殊ニ將來ヲ慮ルノ念ハ餘裕アル者ニ多クシテ下等ノ人種ニ少キカ故ニ賃銀減少スルモ結婚ノ數減スルカ如キコト必スシモ之ヲ望ムヲ得サルナリ要スルニ勞働者ハ自己ノ意思ニ依リ其生活程度ヲ高メ以テ賃銀ノ上騰ヲ維持スルコトヲ得ルナリ

雇主ノ方面ニ在リテ賃銀ノ最高限ヲ定ムルモノハ勞働ヨリ生スル利益是ナリ抑モ雇主カ勞働者ヲ使用スルハ之ニ因リテ利益ヲ得ルカ爲メニシテ其利益大ナランニハ進テ多額ノ賃銀ヲ支拂フヘク其利益小ナランニハ賃銀ノ額モ亦小ナラサルヲ得ス例ヘハ從來十人ノ勞働者ヲ使用セル企業者カ更ニ一人ノ勞働者ヲ雇入ルルハ此勞働者ヲ使用スルヨリ生スル利益此勞働者ニ支拂フ賃銀ヨリモ大ナレハナリ故ニ勞働者ノ受クル賃銀ハ雇主カ其勞働ヨリ得ル利益ヲ超ユルヲ得サルナリ

賃銀ヲ定ムル原則トシテ賃銀基金說ナルモノ永ク英國經濟學者ノ唱フル所ナリキ其說ニ曰ク一定ノ時ニ當リ一國ニハ賃銀ヲ支拂ハンカ爲メニ準備セラルル一定額ノ資本存在スルモノトス是レ即チ賃銀基金ナリ此賃銀基金ナルモノハ經濟上ノ狀況ニ因リ增減スルモノナレトモ一定ノ時ニ於テハ其額ハ確定スルモノナリ而シテ此賃銀基金ハ自由競爭ニ依リテ勞働者間ニ分配セラルルカ故ニ勞働者ノ數多ケレハ各勞働者ノ受クヘキ金額少ク勞働者減少スレハ各勞働者ノ受クル所多シトス又一部ノ勞働者多額ノ賃銀ヲ得レハ他ノ勞働者ノ賃銀ハ之ニ應シテ減少スヘキナリト此說ニ依ルトキハ賃銀ハ既ニ存在セル資本ヨリ支出セラルルモノト爲スナリ通常雇主カ勞働者ニ賃銀ヲ支拂フハ生產ノ未タ結了セサルトキニ於テセルモノナルカ故ニ外觀ニ於テハ既存ノ資本ヲ以テ支拂フカ如シ然レトモ賃銀ナルモノハ生產上勞働ニ對スル報酬ニシテ結局生產ノ一部ヲ以テ支拂フヘキモノタリ即チ企業者カ勞働者ヲ雇入レテ生產ヲ爲スハ生產ノ成功ヲ豫期シ其勞働者ニ支拂フ賃銀ハ生產結了ノ日ニ於テ生產物ヲ賣却シ自ラ償フモノトス故ニ既存ノ資本ハ一時流用セラルルニ過キサルナリ例ヘハ物價騰貴ノ見込アル場合ニハ企業者ハ賃銀ヲ高メテ以テ勞働者ヲ雇入ルルカ故ニ賃銀ニ用フル資本增加スヘク物價下落ノ兆候アルトキハ雇主ハ生產ヲ縮小シ隨テ賃銀ニ用フル資本モ減少ス是ヲ以テ賃銀支拂ノ爲メニ特ニ準備セル一定不動ノ資本カ一國ニ存在スルコトハ之ヲ想像スルヲ得ス若シ果シテ賃銀基金ナルモノ成立ストセハ勞働者ハ企業者ニ對抗シテ賃銀ヲ高ムルコト能ハス資本ノ增殖若クハ勞働者ノ數減少スルヲ待ツニ非サレハ賃銀ハ一般ニ騰貴セサル所以ニシテ是レ理論竝ニ實際ニ反スルモノト謂フヘキナリ

以上述ヘタル上下ノ制限内ニ於テ賃銀ハ需要供給ノ關係ニ因リ高低ス即チ一ノ市場ニ於テ若干ノ企業者ハ勞働ヲ買ハントシ若干ノ勞働者ハ勞働ヲ賣ラントシ需要供給ニ超ユレハ賃銀上リ供給多キトキハ賃銀下ルモノトス而シテ需要者ト供給者トハ同等ノ地位ニ立チ其勢力ニ差等ナキカ如シト雖モ實際ニ於テハ然ラス蓋シ勞働ハ一種ノ商品ノ如シト雖モ勞働者ノ身體ヨリ之ヲ分離スルヲ得ス而シテ勞働者ハ多クハ貧困ノ境遇ニ在ルカ故ニ其勞働ヲ賣ラントスル念慮ハ企業者カ勞働者ヲ買ハントスル念慮ヨリモ強ク隨テ雇主ノ提出スル條件意ニ滿タサルトキト雖モ勞働者ハ之ニ從ハサルヲ得サルナリ而シテ勞働者箇箇ノ力ハ以テ企業者ニ對抗シテ其利益ヲ保護進捗スルコトヲ得ス是レ即チ種種ナル公私ノ制度、設備ヲ要スル所以ナリ例ヘハ職工組合ノ如キハ其重要ナルモノニシテ微力ナル勞働者ト雖モ多數團結スルトキハ其間ニ一種ノ勢力ヲ生シ以テ企業者ニ對抗スルコトヲ得職工組合ハ職業ヲ同シウスル勞働者ノ團體ニシテ其主タル目的ハ企業者ニ對シテ同等ノ地位ヲ占メ以テ賃銀、勞働時間等ニ關スル利益ヲ保護進捗スルニ在リトス而シテ之カ手段トシテハ同盟罷工ヲ爲スコトアルモ英國ノ職工組合ハ近來此非常手段ヲ避ケ寧ロ仲裁等ニ依テ賃銀其他ニ關スル爭議ヲ決定セントスルノ傾向アリトス又英國ノ職工組合ハ各地ニ於ケル勞働ノ需要供給ノ狀況ヲ視察シ組合ノ費用ヲ以テ勞働者ノ移轉ヲ促シ以テ勞働ノ過不足ヲ平均セシメ又多クハ疾病、負傷、老衰、失業ニ對シ相互保險ノ制度ヲ設クルモノトス」職工組合ハ勞働者カ獨立自助ノ方法ニシテ英國ニ於ケルカ如ク盛大ナルニ於テハ其功績少カラスト雖モ國家ノ干涉モ亦必要ナラストセス即チ國家ハ法律ヲ以テ或ハ勞働者ノ最低年齡ヲ定メ青年勞働者、婦女勞働者ニ對シテ特別ノ保護ヲ與ヘ一般勞働者ノ定期休業ヲ勵行スルカ如キ方法ヲ採ラサルヘカラサルナリ而シテ此等ノ規定ハ必ス一般勞働者ノ賃銀ニ影響ヲ與フルモノトス何トナレハ勞働ノ供給ヲ制限スレハナリ然レトモ一歩ヲ進メテ賃銀ノ最少額ヲ定ムルカ如キハ國家ノ干涉其度ヲ過クルモノニシテ到底行フヘキモノニ非サルナリ

第四節　職業ノ種類ニ依リ賃銀ニ差異アル所以

所謂勞働者ノ從事スル職業ニモ數多ノ種類アリテ其勞働ニ對スル報酬即チ賃銀ニモ差異アルヲ見ルナリ而シテ賃銀ノ高キハ要スルニ需要ニ對シテ勞働ノ供給少キカ爲メニシテ賃銀ノ低キハ供給ノ多キニ基カスンハアラス今供給ノ多少ヲ生スル原因ノ重ナルモノヲ擧クレハ

第一　習錬ノ難易　習錬ノ難易ハ主トシテ習錬ニ必要ナル時間ト費用トニ因ルモノトス此時間ト費用トノ最モ少キハ普通ノ體格ト智能トヲ有スレハ何人ニモ容易ニ爲シ得ヘキ勞働ニシテ此ノ如キ勞働者ノ賃銀ハ最モ低カラサルヲ得ス之ニ反シテ多年ノ習錬ヲ要スル職業ニ至リテハ其賃銀モ亦自ラ高シトス

第二　職業ノ適意又ハ不適意　職業ノ意ニ適スルヤ否ヤハ多少人ニ依リテ異ナルト雖モ通常人ノ好ムモノト好マサルモノトアリ而シテ其然ル所以ハ勞働ノ緩激、隷屬ノ程度、身體、生命ニ對スル危險ノ多少等ニ因ルモノニシテ通常人ノ好マサル職業ノ賃銀ハ自ラ高カラサルヲ得サルナリ

第三　職業ノ永續、不永續　職業ノ種類ニ依リテ屢、勞働ノ中絶ヲ來スモノト然ラサルモノトアリ前者ニ於テハ一時ニ領收スル賃銀自ラ高シトス

第四　信任ノ深淺　例ヘハ寶石ノ細工人カ多額ノ賃銀ヲ得ルハ雇主ノ信任厚キ者ニシテ始メテ此業ニ從事スルコトヲ得ルカ如キ是ナリ

0411

第五　成效ノ見込ノ多少　例ヘハ尋常ノ手工、職工ト爲ラント欲セハ十中ノ八九ハ成效スヘシト雖モ精巧ナル技術家ト爲ラントセハ其成效ノ見込前者ニ比シテ甚タ少シトス隨テ其數多カラサルカ故ニ賃銀自ラ高カラサルヲ得サルナリ

第五節　賃銀ト勞働費トノ差異

勞働ノ廉不廉ハ賃銀ノ金額ノミヲ以テ之ヲ判斷スルコトヲ得ス勞働ノ成蹟ニ比較シテ始メテ之ヲ知ルヘキナリ例ヘハ一日賃銀五十錢ヲ要求スル職工三人ノ成蹟ニシテ七十錢ヲ要求スル職工二人ノ成蹟ニ等シキトキハ前者ハ賃銀低キモ其勞働ハ却テ不廉ナリト謂ハサルヘカラス之ヲ英國ノ紡績業ニ徵スルニ職工ノ賃銀ハ次第ニ上レルニ拘ラス綿糸ノ生產費中ニ包含スル勞働費ハ却テ減少セルヲ見ル又英國ノ勞働者ハ歐洲大陸ノ勞働者ニ對シテ多額ノ賃銀ヲ領收スレトモ其勞働ハ決シテ不廉ト謂フヲ得ス

第四章　利息

第一節　利息ノ意義

資本ノ所有者ハ其資本ヲ自ラ用ヒ或ハ之ヲ他人ニ貸與スルモノニシテ後ノ場合ニ於テハ之ニ對シテ報酬ヲ受クルモノトス是レ即チ利息ニシテ利息ハ資本使用ノ價格ニ外ナラス而シテ資本ニハ數多ノ種類アリ家屋、機械等モ亦資本ニシテ此等ノ資本ノ使用ニ對スル報酬ハ家賃、損料等ノ名稱ヲ有スレトモ亦一種ノ利息ナリトス然レトモ單ニ利息ト稱スルトキハ多クハ貨幣ノ使用ニ對スル報酬ヲ謂フ資本所有者ノ收受スル報酬ハ單ニ資本ノ使用ニ對スル報酬ノミナラス他ノ原素ヲモ含ムモノトス例ヘハ家賃ハ家屋修繕費ヲ含蓄シ器具等ノ借用料ヲ俗ニ損料ト稱スルハ使用ノ際其物質ヲ多少損傷スルヲ以テナリ而シテ殊ニ重要ナルハ保險料ナリ此保險料ハ資本ノ貸借ニ伴フ危險ノ大小ニ從テ差異アルモノニシテ例ヘハ對人信用ニ於テハ借主ノ性質、能力、境遇等ニ依テ同シカラストス此ノ如ク種種ナル原素ヲ包含スルモノハ之ヲ總利息ト稱シ全ク之ヲ除却シテ資本ノ使用ニ對スル報酬ノミヲ純利息ト名ク而シテ機械カ使用ノ爲メニ損傷スルトキハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ得ルハ論ヲ俟タスト雖モ純利息即チ資本使用ニ對スル報酬ヲ資本ノ所有者カ請求スルハ果シテ正當ナルヤ否ヤ古代ニ於テハ利息ヲ以テ不當ナルモノト爲シ「アリストートル」ノ如キハ貨幣ハ不胎性ナルカ故ニ利息ヲ生スルノ理アラスト爲シ又中古時代ノ歐洲諸國ハ耶蘇教ニ基キテ利息ノ獲得ヲ禁セリ是レ蓋シ經典利息禁止ノ章句アルト共ニ當時產業發達セス信用取引ハ主トシテ消費取引ニ屬シ利率甚タ高クシテ借主ノ負擔重カリシヲ以テ利息ヲ收ムルハ人ノ不幸ニ乘シテ暴利ヲ貪ルカ如キ觀アリシヲ以テナリ而シテ爾來世論次第ニ變移シ今日ハ敢テ利息ヲ以テ不當ト爲ス者アラスト雖モ利息ヲ以テ正當ナリト爲ス理由ニ至リテハ諸說一ナラス其最モ普通ナルモノヲ述フヘシ

抑ゝ資本ハ生產ヲ容易ナラシメ又ハ生產額ヲ增加スルモノタリ例ヘハ一ノ田地ニ肥料ヲ施シ灌漑ノ便ヲ設クルトキハ收穫必ス增加セン又諸種ノ工業ニ於テ强力ノ機械ヲ應用セハ製造物ノ產額增加スルニ至ラン而シテ此增加ノ主タル原因ハ之ヲ資本ニ歸セサルヲ得ス此資本ヲ自ラ使用スルトキハ右ニ述ヘタル利益ハ自己ノ所得ト爲ルモ他人ニ之ヲ貸與スルトキハ己ハ其間之ヲ使用スルノ機會ヲ失フモノナルカ故ニ此犧牲ニ對シテ相當ノ報酬ヲ求ムルモ敢テ不可ナク且借主ハ資本ノ使用ヨリ生スル利益ノ全部ヲ資本所有主ニ與フルモ損失ヲ招ク所以ニ非ス況ヤ其一部ニ於テオヤ今日若シ利息ノ收得ヲ禁止セ

0412

ハ其結果ハ果シテ如何思フニ新ニ資本ヲ造出スル者減少スルノミナラス現在成立スル資本ハ能フ限リ其用途ヲ變シテ直接目前ノ欲望ヲ滿タスノ具ト爲リ而シテ現今ノ社會ニ於テハ借入資本ヲ以テ經營セラルル企業甚タ多キカ故ニ生産ハ殆ト其進行ヲ止ムルニ至ルヘキナリ

第二節　利息ノ高低スル理由

資本ノ種類ハ一ニシテ足ラス皆之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ルモノナレトモ實際最モ多ク貸借セラルルハ貨幣ナリトス而シテ借入レタル貨幣ヲ永久貨幣トシテ使用スル者ハ銀行業者等ニ過キス他ノ企業者ハ機械、原料等ノ買入ニ之ヲ用フルモノナルカ故ニ結局機械、原料等ノ資本ヲ借入レタルニ同シク隨テ他ノ資本ハ貨幣ノ媒介ヲ以テ貸借セラルルト謂フモ不可ナキナリ故ニ主トシテ貨幣ノ利息即チ金利ニ付テ述ヘント欲ス

貨幣ノ貸借ハ金屬貨幣又ハ之ヲ代表スル銀行券等ノ授受ニ依リテ行ハルルノミナラス信用制度發達スルニ及ヒテハ無形的ニ存在スル貨幣ノ貸借甚タ多シトス例ヘハ甲ナル者銀行ニ就テ手形ノ割引ヲ依頼スルヤ銀行ハ直ニ之ヲ預金ト爲シ甲ハ之ニ對シ小切手ヲ振出シ以テ乙、丙、丁等ニ支拂ヲ爲スヲ得ルカ故ニ銀行ハ甲ニ無形ノ貨幣ヲ貸與スルモノニシテ英國等ニ於テ銀行ノ預金カ貨幣ノ存在額ヨリ遙ニ多キハ此ノ如キ原因ニ基クモノトス

貨幣ノ貸借ハ長期ナルモノト短期ナルモノトアリ長期ナルモノハ公債、社債、土地抵當貸付等ニシテ短期ナルモノハ手形ノ割引、動産擔保貸付ノ如キ是ナリ此區別ヲ爲ス所以ハ他ナシ利息ノ割合及ヒ其變動ノ狀態異ナレハナリ

先ニ述ヘタル如ク利息ハ資本使用ノ代價ニ外ナラサルヲ以テ其割合即チ利率ハ資本ノ需要供給ノ關係ニテ高低スルモノトス而シテ利率ハ多クハ年分ヲ以テ表示シ我國ニ於テハ日歩ヲ用フル場合少カラストス

先ツ長期貸借ノ利率ニ付キ之ヲ觀ルニ資本ノ供給者ハ自ラ其資本ヲ使用スル意思又ハ能力ナキ人ニシテ需要者ハ國家、市町村、會社、農業者等ナリトス需要者カ世人ヨリ受クル信用大ナルニ於テハ此種ノ貸借ニ附帶スル利息ハ所謂保險料ヲ含蓄スルコト甚タ少ク或場合ニハ殆ト純利息ト謂フモ不可ナキナリ其實例ハ財政堅固ナル諸國ノ公債ニシテ英國政府ノ公債ノ如キ其最モ顯著ナルモノトス其他市町村ノ公債モ政府ノ公債ニ比スレハ其利率多少高ク社債ニ至リテハ殊ニ然リトス是レ純利息以外ニ所謂保險料ヲ含蓄スルヲ以テナリ又土地ハ長期貸借ノ擔保ニ適スルモノニシテ隨テ土地貸借ニ對スル利率ハ保險料ヲ含蓄スルコト少ク其變動モ亦激シカラストス

次ニ短期貸借ノ利率ヲ觀ルニ其高低ハ短期ノ放下ヲ要スル資本ノ供給ト手形ノ割引等短期ナル資本ノ需要トノ關係ニ依リテ定マルモノトス即チ此種ノ資本增加シテ需要之ニ伴ハサルトキハ利率低落シ割引等ノ需要增加スルモ資本ノ增加之ニ應セサレハ利率ハ上騰スルモノナリ又割引等ノ需要增加セサルモ資本減少スレハ利率上騰シ資本增加セサルモ割引等ノ需要減少スレハ利率ハ低落セサルヲ得サルモノナリ而シテ資本ノ需要供給ハ種種ナル原因ニ因リテ增減スト雖モ要スルニ一定ノ市場ニ於テ一定ノ時期ニ當リ利率ヲ定ムルモノハ資本ノ供給ト需要トノ關係ナリトス而シテ其關係ノ變遷ニ依リ利率ハ如何ニ上騰シ如何ニ低落スルカヲ觀ルニ結局利率ハ借主カ其借入レタル資本ヲ使用シテ獲得スル利益以上ニ永ク止マルコトヲ得サルナリ又短期貸借ノ利率ニシテ非常ニ低落スルトキハ資本ノ一部ハ轉シ

0413

テ長期ノ貸借ニ用ヒラレ又ハ外國ニ流通シテ以テ供給ヲ減シ而シテ他ノ一方ニ於テハ利率低落ノ爲メニ企業ノ勃興ヲ來シ資本ノ需要自ラ增加スルヲ以テ利率ハ再ヒ上騰スヘキナリ短期ノ貸借モ種類ニ從テ利率ニ差異アリ通常優等ナル手形ノ割引歩合最モ低ク動產擔保貸付ハ少シク高率ナリトス資本ハ利息ノ低キ地ヲ去リ其高キ地ニ赴クノ傾向ヲ有スルハ理論上疑ナシト雖モ實際ニ於テハ種種ノ障害アリテ此原則ハ十分ニ行ハレサルモノトス例ヘハ露國ニ於ケル長期貸借ノ利率ハ遙ニ他ノ歐洲諸國ニ於ケルヨリ高ク北米合衆國ノ東部ニ於テハ利率低キモ西部ニ於テハ甚タ高シト云フ又獨逸ノ割引歩合ハ英國ノ割引歩合ヨリモ高ク又露國ノ割引歩合ハ獨逸ノ割引歩合ヨリモ高シト云フ飜テ我國ノ利率ヲ觀ルニ公債ノ利率年五分ヲ下ラス割引歩合ハ通常日本銀行ノ公示歩合最モ低シト雖モ之ヲ倫敦等ニ於ケル利率ニ比スレハ非常ノ差異アリトス是レ全ク長期ノ放下ヲ希望スル資本及ヒ短期ノ借出ニ供給セラルル資本共ニ豐富ナラサルニ職由セスンハ非ス

長期貸借ノ利率ト短期貸借ノ利率トヲ比較スルニ前者ハ其變動緩慢ニシテ後者ニ激甚ナリトス是レ蓋シ短期貸借ニ用ヒラルル資本ハ需要供給共ニ其變動急速ナルニ反シ長期貸借ニ用ヒラルル資本ハ需要供給ノ變移徐徐タレハナリ然レトモ全ク關係ナキニ非ス例ヘハ短期貸借ノ利率低落スルトキハ公債等ノ價格騰貴シ而シテ此狀態永ク繼續スルトキハ新ニ發行セラルル公債、社債等ノ利率ハ必ス從來ニ比シ低カルヘキナリ

第三節　利息低落ノ趨勢

以上述ヘタルカ如ク利息ハ需要供給ノ關係ニ依リテ時時變動スルモノナレトモ社會ノ進歩ニ伴ヒテ次

第ニ低落スルノ傾向アルモノトス蓋シ經濟上ノ發達尙ホ低キ時代ニ於テハ資本ノ增殖緩慢ニシテ一般ニ資本ノ少キノミナラス法律未タ完備セス信用制度未タ發達セサルヲ以テ資本ヲ貸與スル念慮微弱ニシテ且之ヲ行フ場合ニ乏シク隨テ資本ノ貸與ハ少カラサルヲ得サルナリ之ニ反シテ社會進歩スルトキハ資本ノ增殖ト共ニ右ニ述ヘタルカ如キ障害除去セラルルヲ以テ貸借ニ供セラルル資本次第ニ增加シ利息モ亦之ニ從ヒテ低落スルモノトス然リト雖モ利息ノ低落ヲ抑留スル原因ナキニ非ス例ヘハ利潤多キ資本ノ用途俄ニ生シテ資本ノ需要增加スルカ如キ是ナリ近時諸國ニテ國家ヲ始トシテ市町村ニ至ルマテ多額ノ公債ヲ募集セルコト利息ノ低落ヲ妨クル一原因ト爲レリ又交通ノ發達ニ依リテ外國ニ資本ヲ放下スル機會增加シ資本ノ豐富ナル國ハ皆之ヲ行フカ故ニ是レ亦利息ニ影響ヲ及ホスヤ必セリ然レトモ利息ノ低落スルハ自然ノ大勢ニシテ之ヲ歐洲ノ歷史ニ徵スルニ其然ルヲ見ルナリ

利息低落ノ趨勢ハ今後猶ホ持續スルモノトセハ果シテ如何ナル程度マテ行ハルルモノナルヤ或ハ曰ク利息ノ非常ナル低落ハ資本ノ蓄積ヲ妨クルカ故ニ利息ノ低落ニモ自ラ制限アリトスト利率ノ高キハ多少貯蓄ヲ奬勵スルコト疑ナシト雖モ將來ニ對スル念慮發達スルニ於テハ利率ノ如何ニ拘ハラス依然貯蓄ヲ廢止セサルノミナラス利率ノ低落スルニ當リテ從來ト同一ノ所得ヲ得ントスルトキハ從來ヨリモ多額ノ資本ヲ要スルカ故ニ利率ノ低落ハ消極的ニ貯蓄ヲ促ス所以ナリトス而シテ利率ノ低落ハ資本ニ依賴シテ坐食スル者ノ所得ヲ減スレトモ企業者ヲシテ容易ニ他人ノ資本ヲ使用スルコトヲ得セシメ以テ產業ノ發達ヲ促シ且財貨分配ノ甚シキ不平均ヲ矯正スル效アルカ故ニ利息ノ低落ハ社會全般ノ爲メニ喜フヘキモノナリトス

第五章　利潤

第一節　利潤ノ意義

企業者カ企業ヲ爲スヤ多クハ他人ノ土地、資本、勞働ヲ用フルモノニシテ大規模ノ企業ハ殊ニ然リトス而シテ生産結了ノ際生産ノ結果即チ生産物ノ賣上高ヨリ土地ノ所有者ニ支拂ヒタル地代、資本主ニ支拂ヒタル利息、勞働者ニ支拂ヒタル賃銀其他原料運搬等ニ要セル諸種ノ費用ヲ控除シタル後ニ殘留スルモノハ即チ企業者ノ所得ニ歸スルモノニシテ是レ即チ總利潤ナルモノナリ此總利潤ハ左ニ掲クル原素ノ全部若クハ一部ヲ包含スルモノトス

第一　地代　苟モ企業者カ自己ノ土地ヲ使用スルトキハ總利潤ノ一部ハ地代ノ性質ヲ帶フルモノトス

第二　利息　企業者カ自己ノ資本ヲ使用セルトキハ之ニ對シテ利息ヲ得サルヘカラス株式會社ノ株主カ獲得スル利益配當金ノ如キハ此原素ヲ包ムコト甚タ多シトス

第三　賃銀　企業者自ラ勞働スルトキハ之ニ對シテ相當ノ報酬ヲ領收スヘキモノトス而シテ小企業ニ於テハ企業者ハ其雇入レタル勞働者ト殆ト同一ノ勞働ニ從事スルカ故ニ此種ノ企業者ノ總利潤ハ賃銀ノ性質ヲ有スル部分甚タ多クシテ之ニ反シテ株式會社ノ株主ノ獲得スル利益配當金ノ如キハ此原素ヲ含ムコト極メテ少シト謂ハサルヘカラス

第四　純利潤　世上普通ノ割合ヲ以テ以上列記セル地代利息及ヒ賃銀ヲ計算シテ之ヲ總利潤ヨリ控除シタル後ニ殘留スル部分ヲ純利潤ト稱ス是レ即チ企業者カ企業者トシテ受クル報酬ナリ之ヲ換言スレハ企業者カ損失ノ危險ヲ冒シ生産ノ三要素ヲ結合スルコトニ對シテ受クル報酬ナリトス

總利潤ニ包含セラルル地代、利息、賃銀タルヘキ部分ハ普通ノ地代、利息、賃銀ト全ク同一ナルモノニ非ス即チ普通ノ地代、利息、賃銀ハ多クハ生産ノ半途又ハ著手前ニ支拂ハルルモノニシテ企業成敗ノ影響ヲ直接ニ蒙ルコトナキニ反シ總利潤ニ包含セラルル地代、利息、賃銀ハ生産結了ノ後始メテ企業者ノ取得スル所ニシテ企業失敗スルトキハ純利潤ヲ得サルノミナラス地代、利息、賃銀タルヘキ部分モ亦蠶食セラレテ皆無ニ歸スルコトアルヘシ純利潤ハ次節ニ於テ之ヲ說明セン

第二節　純利潤

抑〻人ノ企業ヲ爲スヤ其主タル目的ハ純利潤ヲ得ント欲スルニ在リ若シ夫レ純利潤ヲ得ルノ希望ナクンハ其土地、資本、勞働ヲ他人ノ使用ニ供シ普通ノ地代、利息、賃銀ヲ得ルニ如カサルナリ然レトモ企業ハ必スシモ成功スルモノニ非ス佛國ノ經濟學者「ボーリュー」曰ク十人ノ企業者アリトセハ非常ノ窮境ニ陷リ甚シキハ遂ニ破産スルニ至ル者二三、其資産ヲ守リテ失ハサル者又ハ僅ニ之ヲ增殖スル者五六、而シテ巨萬ノ富ヲ積ムニ至ル者ハ甚タ稀ニシテ多クモ一二人ニ過キサルナリト而シテ企業中他ニ比シ多大ノ純利潤ヲ得ル者アル所以ハ何ソヤ左ニ主タル原因ヲ述ヘン

第一　企業者ノ才能　同種ノ企業ヲ行フニ當リ之カ經營ニ要スル才能ハ略ホ相等シキカ故ニ普通ノ利潤ヲ得ント欲セハ普通ノ才能ニシテ足レリ然レトモ才能ノ超過スル者ニ至リテハ或ハ機械ヲ發明シ或ハ企業經營ノ方法ヲ改良シ或ハ廉價ナル原料ヲ買入ルル等一方ニ於テ生産費ノ減少ヲ圖リ他ノ一方ニ於テ或ハ販路ヲ擴張シ或ハ時運ヲ利用スル等賣上金額ノ大ナルヲ致スカ故ニ他ノ同業者ニ比シテ其利

0415

潤必ス大ナリトス之ヲ喩フレハ疊饒ナル土地カ多大ノ地代ヲ生スルカ如キヲ以テ此原因ヨリ生スル利潤ヲ或ハ才能ノ「レント」ト稱ス而シテ此才能ハ或ハ教育ニ因リ或ハ天賦ニ基クト雖モ多クハ後者ニ屬スルモノトス曩ニ企業ヲ說クニ當リ大企業者ハ經濟社會ノ將帥ナリト言ヒタリシカ才能ノ卓越セル企業者ハ實ニ才略絕倫ノ良將ニ髣髴タリ

第二　時運　企業ノ成敗ハ時運ニ關スルコト少カラス幸ニ時運ニ投スレハ凡庸ノ企業者モ巨利ヲ博シ之ニ反スレハ非凡ノ企業者モ失敗ヲ免レス而シテ時運ハ之ヲ豫知スルコト甚タ難ク隨テ時運ノ爲メニ成功シ之ニ依テ獲得セル利潤ハ猶ホ都會ノ地代カ偶然ノ原因ニ因リテ暴騰セルニ酷似スルモノトス

第三　獨占　自由競爭ノ行ハルル企業ニシテ利潤ノ多大ナルモノアランニハ忽チ多數ノ同業者ヲ生シ競爭ノ結果利潤減少スヘキモ獨占ノ場合ニハ然ラス例ヘハ專賣特許ヲ有スル物品ノ價格ハ遙ニ生產費ヲ超ユルモノ多ク隨テ其專賣權ノ所有者ハ多大ノ利潤ヲ得ルナリ鐵道ノ如キ所謂自然的獨占業ニシテ全然之ヲ私人ノ利己心ニ放任スルトキハ鐵道會社ハ其賃金ヲ高メテ以テ利潤ノ增加ヲ圖ルヘキナリ又近時特ニ米國ニ流行スル「トラスト」ナルモノハ多額ノ利潤ヲ獲得スル者少カラス是レ亦連合ノ力ヲ以テ市場ヲ制シ自ラ獨占ノ形勢ヲ來スニ因ルモノトス

或ハ利潤ヲ以テ不當ト爲ス者アリト雖モ要スルニ謬說タルヲ免レス蓋シ獨占ヨリ生スル利潤ニ付テハ批難スヘキ場合ナキニ非ス例ヘハ「トラスト」カ其生產品ノ價格ヲ引上ケ鐵道會社カ賃金ヲ高ムルカ如キハ一部ノ少數者之ニ因リテ利益ヲ得レトモ社會全般ハ損害ヲ被ムルモノトス專賣特許ノ場合ハ之ト異ナリ縱令專賣權所有者ハ之ニ因リテ巨利ヲ得ルモ社會ヨリ之ヲ奪フニ非ス何トナレハ專賣權所有者ハ其發明ニ因リ新奇ナル財貨ヲ生產シ若クハ財貨ノ生產ニ新方法ヲ用フルニ過キス社會ヲ强制シテ其生產品ヲ買ハシムルモノニ非サレハナリ且專賣特許ノ制度ハ發明ヲ奬勵スルモノニシテ一時發明者ノミ利益ヲ得ルカ如シト雖モ結局其恩惠ハ社會全般ニ及フモノトス然レトモ專賣權ハ永久付與スヘキモノニ非ス相當ノ年限ヲ定メ發明奬勵ノ目的ヲ害セサル限リ之ヲ短縮スヘキモノトス企業者カ其才能ニ依リテ獲得スル利潤ニ至リテハ批難スヘキ點ナク其原因生產費ノ減少ニ在ルトキハ殊ニ然リ即チ此場合ニハ財貨ノ價格ハ增加スルコトナク却テ低落スルモノトス又時運ノ爲メニ利潤ヲ生スルコト曩ニ述ヘタルカ如シト雖モ亦時運ノ爲メニ損失ヲ來スコトアルヲ免レス要スルニ企業者ハ危險ヲ冒シ一切ノ責任ヲ負ヒ以テ生產ヲ行フモノニシテ結局社會全般ニ利益ヲ與フルモノナルカ故ニ企業者トシテ利潤ヲ得ルハ當然ナリトス

第三節　利潤ト他ノ所得トノ關係

曩ニ述ヘタルカ如ク利潤ハ生產物ノ賣上高ヨリ生產ニ要セル諸種ノ費用ヲ控除セルモノナルカ故ニ此等ノ費用大ナレハ利潤少ク此等ノ費用少ケレハ利潤大ナルノ理ナリ而シテ地代、利息、賃銀ハ此等ノ費用ノ大部分ヲ占ムルモノナルカ故ニ少シク其關係ヲ述ヘン

生產物ノ價格騰貴スルニ當リ企業者カ土地所有者ニ支拂フ地代變更スルコトナクンハ企業者ノ利潤ハ增加スルモノトス故ニ生產物ノ價格ノ騰貴ニシテ永續スルトキハ其土地ヲ借ラントスル企業者增加シ競爭ノ結果地代モ亦騰貴スルヲ以テ利潤ハ減少シテ從前ノ割合ニ復歸スルノ傾向アルモノトス

次ニ利息トノ關係ヲ觀ルニ例ヘハ一萬圓ノ借入資本ニ對シ年八分ノ利息ヲ支拂ヒタルニ利率低落シテ年五分ト爲ルニ於テハ即チ一箇年三百圓ノ費用ヲ減少スル所以ニシテ生產物ノ價格變動スルコトナク

0416

ンハ其金額ハ利潤ト爲ルモノトス之ニ反シテ利率上騰スルト共ニ生產物ノ價格モ亦之ニ應シテ騰貴スルコトナクンハ利潤ハ減少セサルヲ得サルナリ是ヲ以テ利潤ノ多少ハ資本ニ對スル需要ヲ增減シテ利率ノ高低ヲ來スト共ニ利率ノ高低ハ又利潤ノ增減ニ影響ヲ及ホシ以テ企業ノ伸縮ヲ來スノ力アルモノトス故ニ平日利率ノ低キ國ト高キ國トヲ比較セハ前者ノ企業者ハ後者ノ企業者ニ對シテ一大便益ヲ占ムルモノト謂フヘシ

終ニ賃銀トノ關係ヲ觀ルニ數多ノ企業ニ於テハ賃銀ハ生產費ノ一大部分ヲ構成スルモノニシテ企業者ハ成ルヘク其低キヲ欲シ勞働者ハ成ルヘク其高キヲ望ムカ故ニ利害相異ナリ隨テ軋轢衝突ノ現象ヲ生スルニ至ルナリ而シテ曩ニ述ヘタルカ如ク賃銀ト勞働費トハ必スシモ同一ナラス企業者ノ利潤カ勞働者ノ賃銀ト共ニ增加スルコトアルヤ疑ナシト雖モ同一ノ割合ヲ得ルコト甚タ難シトス

第五編　財貨ノ消費

第一章　消費ノ意義及ヒ種類

第一節　消費ノ意義

人ハ物體ノ一分子タモ創造シ能ハサルト共ニ亦一分子タモ之ヲ消滅セシムルヲ得サルナリ故ニ財貨ノ生產カ財貨ヲシテ效用ヲ生セシメ又ハ效用ヲ增加セシムルノ謂ナルカ如ク財貨ノ消費トハ財貨ヲシテ其效用ノ一部若クハ全部ヲ失ハシムルヲ謂フ

財貨カ其效用ヲ失フニハ種種ノ原因アリ例ヘハ流行ニ後レタル帽子、昨年ノ曆ノ如キハ物質上毫モ變更スル所ナクシテ其效用ヲ減損セルナリ蓋シ此等ノ財貨ニ對スル欲望即チ人類ノ意想上ニ變化ヲ生セルニ由ルモノニシテ二三ノ經濟學者ハ之ヲ稱シテ意想上ノ消費ト謂フ然レトモ此ノ如キ原因ヨリ生スル效用ノ減損若クハ滅失ヲ消費ト名クルトキハ物價ノ高低ヲ或ハ生產或ハ消費ト稱セサルヲ得サルニ至ル故ニ主觀的ノ原因ニ因リテ財貨カ效用ヲ失フハ通常之ヲ消費ト看做ササルナリ

財貨ハ風雨、水火等ノ爲メニ其效用ヲ失フコトアリ例ヘハ火災ノ爲メニ家屋ヲ燒失シ洪水ノ爲メニ田畝ヲ荒廢ニ歸セシムルカ如キ是ナリ此ノ如キ原因ニ因リ財貨ヲシテ其效用ヲ失ハシムルハ一箇人ニ對シ又社會全般ニ對シ純然タル損害タルヲ以テ各種ノ手段方法ニ依リ或ハ之ヲ豫防シ或ハ損害ヲ輕減スルコトヲ圖ラサルヘカラス風雨、水火等ノ爲メニ財貨カ其效用ヲ失フヲ自然的消費ト名クル者アリト雖モ吾人ハ之ヲ消費ノ範圍ニ置カサルナリ

又他ノ財貨ヲ生產スルカ爲メニ一ノ財貨ヲ使用スルヲ名ケテ生產的消費ト謂フ者アリ例ヘハ綿絲ヲ製造スルカ爲メニ棉花ヲ用ヒ、紡績器械ヲ運轉スルカ如キ是ナリ棉花ハ化シテ綿絲ト爲ルカ故ニ棉花タルノ效用ヲ失ヒ紡績器械ハ運轉ノ際多少ノ摩損ヲ來スカ故ニ是レ亦絕エス其效用ノ一部ヲ減ス若シ夫レ消費ナル語ヲ廣義ニ解スルトキハ是レ亦一種ノ消費ナリト雖モ吾人ノ所謂消費ハ之ヲ包含セサルナリ

吾人ノ所謂消費ナルモノハ人カ其欲望ヲ滿足スルノ目的ヲ以テ財貨ヲ使用シ之カ爲メニ財貨カ其效用ノ一部若クハ全部ヲ失フコト是ナリ例ヘハ衣服ヲ著シ米、肉ヲ食シ家屋ニ住スルカ如キヲ謂フ而シテ財貨ヲシテ效用ヲ失ハシムルハ決シテ之ヲ冀望スルニ非ス自然ノ法則上已ムヲ得サルニ出ツ故ニ人ノ消費ヲ爲スヤ成ルヘク效用ノ減損ヲ少クシテ以テ其欲望ヲ滿足センコトヲ努ムルナリ

抑ヽ人ノ孜孜營營トシテ財貨ニ從事スル所以ノモノハ何ソヤ他日之ヲ消費ニ供スルカ爲メニ外ナラス

0417

之ヲ換言スレハ人ハ生産スルカ爲メニ生活スルニ非ス生活スルカ爲メニ生産スルナリ故ニ消費ハ經濟的動作ノ目的ニシテ生産、交易及ヒ分配ハ畢竟之カ手段通路タルニ過キス消費カ其數量及ヒ種類ニ於テ增加シ其性質ニ於テ進歩スルハ一箇人ノ場合ニ於テモ又一國ノ場合ニ於テモ其繁榮ノ上進ヲ示スモノトス

然レトモ消費モ一定ノ程度ヲ超ユヘカラス若シ夫レ消費ノミ增加シテ生産之ニ伴ハサルトキハ資本タルヘキ財貨ノ減少ヲ來シ遂ニ社會ノ發達、文化ノ進歩ヲ妨クルニ至ルヘシ故ニ消費ヲシテ間斷ナク增加上進セシメント欲セハ消費ニ多少ノ制限ヲ加ヘサルヘカラス一箇人ニ就テ之ヲ觀レハ一箇年ノ所得ヲ以テ悉ク衣食住等ノ消費ニ供スルトキハ毫モ其貪産ヲ增加スルコトヲ得サレトモ其所得ノ一部ヲ貯蓄シテ資本ト爲ストキハ翌年ハ之カ爲メニ所得增加シ隨テ消費ヲモ上進セシムルコトヲ得一國ニ於テモ亦然リ國民貯蓄ノ精神ニ富ミ資本ノ增殖盛ナルニ於テハ全般ノ生産大ニ振興シ隨テ全般ノ消費モ亦上進スヘキナリ是ヲ以テ貯蓄ナルモノハ現在消費スヘキモノヲ消費セスシテ之ヲ將來ニ遺シ之カ報酬トシテ後日一層多額優等ノ消費ヲ爲ス所以ナリ

第二節　一家族ニ於ケル消費ノ種類

人ノ欲望ハ千趣萬狀ニシテ先天的必然ノ欲望ハ自ラ其數ニ限アリト雖モ後天的ニ發生スルモノニ至リテハ文化ノ進歩スルニ隨ヒ漸次增加シテ殆ト底止スル所ナキナリ而シテ現今ノ社會ニ於テ人カ消費ニ供スル財貨ハ多クハ他人ノ生産ニ係ルモノナルカ故ニ之ヲ買入ルルコトヲ要シ隨テ人ノ消費ヲ爲スヤ其數量、種類共ニ所得ニ依リテ制限セラルルモノトス即チ一家族カ一箇年間ニ支出スル經費ノ種目及ヒ其割合ハ所得ノ大小ニ隨ヒ其間ニ差異アルヲ見ルナリ歐米諸國ニ於テハ社會諸階級ヲ代表スヘキ家族殊ニ勞働者ノ家族ニ就テ其所得及ヒ經費ノ種目、割合ヲ研究シ其結果ノ公ニセラレタルモノ少シトセス今獨逸ニ於ケル數箇ノ實例ヲ擧ケテ參考ニ資セン

	第一	第二	第三	第四	第五	第六
	一箇年ノ平均所得五百五十九「マルク」ナル手織職工一家ノ生計費	一箇年ノ平均所得千八十三「マルク」ナル卷煙草製造職工一家ノ生計費	一箇年ノ所得千九百八十五「マルク」ナル地位少シク優等ノ工場職工一家ノ生計費	一箇年ノ所得約三千「マルク」ナル一家ノ生計費	一箇年ノ所得約五千「マルク」ナル一家ノ生計費	富有ナル家族（其所得平均四萬八千「マルク」）ノ生計費
經費ノ種目	總經費ニ對スル百分比例					
食物	七一、一四	六一三四	五二四	三九、九	二八、八	一七、〇
住居	六、五五	七、七	一九、三	二四、〇	一五、〇	一一、一
衣服器具等	八四七	九三、九六	八六、三	八二、四	九八、八	四一、八
殿室及ヒ點燈	六、三五	七、八〇	一一、〇	四、一	一〇、六	一〇、八
	九二、五二		三、六	四四	四四	二、九

此等ノ統計ニ徵スルトキハ下層ノ人民ハ僅ニ生活ニ必要ナル欲望ヲ滿足シ得ルノミニシテ所謂文明的生活ニ伴フ他ノ高尚ナル欲望ヲ滿足スルコト甚タ少キヲ知ルヘシ

第二章　消費ト生産トノ關係

第一節　過剩生產

消費ト生產トハ密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ生產スヘキ財貨ノ種類及ヒ其數量ハ之カ消費ヲ標準トシテ適應セシメサルヘカラサルナリ隨テ生產ト消費トハ常ニ其間ニ權衡ヲ維持セントスル傾向ヲ有スルモノナレトモ實際生產ト消費トハ全ク相投合スルモノニ非ス一年間ニ生產セル財貨ハ其期間ノ消費ノ爲メニ生セル同種ノ財貨ノ缺乏ヲ補ヒテ或ハ餘剩アルコトアリ或ハ不足ナルコトアルヘキナリ蓋シ今日ノ經濟社會ノ如ク各種ノ生產カ箇箇獨立ノ企業者ニ依リテ行ハルルニ於テハ各企業者ハ其生產スル財貨ノ消費額ヲ先見豫定スルコト甚タ難ク一二ノ生產者カ市場ノ情況ヲ精密ニ測定シテ需要減少ヲ豫察シ其生產額ヲ減セルカ如キ場合ニ他ノ同業者ニシテ却テ其生產ヲ擴張スル者アランニハ其用心注意ハ水泡ニ歸スヘシ是レ即チ所謂過剩生產ナルモノノ時時起ル所以ナリ

過剩生產ハ絕對的ニ起ル場合ナキニ非ス例ヘハ交通不便ナル海濱ニ於テ非常ナル大漁アリタルトキノ如キ是ナリ然レトモ本節ニ述ヘントスルハ比較的ノ生產過剩ナリトス抑〻現今ノ社會ニ於テハ人生ノ欲望ヲ十分ニ滿足シ能ハサルモノ甚タ多ク隨テ諸種ノ財貨カ其數量及ヒ種類ニ於テ今日ニ數倍スルモ若シ之カ價格ヲ大ニ低廉ニセハ忽チ消費セラルヘシト雖モ生產者カ相當ノ利潤ヲ獲得シ得ヘキ價格ヲ維持セントスルトキハ其生產物ノ一大部分ヲ賣却シ能ハサルノ結果ヲ生スルコトアリ是レ即チ所謂過剩生產ナルモノニシテ要スルニ供給遙ニ需要ニ超過スルニ由ルモノトス

此過剩生產ハ一國生產ノ一部ニ止マリテ終ルコトアリト雖モ亦他ニ波及スルコトアリ例ヘハ甲ナル工業ニ於テ過剩生產起ルトキハ其企業者ハ或ハ利潤ヲ減シ或ハ損失ヲ招クカ故ニ自己ノ消費ヲ縮少スルノミナラス勞働者ノ賃銀ヲ低減シ又ハ勞働者ヲ解雇スルコトアルヲ以テ此等ノ勞働者ノ消費力モ亦減退スルモノトス此ノ如ク甲工業ノ企業者竝ニ勞働者ノ消費品ニ對スル需要減少スルカ故ニ此等ノ消費品ヲ生產スル乙丙丁等ノ工業モ亦過剩生產ニ陷リ而シテ此等ノ工業ニシテ過剩生產ヲ感スルコト大ナルトキハ其企業者ハ甲工業ノ企業者ト同シク自己ノ消費ヲ減シ勞働者ノ賃銀ヲ低クスル等ノ方法ヲ採ルカ故ニ其影響ハ更ニ他ノ生產業ニ及フニ至ルナリ

社會全般ニ亘ル過剩生產ナルモノナシトスル經濟學者尠シトセス其說ニ曰ク人各〻其生產シタル財貨ヲ以テ他人ノ生產シタル財貨ニ交易スルモノナルカ故ニ自己ノ生產多ケレハ他人ト交易シ得ヘキ財貨增加スルカ故ニ他人ノ財貨ニ對スル消費力增加スルモノトス例ヘハ甲乙互ニ其財貨ヲ交易スルニ當リ甲ノ生產增加センカ乙ノ財貨ニ對スル甲ノ需要必ス增加スヘシ何トナレハ其交易ニ供スヘキ財貨ヲ多ク減スレハナリ此時ニ當リ乙モ亦其生產ヲ增加シタリトセンカ乙亦甲ト交易スヘキ財貨ヲ多ク有スルカ故ニ甲ノ財貨ニ對スル需要モ亦增加スルナリ然ラハ則チ甲乙各自カ他ニ對スル需要增加スルヲ以テ交易ハ容易ニ行ハレ甲乙共ニ生產ノ過剩ヲ覺ユルコトナシト然レトモ更ニ丙ナル者アリ甲乙ト交易スルモ甲ハ丙ノ生產物ヲ、乙ハ甲ノ生產物ヲ、而シテ丙ハ乙ノ生產物ヲ多ク得ンカ爲メニ多ク生產シタリト假定セハ三者間ノ需要供給投合セサルカ故ニ各〻過剩生產ニ陷ルヘシ且之ヲ實際ニ徵スルニ殆ト總テノ生產業カ其生產物ノ價格下落ニ遭遇シテ互ニ過剩生產ニ苦シム場合アルヲ見ルナリ

第二節　恐慌

曩ニ述ヘタルカ如ク生產ト消費トハ全ク相投合スルコト甚タ難ク而シテ其不權衡ニシテ甚シカラサル

0419

トキハ自ラ調和スルコトヲ得レトモ過剩生產大ナルトキハ彼ノ恐慌ヲ惹起スルニ至ル「ロッシェル」曰ク恐慌トハ生產其量ニ過キ消費之ニ伴フコト能ハサルニ起因スル一國經濟上ノ病患ナリト又「ヘルクナー」曰ク恐慌ハ通例生產ト購買力ヲ有スル需要トノ間ニ於ケル權衡ノ破レタルニ外ナラスト而シテ此恐慌ナルモノハ經濟社會ノ一部ニ起リテ多クハ他ノ部分ニ波及シ甚シキニ至リテハ數國ニ蔓延スルコトアリ我國ノ經濟社會ハ未タ急激ナル恐慌ノ襲來ヲ被ラスト雖モ歐米諸國ニ於ケル恐慌ハ枚擧ニ遑アラサルナリ而シテ恐慌直接ノ原因、經過及ヒ其結果ニ至リテハ相同シカラスト雖モ英國ニ起リタル恐慌ニ就テ之ヲ概言スレハ左ニ述フルカ如キ順序ヲ蹈ムモノ多シトス

或年ニ於テ社會一部ノ人人世間ノ景氣好況ニ赴クモノト爲シ製造、銀行、鐵道等ノ事業ニ資本ヲ投スレハ必ス多大ノ利潤ヲ占ムヘシト信スル者アルヲ見ル一部ノ人人此ノ如キ念慮ヲ抱クトキハ他ノ人人モ亦誘ハレテ同一ノ冀望ヲ生シ遂ニ世上ノ景氣益〻有望ナリトノ思想ハ社會ノ全面ニ蔓延スルニ至ル是ニ於テ新發明ヲ應用シ新事業ヲ興スカ爲メニ會社ヲ發起スル者アルトキハ容易ニ株金ヲ募集シ得ルヲ以テ所謂投機者流ハ奇貨居クヘシト爲シ數多ノ新事業ノ計畫ヲ發表シ而シテ或種類ノ株券ニシテ其價格騰貴スルトキハ他ノ株券モ亦早晩騰貴スヘシト信シ投機者流ノ發起セル會社モ忽チ株式ノ應募者ヲ得ルナリ此ノ如ク新事業、新會社相踵テ起ルトキハ建築、製造等ニ必要ナル材料ハ其價格騰貴シ勞働者モ亦勞働ノ需要增加ノ爲メニ賃銀昂騰シ其消費力膨脹スルカ爲メニ勞働者ヲ顧客トスル商人ハ多大ノ利潤ヲ得ルナリ而シテ他ノ物品モ亦需要ノ增加ヲ豫想シテ商人頻ニ買入ヲ爲スカ故ニ價格ハ次第ニ上騰スルモノトス此ノ如キ狀態ハ永久ニ繼續スルモノニ非ス株式ノ募集ニ應シタル者ハ其拂込ヲ爲スカ爲メニ銀行ヨリ預金ヲ引出シ隨テ銀行ノ資本缺乏ヲ來スニ當リ製造家、商人又ハ投機者流ハ

其事業ヲ擴張シ早ヲ趁ヒテ多大ノ利潤ヲ得ントシ爲メニ銀行等ヨリ資本ヲ借入レントスルコト益〻急ナルカ故ニ金融次第ニ逼迫ヲ告ケ金利隨テ上騰セサルヲ得サルナリ是ヨリ先キ投機者流ハ多クハ種種ノ手段ヲ以テ巨額ノ資本ヲ借入レタルヲ以テ金利ノ上騰ハ此等ノ輩ニ一大痛苦ヲ與フルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ投機者流ノ爲メニ手形ノ割引等ヲ爲シタル資本主ハ漸ク其貸金ノ返濟ヲ危ムノ念慮ヲ生スルニ至リ是ニ於テ投機者流ハ進退維レ谷リ遂ニ其所有ノ株券又ハ物品ヲ賣出ス者ヲ生シ而シテ事茲ニ至ルヤ他ノ投機者流モ價格ノ下落ヲ豫想シテ賣出一方ニ偏スルヲ以テ忽チ物價暴落ノ趨勢ヲ促成スルナリ是ニ於テ投機者流ハ其損失ノ爲メニ債務ヲ辨償スルコト能ハス遂ニ累ヲ他人ニ及ホシ例ヘハ信用ヲ以テ物品ヲ賣込ミタル製造家又ハ資金ヲ融通セル銀行モ亦非常ナル損失ヲ釀スナリ而シテ破產者續續輩出スルニ及ヒテハ人人皆疑懼ノ念ヲ生シテ信用全ク地ヲ掃フニ至ル是レ即チ恐慌ノ襲來セルモノニシテ世人ハ呆然爲ス所ヲ知ラス經濟社會ハ忽チ寂寥タル景狀ヲ呈ス此恐慌ノ爲メニ損害ヲ被ル者ハ啻ニ企業者、資本家ノミナラス多數ノ勞働者モ亦其職ヲ失ヒ糊口ニ窮スル者少カラスト雖モ恐慌ノ後ニハ人人大ニ恐懼ノ念ヲ生シ縱令有望確實ノ事業ト雖モ進テ之ヲ計畫スル者少キカ故ニ商工業大ニ不振ノ狀態ニ陷リ所謂不景氣ノ嘆聲到ル處ニ聞カサルナシ然レトモ兩三年ヲ過クルトキハ人人多少前年ノ慘狀ヲ忘却シ且不景氣ノ際ニハ富有者モ自ラ節儉ヲ行ヒテ貯蓄增殖シ隨テ銀行ノ預金等モ增加シ銀行モ此等ノ資本ヲ使用センカ爲メニ利率ヲ低クシ進テ割引、貸付ヲ爲スニ至ル是ニ於テ信用漸ク舊ニ復シ再ヒ景氣ニ向ハントスル徵候ヲ現ハスナリ

此ノ如ク經濟界ノ榮枯盛衰ハ自ラ循環變移スルモノニシテ時時恐慌ノ襲來ヲ被ルハ殆ト免ルヘカラサルモノノ如シ而シテ第十八世紀ヨリ第十九世紀ニ亘リ歐洲ニ起レル恐慌ハ約十年ヲ隔テテ相踵ケル

0420

以テ「ジェヴォンス」ハ之カ原因ヲ太陽熱度ノ變化ニ歸セシト雖モ其說タルヤ奇矯ニ失スルモノニシテ近時ニ於テハ其循環期ハ不規則的ト爲レリ

社會主義ノ論者ハ今日ノ社會ニ行ハルル自由競爭ト土地、資本ノ私有制度トヲ以テ恐慌ノ眞因ト爲シ若シ土地、資本ノ私有制度ヲ廢シ箇人間ノ競爭ヲ絕チ社會ノ人人協同シテ生産ニ從事スルトキハ生産ト消費トノ間ニ權衡ヲ失スルコトナキカ故ニ恐慌ハ決シテ起ラスト爲ス然レトモ曩ニ再三述ヘタルカ如ク土地、資本ノ制度ヲ廢止スルハ到底實行シ得ヘキコトニ非サルナリ且今日ト雖モ恐慌ヲ豫防スル方法絕無ナルニ非ス近時歐米ノ經濟界ニ現出セル企業者組合ハ人爲的獨占ヲ爲シテ生産物ノ價格ヲ高カラシムル等ノ惡弊アリト雖モ箇箇獨立ノ企業者カ相互ノ競爭ニ堪ヘス自衛上相合同スルニ至レルモノ亦少カラサルカ如シ其社會ニ及ホス利害得失ニ至リテハ諸說紛紛未タ之カ判斷ヲ下スコト能ハスト雖モ要スルニ一種ノ財貨ノ生産ヲ一手ニ纏メントスルモノナルカ故ニ生産額ノ增減自ラ自在ニシテ若シ巧ニ生産ヲ伸縮セハ以テ過剩生産ヲ豫防スルコト必スシモ難カラサルナリ又過剩生産起リテ繼クニ恐慌ヲ以テセハ勞働者モ亦損害ヲ免レサルカ故ニ勞働者ノ組合モ往往過剩生産ニ對シテ豫防ノ手段ヲ採ルコトアリ例ヘハ千八百九十二年三月ニ當リ英國ノ坑夫組合ノ一大同盟罷工ヲ爲セルハ其目的主トシテ石炭ノ過剩生産ヲ防クニ在リシト云フ

又曩ニ述ヘタルカ如ク恐慌ノ來ルニ先チ社會一般ニ企業心勃興シ次テ投機的事業ノ旺盛ナルヲ見ルナリ而シテ多數ノ企業者ハ他人ノ資本ヲ使用スルモノナルカ故ニ利率ノ低キハ自ラ企業ヲ奬勵シ其高キハ之ヲ抑制スルノ傾向アルモノトス故ニ巧ニ利率ヲ高低スルコトヲ得ハ亦以テ恐慌豫防ノ一手段ト爲スコトヲ得ルナリ由來利金ノ高低ハ資本ノ需要供給ノ關係ニ因リテ定マルモノナレトモ一國金融界ノ

覇權ヲ掌握スル中央銀行ノ利率ハ或程度内ニ於テ一般ノ金融ニ影響ヲ及ホスモノニシテ中央銀行ノ利率上ルトキハ市場ノ利率亦上リ中央銀行ノ利率下ルトキハ市場ノ利率亦下ルモノトス故ニ此勢力ヲ利用シテ經濟界ノ變移ニ應スルハ中央銀行ノ職責ナリ即チ經濟界ノ好景氣一轉シテ投機的企業勃興ノ徵候現ハルルニ至ラハ中央銀行ハ時機ヲ失セス十分ニ利率ヲ引上ケテ企業者ニ警告ヲ與ヘ以テ資金需要ノ緊縮ヲ促ササルヘカラス是レ實ニ恐慌ヲ未發ニ鎭壓スルノ良策ニシテ若シ之ニ反シテ投機熱ノ旺盛ナラントスルニ當リ中央銀行依然利息ノ低率ヲ繼續シテ增加セル資金ノ需要ニ應スルトキハ益〻投機ヲ助長シ遂ニ恐慌ノ襲來ヲ見ル而シテ中央銀行屢〻利率ヲ引上ケタルモ其效ナク恐慌遂ニ破裂スルニ及ヒテハ益〻利率ヲ引上クルト共ニ毫モ躊躇ノ色ヲ現ハサス盛ニ割引、貸付ノ依賴ニ應セサルヘカラス是レ蓋シ人心ヲ鎭撫スルノ祕訣ナリトス抑〻恐慌ノ襲來セルニ際シ人人ノ最モ苦慮スルハ即時ニ其債務ヲ果スコト能ハサルニ在リ若シ債權者ニシテ辨償ノ延期ヲ許諾セハ債務者ハ後日必ス其義務ヲ盡スノ資力ヲ有スルモ即時ニ之カ辨償ヲ請求セラルルニ於テハ遂ニ破產セサルヲ得サル者少カラス故ニ此ノ如キ人人ハ利率ノ高低ニ關セス目下ノ急ヲ救フカ爲メニ割引、貸付ヲ請求スルモノナルヲ以テ中央銀行ハ一方ニ於テハ利率ヲ高メテ需要ノ緊切ナラサルモノヲ退ケ他ノ一方ニ於テハ相當ノ手形擔保品ヲ提供スル者ニ對シ十分ニ資金ヲ融通スヘシ然ラハ則チ人心自ラ靜穩ニ歸シ恐慌ヲシテ其極點ニ達セシメサルヲ得ヘシ而シテ恐慌ノ際市場ノ銀行カ割引、貸付ヲ縮小シテ資金ノ回收ヲ圖ルハ自衛上己ムヲ得スト雖モ中央銀行ハ獨リ狂瀾ノ上ニ嶄然屹立スルヲ得ルカ故ニ右ニ述ヘタルカ如キ方法ヲ以テ恐慌鎭撫ノ衝ニ當ルハ中央銀行ノ職責ニシテ英、獨等ノ中央銀行實ニ適例ヲ示セリ

0421

第三章　人口論

第一節　「マルサス」ノ人口論

人口ノ多少增減ハ啻ニ經濟上ノ問題ナルノミナラス政事上、軍事上等ニモ至大ノ關係ヲ有スル事項ナリトス然レトモ「マルサス」ノ人口論ハ主トシテ人類ノ蕃殖ト食物ノ增加トノ關係ヲ說明セルモノニシテ要スルニ消費ト生產トノ關係ニ外ナラサルヲ以テ玆ニ其概要ヲ述ヘント欲ス

「トーマス、ロバート、マルサス」ハ英國ノ人千七百六十六年ヲ以テ生レ千八百三十四年ヲ以テ歿ス其著「人口論」ノ第一版ヲ刊行セルハ千七百九十八年ナリトス是ヨリ先キ英國ニ於テハ大規模ノ工業興リテ人民ノ都府ニ移住スルコトヲ促シ社會ノ狀態激變ノ際將來ニ對シテ空望ヲ抱ク者多ク隨テ此等ノ徒ハ漫ニ結婚ヲ爲スノ風習ヲ爲セリ之ニ加フルニ貧民救濟法ノ制限大ニ弛ミテ兒女ノ多キモノ殊ニ其恩惠ニ浴シ而シテ戰爭ト工場ノ設立トハ人力ヲ要スルコト多ク人人皆人口ノ增殖ヲ冀望セルヲ以テ第十八世紀ノ後半期ニ於テ英國ノ人口ハ大ニ增加シタレトモ食物ノ增加ハ之ニ隨伴セス殊ニ凶歉頻ニ臻リ麵麭ノ價大ニ騰貴シ劣等ノ土地亦耕作セラルルニ至レリ是ヲ以テ下層人民ノ多數ハ非常ノ悲境ニ陷リ殊ニ都會ニ於テハ製造家等ノ富有ナル生活ニ對シテ懸隔ノ著シキヲ示セリ「マルサス」ノ人口論ハ此ノ如キ狀態ヲ觀察セル結果ニ外ナラサルヲ以テ其少シク極端ニ馳スルハ蓋シ已ムヲ得サルナリ先ツ氏ノ人口論ノ概要ヲ左ニ述ヘン

現存ノ營養手段以上ニ蕃殖セントスルハ生物界共通ノ傾向ニシテ植物、動物ノ蕃殖力ハ其蕃殖ト營養手段ニ對スル競爭トニ依リテ始メテ制限セラルルモノトス蓋シ自然ハ動植物ニ非常ニ多數ノ種子ヲ與フルト同時ニ場所ト營養トヲ給スルコト少シトス若シ此等ノ種子ニシテ自由ニ發達スルコトヲ得セシメハ數千年間ニシテ數百萬ノ地球ニ充滿スルニ至ルヘシ而シテ動植物ハ其子孫ニ對シテ毫モ慮ル所ナキカ故ニ生殖ノ自由アルニ於テハ忽チ蕃殖シテ場所ト營養トノ不足ノ爲メニ再ヒ其數ヲ減スヘシ然ルニ人類ハ强力ナル生殖ノ天性ヲ有スレトモ他ノ生物ト異ナリ理性ヲ備フルカ故ニ過度ノ蕃殖ノ結果ヲ豫知スルコトヲ得ルナリ而シテ人類若シ此理性ノ指導ニ從ハス其養育ヲ顧ミスシテ漫ニ子孫ヲ產出スルトキハ自然ハ忽チ其法則ヲ行ハシムルモノトス故ニ人類ハ其蕃殖上常ニ困難ヲ感スルモノニシテ此困難ハ或ハ災害ヲ以テ或ハ災害ニ對スル恐怖ヲ以テ現ハレ要スルニ人類ヲ苦シムルモノタリ

然レトモ人口ハ其有スル食物以上ニ增加セントスル傾向ヲ有スルモノニシテ北米合衆國ノ如ク歐洲諸國ニ比シ食物饒多、風俗淳良、早婚ヲ妨クル原因少キ地ニ於テハ二十五年以下ヲ以テ人口二倍スルコト百餘年間繼續セリ故ニ障礙ナキニ於テハ人口ハ二十五年每ニ二倍スルハ明確ナリトス

然ルニ食物ノ增加ハ人口ノ蕃殖ニ異ナリ百萬ノ人口カ二十五年間ニ二倍スルハ一千ノ人口カ二十五年間ニ二倍スルト毫モ異ナルナキニ反シ增加セル人口ヲ養フヘキ食物ハ同一ノ比例ヲ以テ增加スルモノニ非ス耕作シ得ヘキ土地ニシテ悉ク人ノ所有ニ歸スルトキハ食物年年ノ增加ハ土地ニ施ス改良ニ依ラサルヘカラス而シテ改良ヨリ生スル收穫ノ增加ハ次第ニ減少スルモノトス今數學ノ方式ヲ以テ人口ノ增加ト食物ノ增加トヲ表示スレハ左ノ如シ

人口	1,	2,	4,	8,	16,	32,	64,	128,	256,	……					
食物	1,	2,	3,	4,	5,	6,	7,	8,	9,	……					

即チ二百年ヲ經過スルトキハ人口ト食物トハ二百五十六ト九トノ割合ト爲リ三百年ノ終ニハ四千九十

0422

六ト十三トノ割合ト爲リ二千年ノ後ニハ其割合殆ト計算スヘカラサルニ至ルナリ

食物ノ增加スルコト固ヨリ疑ナシト雖モ其增加ノ割合ハ人口增加ノ割合ニ比シテ非常ノ差異アルコト右ノ如シ故ニ人口ハ殘酷ナル自然ノ法則ニ依リテ常ニ食物增加ノ程度ニ引戻サルルモノトス而シテ自然ノ法則ノ現ハルルヤ種種ノ形狀ヲ以テスレトモ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得即チ豫防的制限及ヒ積極的制限是ナリ豫防的制限ハ各箇人ノ自由行爲ニ依ルモノニシテ道德的ナルモノト不道德的ナルモノトアリ例ヘハ殺兒、墮胎、娼妓ノ制度等ハ後者ニ屬シ克己(早婚ヲ爲ササルカ如キ是ナリ)移住ノ如キハ前者ノ例トス又積極的制限ハ飢饉、疫癘、戰爭其他貧困、過度ノ勞働等死亡ヲ來シ人命ヲ短クスルモノヲ謂フ

「マルサス」ハ更ニ其所說ヲ概括シテ曰ク第一、人口ハ必ス食物ニ依リテ制限セラルルモノトス第二、他ニ有力ナル障礎ノ之ヲ妨クルナキニ於テハ人口ハ必ス食物ノ增加ニ伴ヒテ蕃殖スルモノナリ第三、豫防的又ハ積極的ニ人口ノ增殖ヲ妨ケ以テ食物ノ存在額ニ適應セシムル障礎ハ皆克己、邪行又ハ災厄ニ歸スルモノトス

「マルサス」カ人口論ハ其主旨トスル所約ネ右ノ如シ而シテ「マルサス」ハ世界各國ノ實例ヲ無數ニ蒐集シテ以テ自己ノ所說ヲ證明シ支那、日本、臺灣等ノ事情モ亦之ヲ記述セリ

第二節　「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之カ批評

「マルサス」ノ人口論ニ對シテ第一ニ駁擊ヲ爲セルハ宗教家ナリトス蓋シ耶蘇教ニ於テハ神ハ人類ニ幸福ヲ與フルモノトシ經典ニ「蕃殖シテ地球ニ充滿セヨ」トノ語アルヲ以テ其「マルサス」ノ人口論ト氷炭相容レス宗教家カ「マルサス」ヲ攻擊セルハ怪ムニ足ラス然レトモ經典ノ趣旨ニ反スルカ故ニ「マルサス」ノ人口論ハ謬レリト謂フヲ得サルナリ

第二ニ社會主義ハ今日社會ニ存在スル諸種ノ弊害ヲ土地、資本ノ私有制度ニ歸シ此制度ヲ廢スレハ人ハ圓滿幸福ニ生活シ得ルモノニシテ人口ノ過剩ニ苦シムコトナキナリ社會主義ノ國家ニ於テハ或ハ今日如ク凍餒ニ苦シム赤貧者ナカランモ到底人口ノ增殖ヲ杜絕スルコト能ハサルヤ必セリ而シテ社會主義ノ實行シ難キハ曩ニ再三述ヘタルカ如キナリ

第三ニ「マルサス」ニ反對スル者ハ曰ク腦髓及ヒ神經系ノ發達スルニ隨ヒ人類ノ生殖力ハ減退スルモノナルカ故ニ開化ノ進歩スルト共ニ人口ノ增殖ハ次第ニ其力ヲ減スヘシ現今ニ於テモ下層社會ハ兒女ニ富ムニ非スヤト是レ「ケレー」「スペンサー」等ノ唱フル所ナリ今日上流社會ニ比較的兒女ノ少キハ主トシテ晩婚ノ多キト他ニ快樂ヲ取ルノ方法少カラサルニ因ルモノニシテ佛國ニ於テ人口ノ增殖セサル主因ハ所謂二兒制ニ存シ決シテ佛人ノ生殖力衰ヘタルニ非ス要スルニ「ケレー」「スペンサー」ノ說ノ論據ハ生理學者ノ否認スル所タリ

第四ニ「マルサス」カ人口ノ增加ヲ幾何的級數トシ食物ノ增加ヲ算術的級數ト爲セルヲ批難スル者少カラスト雖モ「マルサス」ハ單ニ二者增加ノ傾向ヲ示セルニ過キス「マルサス」カ言ヘルカ如ク人口ハ二十五年每ニ增加セサレトモ二十五年ノ二倍若クハ三倍以下ノ年數ヲ以テ二倍スルヲ見ルナリ左ニ之カ實例ヲ擧ケン

國名	每年增加ノ百分比例	二倍スル年數
獨逸	〇、九三	約七五年

0423

英蘭「ウェールス」	一、二七	約　五五年
丁抹	一、〇八	約　六五年
露西亞	一、二二	約　五五年
佛蘭西	〇、一八	約三五〇年
日本	一、〇四	約　六九年

又食物殊ニ穀物カ算術的級數ヲ以テ增加スルヤ否ヤヲ觀ルニ穀物ノ收穫ハ人類ノ知識、勤勉等ニ依リテ或ハ急激ニ進ムコトアルヘク或ハ長ク增加セサルコトアルヘキヲ以テ數字ヲ以テ其增加ノ割合ヲ表示スルコトヲ得サルナリ然レトモ同一ノ土地ニ就テ觀レハ報酬漸減ノ法則ナルモノアリテ收穫ノ增加ハ要スルニ遲緩ナリトス

以上述フル所ヲ以テ之ヲ觀ルニ「マルサス」ノ人口論ハ多少事實ニ背キ極端ニ馳スルノ點アリト雖モ大體ニ於テハ眞理ト謂ハサルヘカラス現今ノ社會ニ於テモ人口ハ直接ニ食物ノミノ爲メニ制限セラレサルモ間接ニ影響ヲ受クルコト少カラス生計容易ナレハ人口ノ增殖多ク生計困難ナレハ增加ノ割合減少スルモノトス例ヘハ千八百七十年、七十一年ノ戰爭ニ際シ獨逸ニ於テハ生產及ヒ結婚ノ數減少シ戰後產業物興スルヤ兩者共ニ其數著シク增加セリト云フ

廣袤狹小ニシテ人口既ニ稠密ナル邦國ニ於テハ特ニ人口ト食物トノ關係ニ注意スルコトヲ要シ我國ノ如キ亦其一タリ今ヤ我國ニ於テハ米ノ產出約四千萬石ニ過キス歲少シク凶歉ナルヤ忽チ外國米ノ輸入ヲ見ルナリ然レトモ佛國ノ如ク二兒制ヲ以テ人口ノ蕃殖ヲ妨クヘキニ非ス苟モ一國ノ獨立ヲ維持シ殊ニ列國ノ間ニ介在シテ一大國タルノ位置ヲ占メントスルトキハ人口實ニ之カ基礎タリ之ヲ古來ノ歷史ニ徵スルニ往昔ハ少數ノ人口ヲ以テ世界ニ雄飛スルコトヲ得タリ例ヘハ「ペルシャ」ト戰ヒテ大勝ヲ得タル「アゼンス」ノ人口ハ十五萬、「ヴェニス」カ地中海上ニ其勢力ヲ振ヒタルトキハ其人口百三十萬、和蘭カ最モ隆盛ノ域ニ達シタルトキ其人口二百二十萬ニ過キス彼ノ「オーガスタス」カ四海ヲ併呑シテ羅馬帝國ヲ建設スルヤ其人口ハ五千萬乃至六千萬タリシト云フ第十九世紀ノ初ニ當リテモ一千萬乃至三千萬ノ人口ヲ有スルモノハ優ニ大國ノ班ニ列セリ然ルニ今日北米合衆國ハ七千萬、露西亞ハ一億以上ノ人口ヲ有シ一統計家ノ計算ニ據レハ千九百八十年ニハ英(殖民地ヲ含ム)米二國ノ人口ハ各〻四五億ニ上リ露西亞ノ人口ハ三億ニ達スヘシト即チ第二十世紀ノ終ニ於テハ少クトモ一億ノ人口ヲ有スルニ非サレハ大國ノ列ニ加ハルヲ得ス而シテ日本ノ人口モ毎年一分ツツ增加スルモノトセハ千九百八十年ニ一億ニ達スルヲ得ルナリ然レトモ此人口ハ何レノ地ニ於テ收容スヘキヤ食物ノ供給ハ何レノ地ニ仰クヘキヤ是レ今日ニ於テ既ニ考究スヘキ大問題ニシテ若シ夫レ之ヲ等閑ニ付シ豫メ之カ圖ヲ爲ササルニ於テハ他年必ス臍ヲ噛ムノ悔アルヘキナリ

經濟學 終

0424

法學博士　山崎覺次郎　講述

經濟學

完

法政大學發行

0425

經濟學目次

第一編　緒論……一
第一章　經濟學ノ定義……一
第一節　經濟學ナル名稱……一
第二節　定義及ヒ其說明……二
第二章　經濟學ノ分科……六
第一節　純正經濟學……六
第二節　應用經濟學……一〇
第三節　財政學……一四
第二編　財貨ノ生產……一四
第一章　生產ノ意義、種類及ヒ要素……一四
第一節　生產ノ意義……一四
第二節　生產ノ種類……一五
第三節　生產ノ要素……一六
第二章　自然……一六

0426

第一節　自然ノ意義及ヒ自然ノ狀況……一六
第二節　報酬漸減ノ法則……一九
第三章　勞働……二一
第一節　勞働ノ意義……二一
第二節　勞働ノ念慮……二三
第三節　勞働ノ能力……二四
第四節　勞働ノ分配及ヒ協同……二五
第四章　資本……三一
第一節　資本ノ意義及ヒ種類……三一
第二節　生產資本ノ必要……三五
第三節　生產資本ノ成立及ヒ增殖……三七
第四節　機械……三八
第五章　企業……四一
第一節　企業ノ意義及ヒ其必要……四一
第二節　單獨企業及ヒ共同企業……四二
第六章　土地、資本ノ私有制度……四八

第一節　所有權……四八
第二節　相續權……五三
第三編　財貨ノ交易……五三
第一章　交易及ヒ價値ノ意義……五三
第一節　交易ノ意義……五三
第二節　價値ノ意義……五六
第二章　價格……五八
第一節　需要及ヒ供給……五八
第二節　隨意ニ其數量ヲ增加シ能ハサル財貨ノ價格……六〇
第三節　生產費ヲ增加セスシテ其數量ヲ增加シ得ヘキ財貨ノ價格……六一
第四節　生產費ヲ增加スルニ非サレハ數量ヲ增加シ能ハサル財貨ノ價格……六三
第三章　貨幣……六五
第一節　貨幣ノ起源……六五
第二節　貨幣ノ職務及ヒ此職務ヲ盡スニ必要ナル條件……六八
第三節　貨幣制度……七一
第四節　貨幣ノ價格……七四

0427

第五節　「グレシャム」ノ法則……八〇
第六節　單本位制「兩本位制ノ沿革及ヒ其得失……八三
第四章　紙幣及ヒ銀行券……八八
第一節　不換紙幣……八八
第二節　兌換紙幣……九〇
第三節　銀行券……九一
第五章　信用取引及ヒ信用機關……九七
第一節　信用取引ノ意義及ヒ其種類……九七
第二節　手形……九九
第三節　銀行……一〇二
第四節　信用ノ利害……一一一
第六章　商業……一一三
第一節　商業ノ意義及ヒ其利益……一一三
第二節　內國商業ニ對スル政策……一一四
第三節　外國貿易及ヒ外國貿易ニ對スル政策……一一五
第七章　交通機關……一一九

第一節　運輸機關……一一九
第二節　通信機關……一二三
第四編　財貨ノ分配……一二四
第一章　分配ノ意義及ヒ所得ノ種類……一二四
第一節　分配ノ意義……一二四
第二節　所得ノ種類……一二六
第二章　地代……一二六
第一節　地代ノ意義及ヒ其原理……一二六
第二節　地代ノ原理ニ關スル反對ノ學說及ヒ事實……一二八
第三章　賃銀……一三〇
第一節　賃銀ノ意義……一三〇
第二節　賃銀ノ分類……一三一
第三節　賃銀ノ高低スル理由……一三三
第四節　職業ノ種類ニ依リ賃銀ニ差異アル所以……一三七
第五節　賃銀ト勞働費トノ差異……一三八
第四章　利息……一三八

0428

第一節　利息ノ意義……一三八
第二節　利息ノ高低スル理由……一四〇
第三節　利息低落ノ趨勢……一四二
第五章　利潤……一四四
第一節　利潤ノ意義……一四四
第二節　純利潤……一四五
第三節　利潤ト他ノ所得トノ關係……一四七
第五編　財貨ノ消費……一四八
第一章　消費ノ意義及ヒ種類……一四八
第一節　消費ノ意義……一四八
第二節　一家族ニ於ケル消費ノ種類……一五〇
第二章　消費ト生産トノ關係……一五一
第一節　過剰生産……一五二
第二節　恐慌……一五三
第三章　人口論……一五七
第一節　「マルサス」ノ人口論……一五七
第二節　「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之カ批評……一六〇

經濟學目次 終

0429

後見ハ被後見ニ關スル事故ニ因リ或ハ後見人ニ關スル事故ニ因リ終了ス甲ノ場合ハ一、幼者ノ死亡シタルトキ二、其成年ニ達シタルトキ三、人格減少(Capitis deminutio)是ナリ乙ノ場合ハ一、後見人ノ死亡二、人格減少三、辭任理由ノ採可サレタルトキ又ハ後見上不正ノ行アリタルヲ以テ罷免サレタルトキ是ナリ

後見終了ヲ告ケタルトキハ後見人ハ後見ニ就キタルトキ領受セル財産及ヒ後見中收入セル全額ト後見ノ爲メ有益ナリシ一切ノ支出トヲ對照シ決算セサルヘカラス若シ收入カ支出ヲ越エタルトキハ後見人ハ剩餘ニ對シ負擔者ト爲リ又必要ナル支出ノ收入ヲ超過シタルトキハ其不足ニ對シ被後見人ハ義務ヲ負フモノナリ而シテ此雙方ノ義務履行ヲ强制スル爲メニハ特別ノ訴權ヲ有シ殊ニ被後見人ハ其數種ヲ有シ最後ノ方法トシテハ損失ノ理由ヲ以テ後見人ノ認許ヲ以テ爲シタル法律行爲ノ取消ヲモ請求スルヲ得(Resitatio integram)

第二　成年女子ノ後見

男子ハ十四歳ニ達スレハ後見ハ即チ終了ヲ告クルモノトスルモ婦女子ニ於テハ其趣ヲ異ニシ成年ヲ過キ父權或ハ夫權ノ下ニ拘束セラレス所謂自權者タルモノト雖モ終身後見ニ付セラレタリ

此ノ如ク婦女ヲシテ終身法律行爲ニ對シ完全ナル自由ヲ與フルヲ欲セサリシハ抑モ如何ナル理由アルカ羅馬ノ學者ハ之ヲ辯明スルニ婦女ハ身體ノ孱弱ナル、精神ノ輕佻ナル又世上ノ事務ニ暗愚ナルヲ以テスルモ蓋シ眞正ナル趣旨ハ他ニ在リ即チ羅馬ニ於ケル親族組織及ヒ女子ノ家族内ニ於テ從屬セル地位ヨリ來リ唯リ男子ノミ家政ヲ握リ家族權ヲ取リ婦人ヲシテ殆ト自主ノ狀態ニ立タシムルヲ欲セス若

シ父權或ハ夫權ノ下ニ置カサレハ更ニ之ヲ後見ノ下ニ立タシメ終身之ヲ羈約ニ屬セシメタルモノナリ其他父ノ死後相續者タル女子カ輕忽ナル意ヲ逐ヒテ他人ニ嫁シ一家ノ財産ヲ擧ケテ夫權ノ下ニ投シ祖先ノ祭祀ヲ斷絶シ宗族カ望ヲ繫クル未必ノ相續ヲ消滅センコトヲ嫌フニ因リタルモノナリ故ニ此後見ハ古代ノ幼者後見ニ對スル精神ト同シク其趣旨トスル所ハ不能力者ノ保護ニ在ラスシテ寧ロ之ニ對スル猜疑心ヨリ來リタルモノニシテ其行爲ヲ欲束セントスルニ在リ羅馬法ノ發達セル時代ニハ婦女ノ後見ハ漸ク廢衰ニ傾キタルカ學者ハ尙ホ古代ノ理由ヲ引用シタルモ「ガイユス」ハ婦女後見ノ眞正ナル理由ヲ指示シ之ヲ以テ後見者即チ市民法ノ親族ノ爲メニ婦女ノ財産ヲ保存セシメントスルニ在リト曰ヘリ婦女後見ノ規則ハ上文ニ述ヘタル幼者後見ノ規則ニ循フヲ以テ茲ニハ唯婦女後見ニ特有ナル條規ノミヲ揭ク

婦女ノ後見ニモ亦三種アリ宗族及ヒ宗統ノ法定後見、家父ノ意思ニ因リ選任スル遺言後見及ヒ以上兩種ノ存在セサルトキ又ハ後見人ノ無能力ナルトキニ裁判官ノ指命スル後見是ナリ然レトモ遺言後見ニ於テハ後見人ヲ指定スルハ時トシテハ夫タリ或ハ夫ノ父タリ而シテ夫ハ自ラ後見人ヲ指示セシテ後見人ヲ指定スルノ權ヲ以テ婦ニ遺贈シ隨意後見人ヲ選擇セシムルコトヲ得之ヲ後見選擇(Tutoris optio)ト謂フ

法定後見ニ於テハ未成年者、盲啞者ト雖モ後見者タルヲ得加之後見者ハ第三者ニ其權ヲ讓與スルコトヲ得此場合ニ於テ第三者ノ死スルトキハ後見ハ讓與者ニ復歸スルモノトス法定後見ハ婦人ノ尤モ嫌惡スルモノナリシカ「クローヂュス」帝ハ之ヲ廢止セリ既ニ述ヘタル如ク婦人ハ信託夫權ノ方法ニ依リ隨意ニ後見人ヲ變スルヲ得ルモ此自由ハ法定後見人ニハ適用スルコト能ハサリキ

婦女後見ニハ能力補充アリテ財産管理ナシ何トナレハ成年ノ女子ハ不能力者ニ非スシテ自ラ財産ヲ理治スルノ權アリ後見人ハ唯或重大ナル行爲例ヘハ結婚、遺言、訴訟、相續、「マンシパシオ」等ニ於テノミ能力補充ヲ與フルモ而モ後見人ハ之ヲ拒ムコト能ハス若シ肯セサレハ法官ニ由リ强制セラルルヲ以テ女子後見ニ於ケル能力補充ハ單純ナル形式ニ過キス

婦女ノ後見ハ永久ニシテ其死亡又ハ他ノ權下ニ徙ルニ及ヒテ始メテ終了ス婦女後見人ノ財産上ノ任務ナキカ故ニ收支ヲ比シ決算スル理由ナシ

婦女後見ノ一旦消滅セサルヘカラサルハ羅馬ノ風俗ノ變更ニ隨ヒ免レサル所ノ運命ニシテ己ニ遺言後見ノ現ハルルト共ニ法定後見ハ一大打擊ヲ蒙リ殆ト實際ヨリ排斥セラレ「クローヂュス」帝ニ至リ全ク消失シ他ノ後見モ有名無實ノ形式ト爲リ古代之ヲ設ケタル所以ノ嚴格ナル性質ハ毫モ其形跡ヲ止メサルニ至リ遂ニ一條明文ノ法律モ之ヲ廢シタルコトヲ公示スルコトナキモ復タ人ノ之ヲ用フルナク帝政ノ末ニ當リテハ婦女後見ナルモノハ全ク存在セサリキ

第二節　財産管理(Curatio)

財産管理モ亦後見ノ如ク事實上自ラ保護スルコト能ハサル者ヲ保護スル所ノ公共的ノ負擔ナリトス然レトモ其性質及ヒ之ニ付セラルル人ニ就キテハ後見ニ異ナリ管財人ハ或ハ財産ヲ支配シ或ハ不能力者ヲ補佐スルモ能力補充ヲ與フルコトナシ財産管理ニ付セラルヘキ者ハ(一)狂者及ヒ浪費者(二)二十五年以下ノ未丁年者是ナリ

(一)　狂者及ヒ浪費者ノ財産管理人　十二銅版法ニ依レハ一切ノ狂者及ヒ浪費者ハ財産管理ニ付セラ

0431

ルルニ非ス唯狂者(Furiosi)ニシテ精神錯亂ニ發作アル者及ヒ父系尊屬ヨリ無遺言相續ニ因リテ得タル財産ヲ浪費スル者ノミ財産管理ニ付セラル此種ノ財産管理ハ古昔ヨリ傳ハリ無能力者ノ利害ヲ目的トスルニ非ス市民法上ノ親族カ相續上或有スヘキ權利ヲ保全セントスルニ在ルコト後見ニ於ケルカ如シ發狂ノ常態ニ在ル者ハ全ク法律行爲ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ之ヲ例外ニ措キ之ニ反シ時時精神錯亂ヲ來ス者ハ其健康狀態ノ如ク見ユル時ニ當リ未必相續者ニ損害ヲ與フヘキ行爲ヲ爲スコトアルヲ以テ之ヲ妨ケンカ爲メナリ浪費者ニ關シテモ等シク家族財産ヲ保全セントスルニ在ルヲ以テ浪費者ノ財産ニシテ浪費者カ自ラ之ヲ作リタルカ又ハ第三者ヨリ得タルモノナルトキハ管財人ヲ附セス蓋シ此等ノ財産ハ元來親族ノ相續分トシテ希望スヘキモノニ非サレハナリ又遺言相續ノトキニ於テモ管財人ヲ設ケサルハ家父ハ遺言ニ因リ宗族ヲ相續ヨリ遠サケシモノト看做シタレハナリ十二銅版法ノ上說セル精神ナルハ狂者及ヒ浪費者ノ管財人ヲ宗族及ヒ宗統ニ取リ其存在セサルトキハ財産管理モ亦之ヲ設定セサリシヲ以テ明知スヘシ

古代ノ狹隘ナル精神ハ其後法官(Prætor)ニ由リ變更セラレ財産管理ヲ以テ無能力者ヲ保護スル手段ト爲シ廣ク之ヲ適用シテ幣久ノ狂者、聾者、啞者及ヒ其他衰病ニ因リ自ラ資財ヲ整治スルコト能ハサル者及ヒ財産ノ由來ハ相續其他ニ在ルヲ區別セス一切ノ浪費者ニハ管財ノ制ヲ引用シ又宗族ノ有無ニ從ヘル區別ヲ廢止セリ

十二銅版法ニ從ヘハ狂者及ヒ浪費者ニ從ヒテ區別ヲ立テ狂者ニ於テハ精神錯亂ノ事實カ存スルトキハ直チニ管財人ヲ附シタリ浪費者ニ於テハ裁判官カ禁治産ヲ宣告スルヲ要シタリ而シテ此區別ハ永ク遵奉セラレ「ジュスチニアン」帝ノ時代ニ至ルモ仍ホ存在セリ

(二)　二十五年以下ノ未丁年者ノ財産管理　古昔羅馬市民法ノ峻嚴ナル十四歳ノ成年ニ達シタル者ハ之ヲ以テ十分ナル智能ノ發達ヲ得タルモノト爲シ法律上ノ行爲モ亦完全ナルモノト爲シタルカ此ノ如キ理論ノ事實ト背馳スルヤ論ヲ須タス生殖機能カ發達セルニ因リ吾人ノ生活ニ必要ナル一切ノ智識練磨カ具備セルコトハ何人モ之ヲ信セサル所ナリ羅馬ニ於テモ亦夙ニ十四歳ノ者ヲ以テ身體、精神ノ發育ヲ終リタル人ト同一視スルノ自然ニ反スルヲ覺リ種種ノ方法ニ依リ之ヲ保護セント計畫シタリ然レトモ其方法ノ變遷複雜ハ實ニ其目的ヲ達スルノ難カリシヲ示スモノニシテ羅馬人モ亦自ラ其法律ノ不完全ナルヲ言ヘリ

始メテ二十五年未滿ノ者ヲ區別シテ之ヲ保護セントシタルハ「プレトリヤ」法(Lex prætoria)ニシテ其年代ハ判明セス雖モ羅馬ノ第四世紀頃ナルヘシ此法ニ從ヘハ二十五年以下ノ者ハ其不經驗ヲ利用シ法律行爲ヲ爲シタル第三者ニ對シテ訴訟ヲ提起スルヲ得然レトモ善意ノ第三者ニ對シテハ之ヲ引用スルコト能ハサルヲ以テ二十五年以下ノ未丁年者ハ如何ニ損害ヲ受クルモ善意ノ第三者ニ對シテハ保護ヲ得ルノ途ナカリキ是ヲ以テ其後法官ハ更ニ幼者ノ不經驗ヨリ招キタル損害ヲ恢復スルカ爲メニ完全返還(Restitutio in integram)ナル訴權ヲ應用スルコトヲ許セリ抑モ此完全返還ナルモノハ一ノ宣告ニシテ裁判官ハ之ニ依リ法律上ニハ有效ナル行爲ヲ取消シ事物ヲシテ行爲前ノ狀態ニ復セシムルモノナリ法官ハ完全返還ノ特典ヲ幼者ノ爲メニ許容シ之ヲ保護スル目的ヲ遂シ得タルモ第三者ハ若シ幼者ヲ對手トセル行爲ニシテ損害ヲ與フルトキハ此方法ニ依リ全ク行爲ノ無效ニ歸セラレンコトヲ惧レ敢テ幼者ト契約スルコトヲ欲セサルニ至レリ終ニ「マルク、アウレル」(Marc Aurèle)帝ハ幼者ヲ保護スルカ爲メ二十五年ニ至ルマテ管財人ヲ設ケ一切ノ行爲ヲ輔佐セシムルヲ許セリ然レトモ此管財人ハ幼者ノ

0432

請ニ因リ任セラルルモノニシテ一切ノ幼者ハ必ス之ヲ有スルヲ要セサリシカ故ニ之ヲ請フ者ハ用意周到ナルモノニシテ自ラ損害ヲ招ク恐レ少ク之ニ反シテ之ヲ請ハサル者ハ浪費者ニシテ最モ管財人ノ必要ヲ感スル者タルノ奇怪ナル結果ヲ呈セリ

古來幼者カ法律行爲ヲ爲サントスルニ當リ第三者ハ特ニ管財人ノ任命ヲ請求スルコトヲ得ヘク其諾否ハ幼者ノ自由ナリキ其他後見ノ決算、幼者ノ負債者カ支拂ヲ爲ストキ及ヒ訴訟ノ際ニハ管財人ノ任命ヲ强フルコトヲ得タリ蓋シ此等ノ場合ニハ第三者ハ實行セサルヘカラサル義務アルカ故ニ同時ニ管財人ヲ任セシムルノ權ヲ認メタルナリ

上說セル二種ノ管財人即チ狂者及ヒ浪費者ノ管財人、二十五年以下ノ幼者ニ附スル管財人ノ外例外トシテ被後見人ニ附スルコトアリ例ヘハ後見人ノ辭任セントスルトキノ如シ

財産管理ノ結果

管財人ヲ有スル者ノ能力及ヒ管財人ノ權能ハ其種類ニ從ヒ自ラ差異ナキコト能ハス之ヲ左ニ概說セン

(一) 管財人ヲ有スル者ノ能力　狂者ニ於テハ精神錯亂時及ヒ精神爽明時ニ從ヒ全ク其趣ヲ異ニス精神錯亂時ニ於テハ才智ノ消失スルト共ニ意思亦全ク缺乏スルヲ以テ狂者カ爲シタル行爲ハ結果ノ如何ニ關セス總テ無效ナリ(管財人ハ狂者ヲ補助シテ其法律行爲ヲ有效ナラシムルコト能ハス何トナレハ精神錯亂時ニ在リテハ意思全然存在セサルヲ以テ補佐スヘキ意思ナケレハナリ蓋シ補佐ト謂フトキハ不完全ナルニモセヨ承諾ヲ與フル意思ノ存スルヲ要ス)之ニ反シテ精神爽明時ニ於テハ狂者タル所以ヲ失シ健康狀態ニ復シ其間ニ於テ爲シタル行爲ハ完全無缺ニシテ批難ヲ容ルルノ餘地ナシ此ノ如ク狂者ノ行爲ハ其精神狀態ニ從ヒテ效力ノ有無變換スルヲ以テ實際ニ於テ果シテ狂者カ法律行爲ヲ爲セシ際ニハ精神爽明ナリシヤ否ヤハ紛爭ノ原因ト爲リ之ヲ判決スルカ爲メニハ甚シキ困難ヲ感シタルナルヘシト雖モ羅馬法ハ終始上說セル規則ヲ捨テサリシカ如シ

浪費者ノ無能力ハ禁治產ノ宣告ニ始マリ其解除ノ宣告ニ至ルマテ連續シテ狂者ノ如ク間斷アルコトナシ元來浪費者ハ承諾ヲ與フヘキ意思存在スルヲ以テ管財人ノ補佐ヲ以テスルトキハ自己ノ狀態ヲ惡シカラシムルノ行爲ヲモ爲スコトヲ得又自己ノ狀態ヲ良カラシムル行爲ハ單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得

二十五歲以下ノ未丁年者ハ原則トシテハ十分ナル能力ヲ有スルヲ以テ一切ノ法律行爲即チ自己ノ狀態ヲ惡シカラシムルモノト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス然レトモ法律ハ諸種ノ方法ニ依リ幼者ヲ保護セントシタルモ皆其目的ヲ達スルコト能ハス却テ第三者ヲシテ二十五年以下ノ未丁年者ト契約スルノ危惧ヲ懷カシメ隨テ未丁年者ノ信用ヲ毀損スルニ至リタルハ既ニ上說シタル所ナリ其後更ニ皇帝ハ二十歲ヲ超過シタル者ニハ其願ニ因リ一ノ特典(Venia aetatis)ヲ與ヘテ向來獨立シタル成人トシテ其行爲ハ取消シ得サルモノトセリ

(二) 管財人ノ任務　管財人ノ職ヲ以テ二種トス第一ノ場合ニハ後見人ノ如ク財產ヲ支配シ之ニ關スル事務ヲ執ルニ在リ此財產支配ノ權ハ甚タ廣濶ニシテ土地讓與ヲ除クノ外ハ總テ之ヲ爲スコトヲ得第二ノ場合ニ於テハ未丁年者カ自ラ法律行爲ヲ爲スニ當リ其同意(Consensus)ヲ與フルニ在リ此同意ハ後見人ノ能力補充(Auctoritas)ニ比スヘキモ大ニ其趣ヲ異ニシ定式ノ語辭ヲ用ヒテ明言スルヲ要セス又管財人ハ行爲實行ノ際ニ臨席スルヲ要セス單ニ口頭或ハ文書ヲ以テ事故ノ前又ハ後ニ之ヲ發表スルヲ以テ足レリトス故ニ管財人ノ同意ハ未丁年者カ己ノ狀態ヲ惡シカラシムルヲ以テ他日第三者ニ對シ完全返還(Restitatio in integram)ヲ請求シ得ヘキ行爲ニ對シテ擔保ヲ與フルモノナリ

0433

狂者ノ管財人ハ上説セル如ク補助スヘキ意思ナキヲ以テ同意ヲ與フルコト能ハス管財人ノ職務ハ財産管理ニ止マルモ未丁年ノ管財人ニ於テハ未丁年者カ自ラ法律行爲ニ加ハルヲ要シ代表者ヲ容レサルモノノ外ハ或ハ財産管理或ハ同意ノ中其選フ所ニ任スルヲ得

財産管理ノ終了ハ或ハ管財人或ハ被管財人ノ身上ニ關スル原因ニ由ル管財人ヨリ來ル場合ハ其死亡又法定管財ニ於テハ親族權ノ喪失、管財ノ際犯セル詐欺ニ因リ免除セラルルカ如シ被管財人ヨリ來ル原因ハ其死亡、自由又ハ市權ノ喪失、養子ト爲リタルトキ其他財産管理ノ原因消失即チ狂者ノ治癒、浪費者、禁治産解除ノ宣告ノ如シ

管財人ハ後見人ノ如ク就職前爲ササルヘカラサル形式アリ殊ニ擔保ヲ提供セサルヘカラス又管財上不信切ナルモノトシテ追訟セラルルヲ得其他管財終了ノ時ニハ管財ノ清算ヲ爲ササルヘカラス其義務ヲ實行スルコト能ハサルトキハ被管財者ハ擔保者ニ對シテ賠償ヲ求ムルヲ得

第五章　人格減少 (Capitis deminutio)

實體ノ人ナルモノハ死亡ニ因リ有形上及ヒ司法上消失スルモノナルカ玆ニ所謂人格減少ナルモノニ在リテハ人ノ有形上變化ヲ想像セシテ單ニ其司法上ノ消失ヲ意味スルモノナリ

蓋シ羅馬法ニ於テ人格即チ「カピュト」(Caput)ヲ構成スル爲メニハ自由權(Libertas)市權(Civitas)親族權(Familia)ノ三元素ヲ併有セサルヘカラス一人ニシテ自由人タリ公民タリ市民法上家族タルトキハ則チ其人格ハ完全充備シタルモノナリ此三元素中自由權ハ人格ノ基礎ヲ作ルカ故ニ若シ之ナカランカ他ノ二權ヲ有スルモ人格ヲ保ツコト能ハス例ヘハ奴隸ノ如キ是ナリ之ニ反シテ市權家族權ハ存在セサルモ若シ自由權ニシテ存在スルトキハ人格ハ尚ホ不全狀態ヲ以テ存立スルモノナリ例ヘハ外邦人是ナリ

自由權、市權、家族權ノ三元素均シク皆消失スルカ或ハ其一部ノミ消滅セラルルトキハ之ヲ呼ヒテ人格減少 (Capitis deminutio) ト謂フ然ラハ人格減少ナルモノハ常ニ地位ノ失墜ヲ指スカ如キモ必スシモ然ルニ非スシテ時トシテハ法律上人格ハ或ハ減少セラレ或ハ破滅セラルルニ終ルコトアルモ又時トシテハ他ノ人格ヲ以テ代補セラレ而モ此變化ハ人格減少ヲ受ケタル者ニ佳良ノ地位ヲ得セシムルコトアリ畢竟人格減少ニ在リテハ舊身分ヲ消失シ新身分ヲ以テ之ニ代ハラシムルモノナリ通常此變化ハ人格減少ヲ受ケタル者ニ不利ナルモ時トシテ之ニ反スルノ結果ヲ生スルコトアリ「ガイユス」(Gaius) ハ人格減少ヲ以テ死亡ニ比シタルカ「アッカリアス」氏ハ此死ハ時トシテ蘇生ヲ以テ次クコトアルヲ忘ルヘカラスト曰ヘリ

上説セル理由ヨリシテ人格減少ニ三種アリ(一)最大的人格減少(Madima capitis deminutio)(二)中位的人格減少 (Media capitis deminutio)(三)最少的人格減少 (Minima capitis deminutio) 是ナリ

(一) 最大的人格減少　是レ自由人ニシテ奴隸狀態ニ陷ルトキニ生スルモノニシテ自由ノ喪失ハ司法上ノ人格ヲ破滅シ隨テ又市權、家族權ノ消失ヲモ伴フモノナリ最大的人格喪失ハ自由ノ喪失ヨリ來ルヲ以テ唯リ羅馬ノ公民ノミナラス又外邦人ニモ適用セラルル戰時捕虜ト爲リタル者ニシテ逃脫シ事後自由回復 (Postliminium) ノ原則ニ依リ自由ヲ回復セル者ハ曾テ最大的人格減少ニ罹ラサリシモノト假定セラル

(二) 中位的人格減少　若シ一定ノ原因ニ由リ自由ヲ保全スト雖モ市權ヲ喪失スル者ハ即チ中位的人

0434

格減少ニ罹ルモノナリ此種ノ人格減少ヲ生スルハ刑事上ノ宣告ニ因リ羅馬公民ノ資格ヲ剝奪セラレタルトキ其他羅馬ノ公民ニシテ殖民地ニ移住シタルトキノ如シ

(三) 最少的人格減少　此人格減少ニ於テハ自由及ヒ市權ハ之ヲ失フコトナク單ニ家族權ノ喪失ニ因ルモノニシテ法律上人格ハ破滅セラルルニ非ス寧ロ一ノ新ナル人ニ由リ代置セラルルモノナリ即チ家父或ハ家子ノ養子ト爲リタルトキ夫權ヲ伴フ結婚、認正等家族變更ノ際ニハ必ス此人格減少ヲ見ル

人格減少ノ結果

人格減少ハ獨立シタル一ノ事故ニ非ス寧ロ他ノ事故ヨリ繼發スル所ノ結果ナルヲ以テ之ヲ其原由タル事實ト混淆スヘカラス例ヘハ自由或ハ市權ノ喪失ハ人格減少ノ結果ニ非サルナリ又人格減少ト併發スル事實ヲ以テ其結果ト思考スヘカラス例ヘハ財產ノ沒收、公權ノ剝奪ハ自由及ヒ市權喪失ノ結果ニシテ人格減少ハ其原因ニ非サルナリ人格減少ノ固有ナル結果ハ一ニ最初有シタル法律上ノ人格ハ消失シ更ニ一ノ新ナル人格ヲ作ルトノ想像ヨリ來ルモノニシテ親族上ノ關係ニ於テハ所謂宗親ナルモノハ破壞セラレ宗族ノ權利義務ハ消失シ又保主ノ解放奴ニ於ケルモ亦之ト同一ニシテ其權利ヲ失ヒ又人格減少以前ニ爲シタル遺言ハ無效トシタリ然レトモ人格減少ハ法律上ノ人格ヲ破壞スルモ實體ノ人ヲ消滅セシムルニ非サルヲ以テ自然ノ親族關係即チ血族關係ハ之カ爲メニ影響ヲ蒙ルコトナシ金錢上ノ權利ニ在リテハ本來死亡ニ因リ消滅セサルヲ以テ人格減少ト共ニ破壞スルコト能ハス但終身權ト思考サルヘキモノ例ヘハ收用權ノ如キハ人格減少ニ因リ終ヲ告クルモノトス古昔ニ於テハ契約上ノ義務ハ人格減少ニ於テハ同一ナル法律上ノ人格減少又存在セサルヲ以テ義務モ亦消失スルモノト爲シタルモ此ノ如キ不正ノ結果ハ實地ニ於テハ法官ノ爲メニ矯正セラレ債權者ハ最大的及ヒ中位的人格減少ニ於テハ其相續人ニ向ヒ、最少的人格減少ニ於テハ同人ニ向ヒテ訴訟ヲ提起スルコトヲ許シタリ之ニ反シ犯罪ヨリ生スル義務ハ實體人ニ附屬スルモノトシ人格減少ニ因リ變更ヲ來スコトナシトシタリ

「ジュスチニアン」帝ハ第一、第二ノ人格減少ニ對スル結果ヲ保全セシモ第三ノ人格減少ハ家族關係ノ變更即チ宗族ヲ廢シ血族ヲ以テ其基礎ト爲シタルヲ以テ消滅ニ屬シタリ

第二編　物

物ナル字ヲ以テ指示スヘキ目的ノ範圍ハ甚タ廣濶ニシテ宇宙間ニ存スル所ノモノハ皆一箇ノ物タルヘシ例ヘハ江流、星辰皆然リトス然レトモ法學上 Res ナル文字ヲ以テ指示スル所ノ物ハ此ノ如キ茫漠タルモノニ非スシテ吾人カ一ノ財產トシテ之ヲ併有シ吾人ノ資產中ニ加算シ得ヘキモノヲ謂フ故ニ法律上ニ於テハ物ニ對スル觀念ハ或ハ其上ニ於テ、或ハ之ニ關シ人ノ有スルコトヲ得ヘキ權利ノ點ヨリ想察セルモノナリ即チ上章陳述セル人ハ權利ノ主格ト爲リ物ハ物ノ權利ノ目的ト爲ル

予ハ本編ヲ分テ二部ト爲シ先ツ資產ヲ成スヘキ權利ヲ說キ次ニ資產移轉スル相續ニ付キ陳述セントス

第一部　資產ヲ成スヘキ權利

第一章　權利

資產ヲ成スヘキ權利トハ人ノ資產ニ算セラレ金錢ヲ以テ評價セラルルコトヲ得ヘキ有價物ヲ謂フ而シテ此權利ヲ大別シテ物權(Jura in re)及ヒ債權(Obligationes)ノ二ト爲ス物權トハ直チニ物上ニ行ハル

0435

ル所ノモノニシテ直接ニ人ト物トヲ結合スルモノナリ債權トハ人ト人トヲ直接ニ連繫スル所ノモノニシテ吾人ハ此人ノ仲介ヲ經テ物ニ達スルコトヲ得

物權ニ於テハ他人ノ仲介ヲ須タス吾人ハ直接ニ物上ニ之ヲ行フヲ得ルカ故ニ吾人自己ノ意思ハ欲スル所ニ隨ヒ物ヨリ生シ得ヘキ利益ヲ收ムルニ足レリ吾人ハ物權ヲ施行スルニ當リ一般ニ他人ニ對シテ敢テ妨害ヲ試ミスシテ靜ニ物權ヲ享有セシムルコトヲ請求シ得ヘシ換言スレハ何人ト雖モ吾人ノ爲メニ一事ヲ爲スコトニ强制セラレス唯吾人ニ向ヒテ行動サルルコトヲ期スルノミ是ヲ以テ觀レハ物權ハ吾人ト物トノ間ニ存スル直接關係ニシテ此物ヨリ生スル利益ノ一部又ハ全部ヲ吾人ニ得セシメ他人ニ對シテ或行爲ヲ請求スルヲ許サス單ニ無爲ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ

債權或ハ人權ニ於テ其目的トスル所ハ亦一物ヲ取得シ吾人ハ此物ヨリ生スル利益ヲ收メントスルニ在リ然レトモ吾人ハ直接ニ物トノ關係ヲ有セサルカ故ニ吾人一己ノ作爲ヲ以テ之ヲ享有スルコト能ハスシテ吾人ハ必ス一定シタル他人ニ對シ交渉ヲ遂ケ此物ヲ交付セシメサルヘカラス是ヲ以テ之ヲ觀レハ債權ハ物權ト異ナリ常ニ二人ノ存在ヲ想察セシムルモノニシテ一方ヲ權利ノ自働主格タル債權者トシ他方ヲ權利ノ受働主格タル債務者ト爲ス而シテ債務者ハ債權者ニ對シ其權利ノ目的トシテ指定セラレタル物即チ財産ヲ得セシメサルヘカラス若シ債務者ニシテ其履行ヲ怠ルトキハ債權者ハ公權ニ依賴シテ之ヲ强制スルノ手段ヲ有ス

物權ノ性質タルヤ其主格タル人ヲ變シ甲ヨリ乙ニ移ルヲ得ヘキモ年月ヲ經過スルモ自ラ消滅スヘキモノニ非ス寧ロ永久無邊ニ渉リ存在スヘキモノニシテ就中物權ノ典型タル所有權ニ於テ此性質ヲ表彰スル之ニ反シ債權ノ性質タルヤ一定時間繼續スヘキモノニシテ決シテ無限ノ期日ニ渉リ存在スルヲ得ス一

雜錄

○大審院判例要旨

○競賣法ノ性質　訴訟手續ト非訴事件手續トハ其結局ノ目的トスル所ヲ異ニセリ前者ノ目的ハ概シテ既ニ侵害セラレ又ハ將ニ侵害セラレントスル私權ヲ保護スルニ在ルモ後者ノ目的ハ概シテ既存ノ事實關係ニ基キ私權ノ創設保存變更消滅實行等ニ干與スルニ在リ前者ハ法律ノ豫期ニ反スル事實關係ヲシテ其豫期スル關係ニ回復シ若クハ變更セシムルコトヲ目的トスルモ後者ハ既存ノ事實關係ニ基キ私法關係ノ形成私權ノ實行等ニ干與スルコトヲ目的トスルモノニシテ其之ヲ必要トスル所以ハ既存ノ事實關係ノママニテハ法律ノ要求ヲ充タスニ足ラサルニヨリ裁判所若クハ其他ノ機關ヲシテ之ニ干與シ以テ其要求ヲ充タサシムル爲メニ外ナラス而シテ其干與ヲ爲スニ付テハ必スシモ權利侵害ノ如キ法律ノ豫期ニ反スル事實關係ノ存在ヲ前提トセス從テ其關係ノ回復若クハ變更ヲ必然ノ目的トセサルナリ是レ訴訟事件ト非訴事件トヲ區別スル標準ト爲スコトヲ得ヘシ但性質上非訴事件ニ屬ス可キモノモ立法上訴訟法中ニ規定シ訴訟ノ手續ニ依ラシメタル事例ナキニ非スト雖モ此ハ是レ畢竟立法上ノ便宜ニ基キタルモノニ過キス競賣法ハ權利侵害ノ如キ法律ノ豫期ニ反スル事實關係ノ回復若クハ變更ヲ目的トスルモノニ非スシテ既存ノ事實關係ニ基キ質權抵當權等ノ實行其他民法又ハ商法ノ規定ニ依ル競賣ノ施行ヲ完結センカ爲メニ裁判所又ハ執達吏ヲシテ之ニ干與セシムルコトヲ目的トスルモノナレハ其性質上非訴事件手續法ニ屬ス（明治三十八年(ネ)第五〇五號同三十九年二月二十八日第二民事部判決）

○主タル債權讓渡ノ效力　保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ

0436

任スヘキモノニシテ即チ保證債務ハ主タル債務ト其運命ヲ共ニスヘキモノナルカ故ニ主タル債權カ讓渡セラレタル場合ニ於テハ其讓渡ノ效力ハ當然從タル債權ヲモ包含スルモノト解釋スヘキハ保證債務ノ性質上當然ノ結果ト云ハサル可ラス隨テ債權讓渡人カ民法第四百六十七條ノ規定ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上ハ縱令保證人ニ之カ通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ當然保證人ニ對シ從タル債權ノ讓渡ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノナルヤ寔ニ明カナリトス（明治三十八年（オ）第五四一一號同三十九年三月三日第一民事部判決）

○河川流水ノ使用權　兩岸ノ土地カ水流地ノ所有者ニ屬スルトキハ其所有者ハ水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得ルモ下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要スルモノトスルハ民法第二百十九條ノ規定スル所ナルノミナラス民法施行以前ニ在リテモ下流ニ於テ流水ヲ田地養水等トシテ使用スル者アル場合ニ於テハ上流ノ水流地使用者ハ漫ニ其所有地ノ下口ニ於ケル水路ヲ變シ以テ下流使用者ヲシテ流水ヲ使用スルコトヲ得サラシムルカ如キコトヲ爲スコトヲ得サルモノトスルハ本院ノ判例トシテ是認スル所ナリ故ニ本案ノ曲直ヲ判斷スルニハ必ス先ツ本訴溜池ハ上告人主張ノ如ク大谷ノ分水及ヒ小ケ谷ノ流水ノ中間ニ位シ右分水及ヒ流水ヲ引入レ之ヲ其下流ナル上告人所有田地ノ所在地ヘ流下セシムヘキ位置ニ在リテ古ヨリ溜池ニ入リタル水ハ之ヲ上告人所有田地所在地ヘ流下セシメタルモノナルヤ否ヲ判定セサル可ラサル筋合ナルニ原院ニ於テ事茲ニ出テス溜池ト田地ト其所有者ヲ異ニスル場合ニ在リテハ契約若クハ地役權ノ設定存スルニ非サレハ田地ノ所有者ハ溜池ノ水ヲ田地養用トシテ使用スルヲ得サルモノトシ上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ本論旨ノ如ク破毀ノ原由アル不法ノ判決タルヲ免レス（明治三十八年（オ）第五一一五號同三十九年四月四日第二民事部判決）

法學志林

第八卷第五號（第八十一號）
五月二十日發行
每月一回廿日發行
定價一冊拾貳錢
郵稅壹錢
十冊前金郵稅共壹圓貳拾錢

◎志林
（最近判例批評）
意思無能力者ノ隱居　法學博士　梅謙次郎
犯罪ノ觀念ヲ論ス　法學士　三潴信三
「ペッカリヤ」ノ經歷及學說　法學士　牧野英一
手形ノ經濟上ニ於ケル作用ニ就テ　法律學士　古賀廉造
法學博士　山崎覺次郎

◎法典疑錄（民法（横田法學士、掛下法律學士、梅法學博士）刑法（泉二法學士））

◎纂論（民法總則ノ價値）　法學士　乾政彥

◎判例（保險金受取人ノ保護　大審院判決例七件）　法學士　佐竹三吾

◎雜報（警視廳ノ改革○河野廣中氏等ノ無罪○司法官ノ淘汰難○登記官吏ニ對スル戒飾○掏摸ニ關スル辯論料二千五百圓○自殺ノ統計及ヒ原因○韓國警務機關ノ整理擴張○在監人副食物ノ統一○「ステッセル」軍法會議ノ公判ニ付セラルヽ○選擧ノ效力ニ關スル異議事件ノ却下○火災ノ統計○懸賞募集獸「貯金ノ勸メ」）

◎記事（○校友會關西支部總會及ヒ學術講演會○法政速成科講談會○五大學聯合懸賞大討論會○臨時學年試驗問題○法政速成科試驗問題○校友茶話會○校友會關西支部園遊會○賀美懇話會○校友三四會有志會○校友異動○訃○本誌編輯會○寄贈書目○校友住所異動）

發行所　法政大學
（電話番町一七四番）

0437

法政大學講義錄　第三十九年度　第二十二號

校外生規則摘要

一　十个月以上本大學ノ校外生タル者ニシテ本大學ニ入學スル者ハ入學金ヲ免除ス

一　講義錄ノ講習ヲ終リタル者ハ校外生修業書ヲ請求スルコトヲ得但手數料金貳拾錢ヲ納ムヘシ

一　校外生ノ講習料ハ金九圓トシ一時前納金七圓五拾錢トシ二回前納金四圓ト十五个月分納金六拾錢トス但講義錄ハ十二个月ニテ完結ス

一　講習料ヲ納付シタルトキハ講義錄ヲ郵送スルヲ以テ別ニ領收證ヲ交付セス若シ發信ノ日ヨリ二十日ヲ過キテ講義錄ノ到達セサルトキハ其旨本大學出版局ニ通知スヘシ

一　校外生ニシテ講習十个月ヲ終リタルトキハ本人ノ望ミニ依リ論文試驗及ヒ筆記試驗ヲ施行ス但時宜ニ依リ口述試驗ヲ爲ス

一　前項ノ試驗成績優等ナル者ハ本大學ノ學生又ハ聽講生ニ編入シ有志寄贈ノ奬學金ヲ以テ一學年中ノ授業料並ニ寄宿料ヲ支辨スヘシ

一　三十九年度校外生ニ付テハ三十九年八月及ヒ十二月ノ二回ニ試驗ヲ施行シ優等生ヲ選拔スヘシ

一　校外生ハ講義錄中ニ疑義アルトキハ講義ノ番號、科目、頁數及ヒ疑問ノ要點ヲ記載シ本大學編輯局ヘ宛テ郵送スヘシ

一　質疑通信ノ文意解シ難キモノ、主旨明瞭ニシテ解答ヲ要セスト認ムルモノハ解答ヲ付セス

一　質疑中有益ト認ムルモノハ之ニ解答ヲ付シ法學志林又ハ講義錄ニ登載スヘシ

（明治三十八年十一月九日第三種郵便物認可　毎月三回　五日、十五日、二十五日發行）

明治三十九年六月二日印刷
明治三十九年六月五日發行
（定價金參拾錢）

編輯兼發行者　東京市牛込區牛込北町十番地　萩原敬之

印刷者　東京市四谷區四谷左門町五十八番地　重利俊夫

印刷所　東京市芝區明舟町十一番地　金子活版所

發行所　東京市麴町區富士見町六丁目十六番地　司法省指定　法政大學
（電話番町百七拾四番）

0438